

令和元（2019）年度

栃木県政世論調査

調査報告書（概要版）

令和元（2019）年10月

栃木県

目 次

I	調査の概要	1
II	調査の結果	2
1	暮らしの変化について	
(1)	暮らしの変化	2
(1-1)	暮らしが悪くなった理由	3
(2)	暮らしの満足度	4
(3)	今後の暮らしの状況	5
(4)	今後の暮らしで力を入れる点	6
2	県政への要望について	
(1)	県政への要望	7
3	日常生活について	
(1)	文化・芸術活動について	10
(2)	スポーツ活動について	11
(3)	住んでいる地域について	12
(4)	社会貢献活動について	13
4	これからの時代への対応について	
(1)	現在の社会や今後の社会の変化で関心を持っているもの	14
(2)	「豊かさ」のイメージ	16
(3)	「住みやすさ」のイメージ	17
(4)	これからのとちぎづくりのために必要なこと	18
5	地域防災について	
(1)	災害に対する備え	20
(2)	災害の際に必要な情報について知っていること	21
(3)	防災訓練の参加状況	22
6	消費生活に関する意識について	
(1)	悪質商法の手口などの情報を知る方法	23
(2)	高齢者が悪質商法の被害に遭うことを防ぐための対策	24
(3)	消費生活問題に対する県の取組	25
7	男女平等意識について	
(1)	社会全体の中での男女の地位の平等感	26
(2)	働く場での男女の地位の平等感	27
(3)	固定的な性別役割分担意識	28
8	とちぎの元気な森づくり県民税について	
(1)	重要と考える森林の働き	29
(2)	「とちぎの元気な森づくり県民税」の取組の中で重要なもの	30

9 気候変動について	
(1) 家庭で行っている温室効果ガスの排出削減対策	31
(2) 気候変動による影響を感じる事	32
(3) 気候変動の影響による被害を回避・軽減するために実践している事	33
(4) 「COOL CHOICE」の取組の認知度	34
10 産業廃棄物処理施設について	
(1) 産業廃棄物処理施設のイメージ	35
(2) 近隣の産業廃棄物処理施設についての考え	36
(2-1) 産業廃棄物処理施設を認める条件	37
11 地域のつながり・住民同士の支え合い活動について	
(1) ご近所の方との付き合い	38
(2) 日常生活で困ったことを相談する相手	39
(3) 住民同士の支え合いが必要だと思うサービス・活動	40
12 在宅医療について	
(1) 在宅療養への考え	41
(1-1) 在宅療養実現に対する考え	42
(1-1-1) 在宅療養が難しい理由	43
(2) 人生の最終段階を迎えたときの医療やケアの希望等を事前に話し合うこと	44
13 障害者差別の解消について	
(1) 障害者から困っていることを伝えられたときやヘルプマークの携帯者を見かけたときの行動や気持ち	45
(2) 障害を理由とする差別の解消のための県の取組で知っている事	46
(3) 障害を理由とする差別の解消について理解が進んでいると感じる事	47
14 結婚や子育てに関する意識について	
(1) 晩婚化や未婚化が進んでいる理由	48
(2) ここ数年での子育てのしやすさ	49
(2-1) 子育てをしやすくするために改善すべきと思う事	50
15 食の安全・安心について	
(1) 食品の安全性に対する不安	51
(1-1) 食品の安全性について不安に思うもの	52
16 食に関する意識と実践について	
(1) 食事の際「いただきます」を言っているか	53
(2) 農業体験をした経験	54
17 犯罪と治安対策について	
(1) 県内の治安状況	55
(2) 不安を感じる犯罪	56

I 調査の概要

1 調査目的

この調査は、現在あるいは今後解決すべき課題について、県民の県政に対する意識・要望などを的確に把握し、県政施策の企画・立案及び県政執行上の参考とすることを目的とする。

2 調査項目

- | | |
|------------------------|-------------------------------|
| (1) 暮らしの変化について* | (10) 産業廃棄物処理施設について |
| (2) 県政への要望について* | (11) 地域のつながり・住民同士の支え合い活動について※ |
| (3) 日常生活について* | (12) 在宅医療について |
| (4) これからの時代への対応について | (13) 障害者差別の解消について |
| (5) 地域防災について | (14) 結婚や子育てに関する意識について |
| (6) 消費生活に関する意識について※ | (15) 食の安全・安心について |
| (7) 男女平等意識について | (16) 食に関する意識と実践について |
| (8) とちぎの元気な森づくり県民税について | (17) 犯罪と治安対策について |
| (9) 気候変動について※ | (※印は時系列調査、※印は新規調査) |

3 調査設計

- | | |
|----------|----------------------|
| (1) 調査地域 | 栃木県全域 |
| (2) 調査対象 | 満18歳以上の男女個人 |
| (3) 標本数 | 2,000 |
| (4) 抽出方法 | 層化二段無作為抽出法 |
| (5) 調査方法 | 郵送法（郵送配布－郵送回収） |
| (6) 調査時期 | 令和元（2019）年6月10日～7月2日 |

4 調査機関

株式会社エスピー研

5 回収結果

回収数（率） 1,212（60.6%）

6 報告書の見方

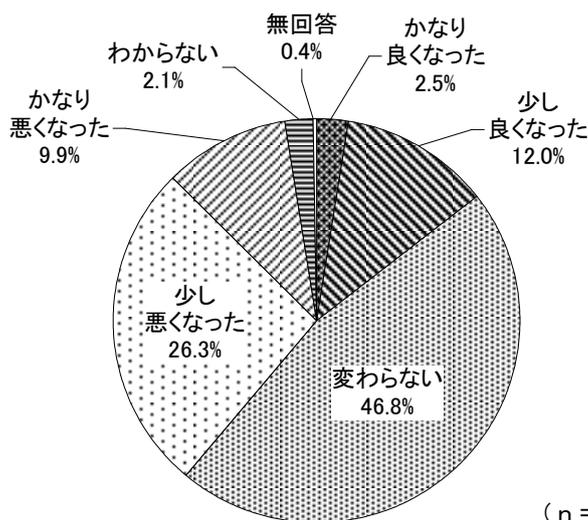
- (1) 各調査項目について、全体、性別、性／年齢別及び過去の調査結果との比較（一部項目のみ）を掲載した。
- (2) 比率はすべて百分比で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した。このために、百分比の合計が100.0%にならないことがある。
- (3) 基数となるべき実数はnとして掲載した。その比率は件数を100%として算出した。
- (4) 1人の回答者が複数回答で行う設問では、その比率の合計が100%を上回ることがある。
- (5) 図表・本文では、スペースの都合等により回答選択肢を省略して表記している場合がある。
- (6) 性／年齢別の分析の説明では、男性18～19歳の回答者は10人、女性18～19歳の回答者は11人と少ないため、他の性／年齢と比べて顕著な傾向の違いがある場合でも、一律にふれていない。

II 調査の結果

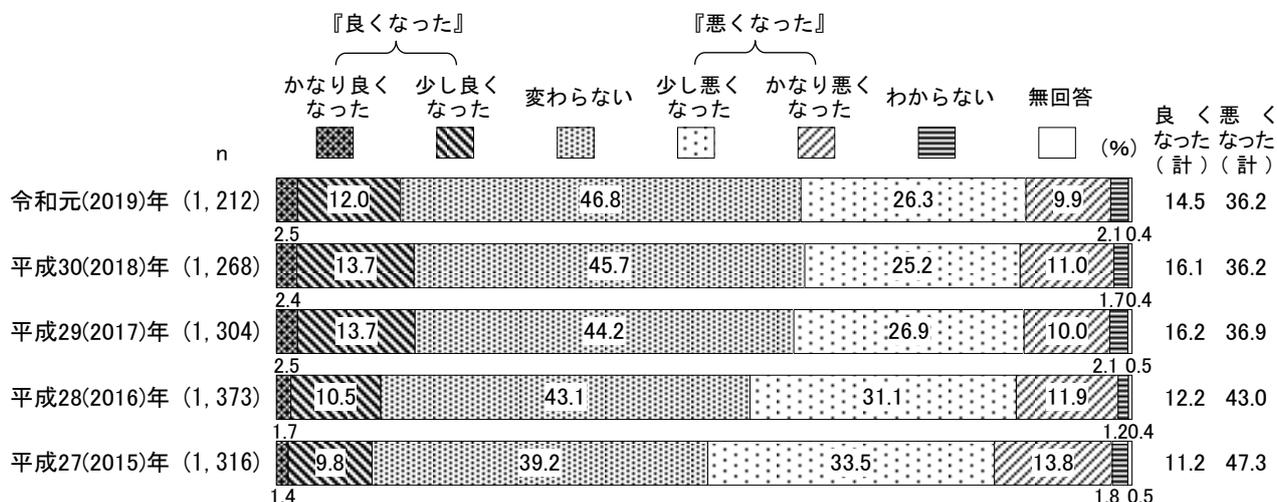
1 暮らしの変化について

(1) 暮らしの変化

問1 あなたの暮らしは、この5～6年の間にどう変わりましたか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,212]



- 全体で見ると、「かなり良くなった」(2.5%)と「少し良くなった」(12.0%)の2つを合わせた『良くなった』(14.5%)は1割半ばとなっている。一方、「少し悪くなった」(26.3%)と「かなり悪くなった」(9.9%)の2つを合わせた『悪くなった』(36.2%)は3割半ばとなっている。また、「変わらない」(46.8%)は5割近くとなっている。
- 性別で見ると、『悪くなった』では〈男性〉(37.3%)が〈女性〉(34.9%)より2.4ポイント高くなっている。
- 性/年齢別で見ると、『良くなった』では〈女性20歳代〉が28.9%、〈男性20歳代〉が23.9%、〈女性30歳代〉が23.4%と高くなっている。一方、『悪くなった』では〈男性60～64歳〉が54.2%、〈女性65～69歳〉が49.2%と高くなっている。

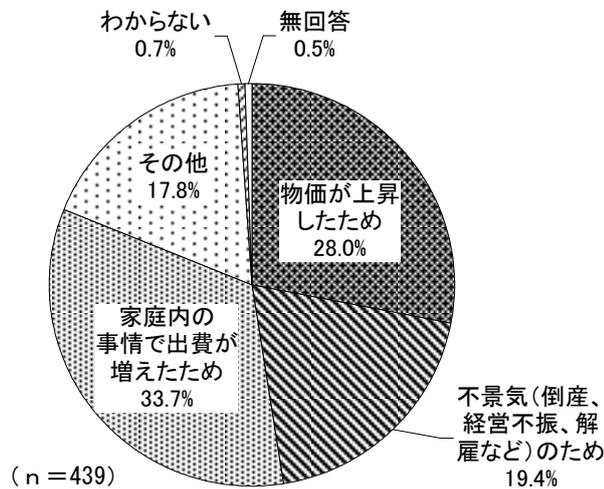


- 過去の調査結果と比較すると、平成29(2017)年以降ほぼ同じ傾向になっているが、平成28(2016)年と比較すると、『良くなった』が2.3ポイント増加し、『悪くなった』が6.8ポイント減少している。

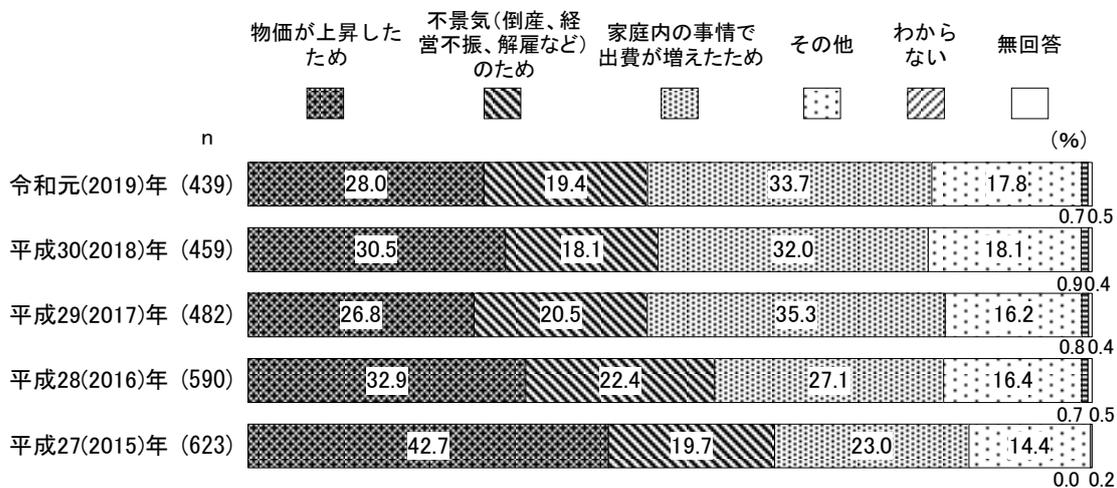
(1-1) 暮らしが悪くなった理由

(問1で選択肢「少し悪くなった」、「かなり悪くなった」を選んだ方のみお答えください)

問1-1 悪くなったのは、主にどのようなことからですか。もっとも大きな要因を1つ選んでください。 [n=439]



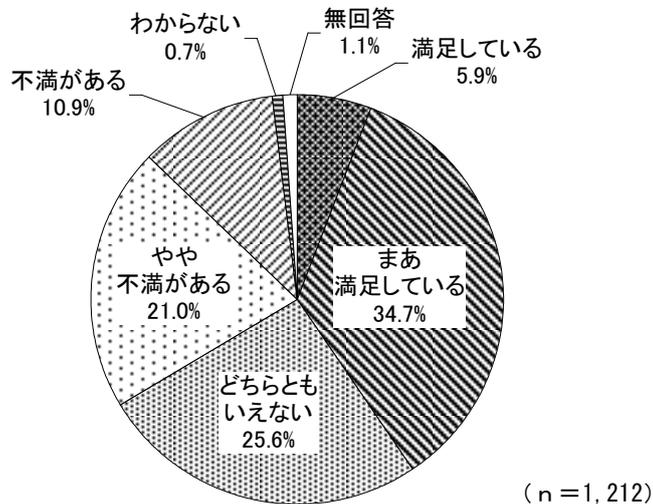
- 全体で見ると、「家庭内の事情で出費が増えたため」(33.7%)が3割を超えて最も高く、次いで「物価が上昇したため」(28.0%)、「不景気(倒産、経営不振、解雇など)のため」(19.4%)の順となっている。
- 性別で見ると、「家庭内の事情で出費が増えたため」では〈女性〉(39.9%)が〈男性〉(27.3%)より12.6ポイント高くなっている。「不景気(倒産、経営不振、解雇など)のため」では〈男性〉(21.8%)が〈女性〉(17.0%)より4.8ポイント高くなっている。「物価が上昇したため」では〈男性〉(30.1%)が〈女性〉(26.1%)より4.0ポイント高くなっている。
- 性/年齢別で見ると、「家庭内の事情で出費が増えたため」では〈女性40歳代〉が64.0%と高くなっている。「物価が上昇したため」では〈男性70歳以上〉が44.6%と高くなっている。「不景気(倒産、経営不振、解雇など)のため」では〈男性60~64歳〉が31.3%と高くなっている。



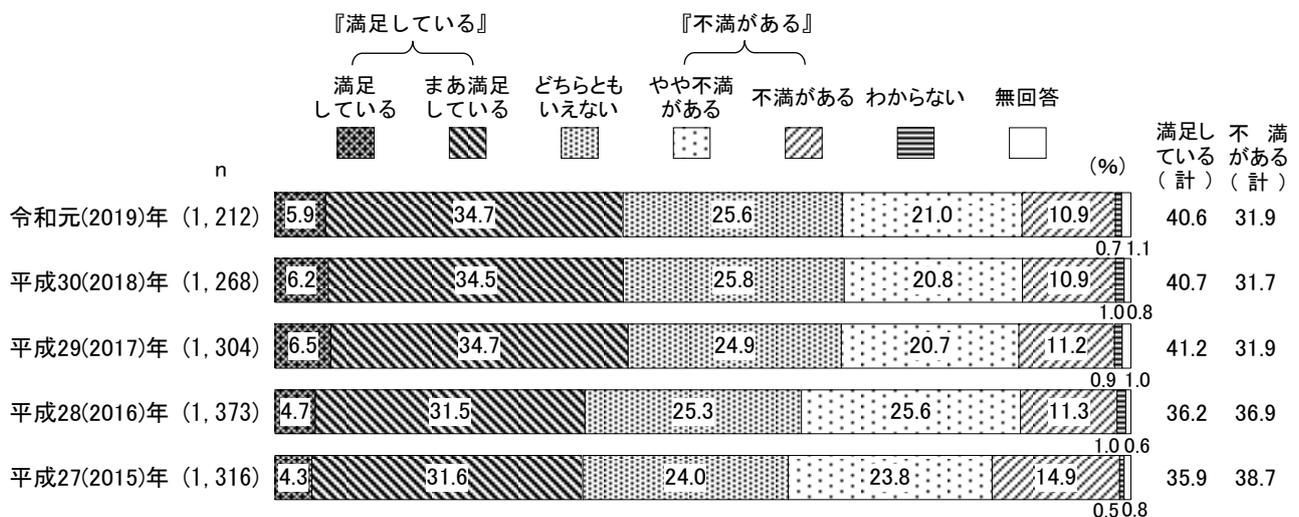
- 過去の調査結果と比較すると、「物価が上昇したため」が平成30(2018)年より2.5ポイント減少している。

(2) 暮らしの満足度

問2 あなたは、今の暮らしについてどの程度満足していますか。次の中から1つ選んでください。
[n=1,212]



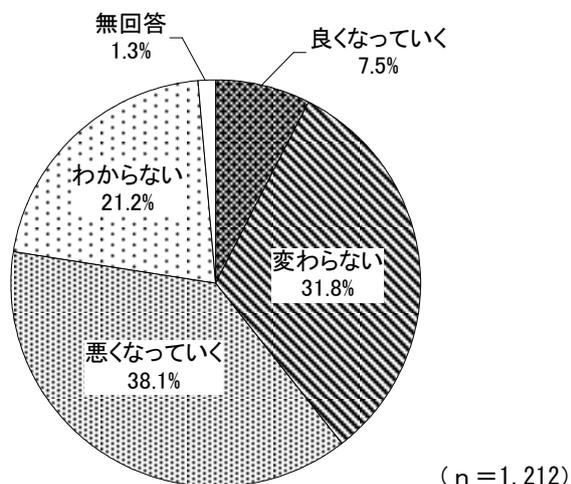
- ・全体で見ると、「満足している」(5.9%)と「まあ満足している」(34.7%)の2つを合わせた『満足している』(40.6%)はほぼ4割となっている。一方、「やや不満がある」(21.0%)と「不満がある」(10.9%)の2つを合わせた『不満がある』(31.9%)は3割を超えている。また、「どちらともいえない」(25.6%)は2割半ばとなっている。
- ・性別で見ると、『満足している』では〈女性〉(42.4%)が〈男性〉(39.3%)より3.1ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、『満足している』では〈女性20歳代〉が57.8%、〈男性20歳代〉が54.3%、〈女性30歳代〉が51.8%と高くなっている。一方、『不満がある』では〈男性60~64歳〉が49.1%、〈男性40歳代〉が43.8%と高くなっている。



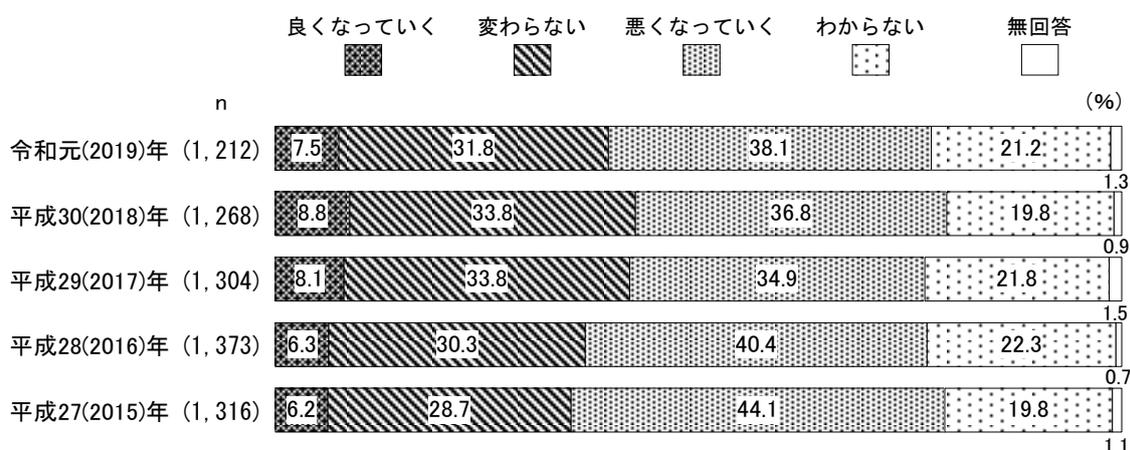
- ・過去の調査結果と比較すると、平成29(2017)年以降ほぼ同じ傾向になっているが、平成28(2016)年と比較すると、『満足している』が4.4ポイント増加し、『不満がある』が5.0ポイント減少している。

(3) 今後の暮らしの状況

問3 あなたの暮らしは、これから先どうなっていくと思いますか。次の中から1つ選んでください。
[n=1,212]



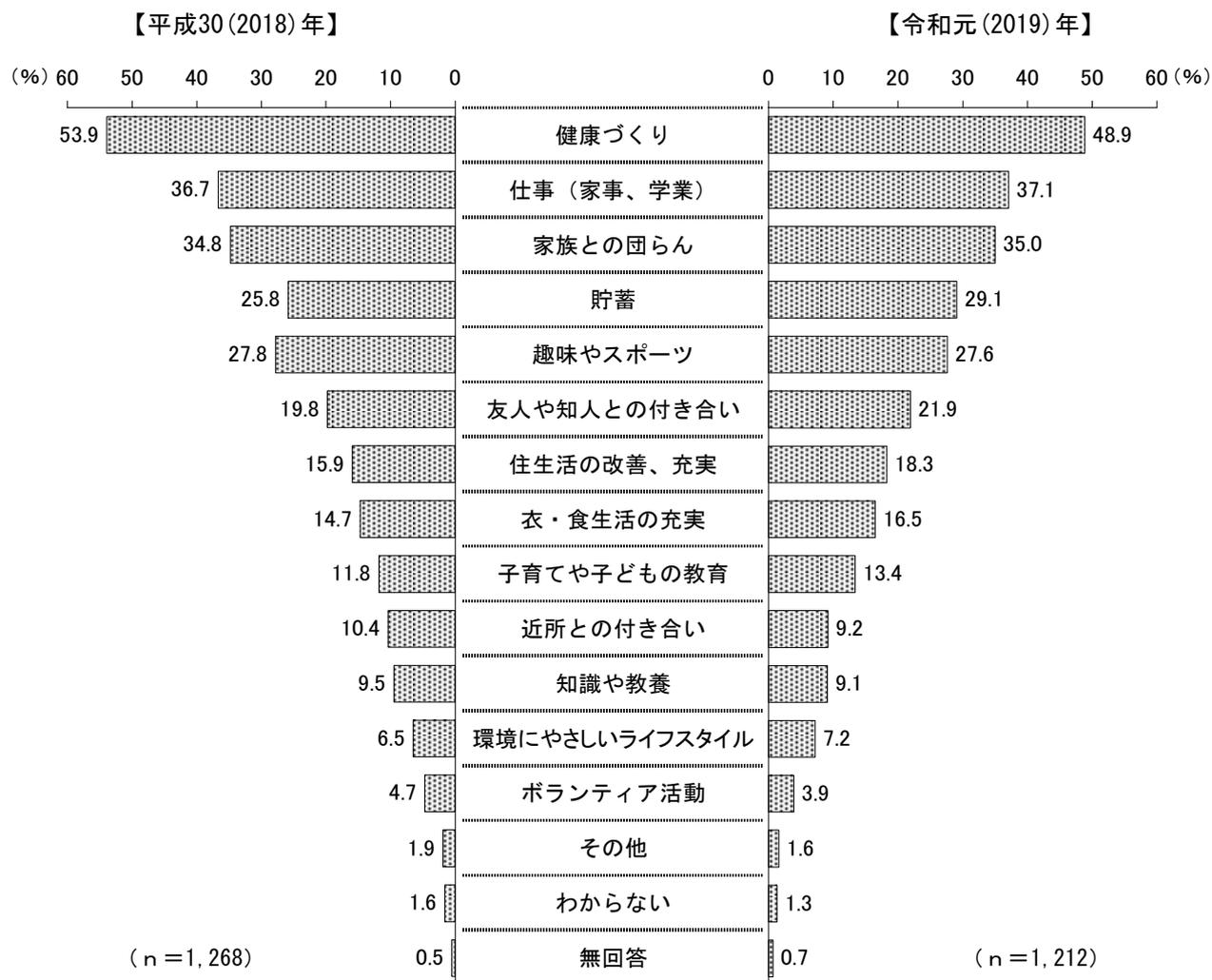
- ・全体で見ると、「良くなっていく」(7.5%)は1割近くとなっている。「変わらない」(31.8%)は3割を超えており、「悪くなっていく」(38.1%)は4割近くとなっている。
- ・性別で見ると、「悪くなっていく」では〈男性〉(43.4%)が〈女性〉(33.0%)より10.4ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「良くなっていく」では〈女性20歳代〉が26.7%、〈男性20歳代〉が26.1%と高くなっている。「変わらない」では〈男性70歳以上〉が41.3%と高くなっている。「悪くなっていく」では〈男性50歳代〉が57.0%、〈女性65～69歳〉が52.3%、〈男性65～69歳〉が51.6%と高くなっている。



- ・過去の調査結果と比較すると、「良くなっていく」が平成30(2018)年より1.3ポイント減少している。一方、「悪くなっていく」が平成30(2018)年より1.3ポイント増加している。

(4) 今後の暮らしで力を入れる点

問4 あなたは、今後の暮らしの中で、どのような点に力を入れていきたいと思いますか。
次の中から3つまで選んでください。 [n=1,212]

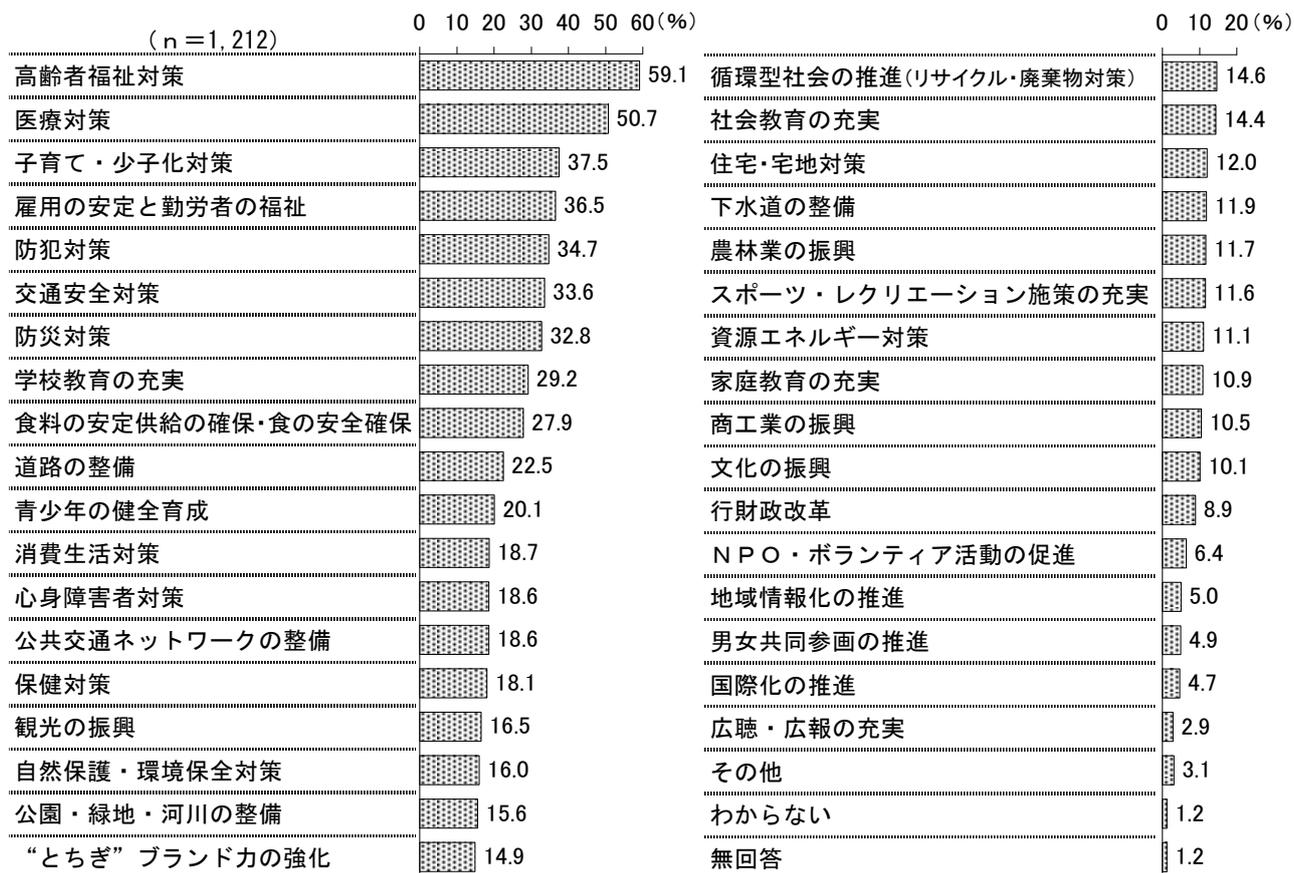


- ・全体で見ると、「健康づくり」(48.9%)が5割近くで最も高く、次いで「仕事(家事、学業)」(37.1%)、「家族との団らん」(35.0%)、「貯蓄」(29.1%)、「趣味やスポーツ」(27.6%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「趣味やスポーツ」では〈男性〉(34.9%)が〈女性〉(21.0%)より13.9ポイント高くなっている。「子育てや子どもの教育」では〈女性〉(17.3%)が〈男性〉(9.2%)より8.1ポイント高くなっている。「仕事(家事、学業)」では〈男性〉(40.0%)が〈女性〉(34.7%)より5.3ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「健康づくり」では〈女性65~69歳〉が80.0%、〈男性70歳以上〉が74.0%と高くなっている。「仕事(家事、学業)」では〈男性20歳代〉が60.9%、〈男性40歳代〉が58.4%と高くなっている。「家族との団らん」では〈男性40歳代〉が49.4%と高くなっている。「貯蓄」では〈女性20歳代〉が55.6%と高くなっている。「趣味やスポーツ」では〈男性20歳代〉が45.7%と高くなっている。「子育てや子どもの教育」では〈女性30歳代〉が56.8%、〈女性40歳代〉が37.6%と高くなっている。
- ・平成30(2018)年の調査結果と比較すると、「貯蓄」が3.3ポイント増加している。一方、「健康づくり」が5.0ポイント減少している。

2 県政への要望について

(1) 県政への要望

問5 県では、皆様のご理解とご協力を得ながら、「人も地域も真に輝く 魅力あふれる元気な “とちぎ”」をめざして様々な仕事をしています。あなたが、県政に対して、特に力を入れてほしいことは何ですか。次の中からいくつでも選んでください。 [n=1,212]



- ・全体で見ると、「高齢者福祉対策」(59.1%)がほぼ6割で最も高く、次いで「医療対策」(50.7%)、「子育て・少子化対策」(37.5%)、「雇用の安定と勤労者の福祉」(36.5%)、「防犯対策」(34.7%)、「交通安全対策」(33.6%)、「防災対策」(32.8%)、「学校教育の充実」(29.2%)、「食料の安定供給の確保・食の安全確保」(27.9%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「食料の安定供給の確保・食の安全確保」では〈女性〉(32.8%)が〈男性〉(22.3%)より10.5ポイント高くなっている。「医療対策」では〈女性〉(55.4%)が〈男性〉(45.5%)より9.9ポイント高くなっている。「雇用の安定と勤労者の福祉」では〈女性〉(40.0%)が〈男性〉(32.2%)より7.8ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「高齢者福祉対策」では〈女性70歳以上〉が79.7%、〈男性65～69歳〉が72.6%、〈男性70歳以上〉が72.0%と高くなっている。「医療対策」では〈女性50歳代〉が64.0%と高くなっている。「子育て・少子化対策」では〈女性20歳代〉が68.9%、〈女性30歳代〉が66.7%と高くなっている。「防犯対策」では〈女性30歳代〉が56.8%と高くなっている。「交通安全対策」では〈女性30歳代〉が53.1%と高くなっている。「学校教育の充実」では〈女性30歳代〉が54.3%と高くなっている。

[過去の調査結果一年齢別]

(上位5項目)

年齢	年	順位				
		1位	2位	3位	4位	5位
全体	令和元(2019)年 (n=1,212)	高齢者福祉対策 59.1%	医療対策 50.7%	子育て・少子化対策 37.5%	雇用の安定と勤労者の福祉 36.5%	防犯対策 34.7%
	平成30(2018)年 (n=1,268)	高齢者福祉対策 58.4%	医療対策 49.9%	雇用の安定と勤労者の福祉 36.7%	子育て・少子化対策 34.5%	防犯対策 30.9%
	平成29(2017)年 (n=1,304)	高齢者福祉対策 58.8%	医療対策 50.8%	雇用の安定と勤労者の福祉 37.0%	子育て・少子化対策の充実(※) 34.1%	学校教育の充実 31.1%
	平成28(2016)年 (n=1,373)	高齢者福祉対策 60.6%	医療対策 50.4%	雇用の安定と勤労者の福祉 40.9%	子育て・少子化対策の充実(※) 38.7%	防犯対策 34.2%
	平成27(2015)年 (n=1,316)	高齢者福祉対策 59.7%	医療対策 50.5%	雇用の安定と勤労者の福祉 41.7%	消費生活の安定(※) 38.5%	子育て・少子化対策の充実(※) 36.9%
20 〜 39歳	令和元(2019)年 (n=234)	子育て・少子化対策 56.4%	医療対策 49.1%	雇用の安定と勤労者の福祉 44.9%	学校教育の充実 42.3%	交通安全対策 41.5%
	平成30(2018)年 (n=229)	子育て・少子化対策 53.3%	医療対策 48.9%	雇用の安定と勤労者の福祉 46.7%	学校教育の充実 37.6%	高齢者福祉対策 37.1%
	平成29(2017)年 (n=253)	子育て・少子化対策の充実(※) 56.9%	雇用の安定と勤労者の福祉 49.8%	医療対策 46.6%	学校教育の充実 41.1%	高齢者福祉対策/ 防犯対策 34.8%
	平成28(2016)年 (n=249)	子育て・少子化対策の充実(※) 58.6%	雇用の安定と勤労者の福祉 46.2%	医療対策 45.0%	学校教育の充実 43.8%	防犯対策 36.9%
	平成27(2015)年 (n=259)	子育て・少子化対策の充実(※) 54.1%	雇用の安定と勤労者の福祉 49.8%	医療対策 45.6%	学校教育の充実 36.7%	消費生活の安定(※) 36.3%
40 〜 59歳	令和元(2019)年 (n=392)	高齢者福祉対策 54.8%	医療対策 51.8%	雇用の安定と勤労者の福祉 42.1%	子育て・少子化対策 39.0%	防犯対策 35.5%
	平成30(2018)年 (n=411)	高齢者福祉対策 57.2%	医療対策 51.3%	雇用の安定と勤労者の福祉 48.4%	子育て・少子化対策 34.3%	学校教育の充実 33.3%
	平成29(2017)年 (n=389)	高齢者福祉対策 55.8%	医療対策 55.0%	雇用の安定と勤労者の福祉 42.7%	学校教育の充実 36.5%	子育て・少子化対策の充実(※) 35.2%
	平成28(2016)年 (n=436)	高齢者福祉対策 57.3%	医療対策 51.4%	雇用の安定と勤労者の福祉 50.5%	子育て・少子化対策の充実(※) 39.7%	防犯対策 36.2%
	平成27(2015)年 (n=425)	医療対策 53.6%	高齢者福祉対策 53.2%	雇用の安定と勤労者の福祉 48.2%	子育て・少子化対策の充実(※) 37.9%	消費生活の安定(※) 36.2%
60 〜 69歳	令和元(2019)年 (n=258)	高齢者福祉対策 67.4%	医療対策 52.7%	防災対策 33.7%	子育て・少子化対策/防犯対策	32.9%
	平成30(2018)年 (n=267)	高齢者福祉対策 64.0%	医療対策 50.6%	雇用の安定と勤労者の福祉 33.3%	子育て・少子化対策 31.8%	防犯対策 29.2%
	平成29(2017)年 (n=301)	高齢者福祉対策 65.1%	医療対策 48.5%	雇用の安定と勤労者の福祉 34.9%	子育て・少子化対策の充実(※) 30.9%	食料の安定供給の確保・ 食の安全確保/防災対策 29.6%
	平成28(2016)年 (n=331)	高齢者福祉対策 69.8%	医療対策 51.4%	雇用の安定と勤労者の福祉 39.3%	子育て・少子化対策の充実(※) 36.9%	防災対策 36.6%
	平成27(2015)年 (n=325)	高齢者福祉対策 67.7%	医療対策 49.2%	雇用の安定と勤労者の福祉 39.4%	消費生活の安定(※) 38.8%	子育て・少子化対策の充実(※)/ 食料の安定供給の確保・ 食の安全確保 35.4%
70歳以上	令和元(2019)年 (n=299)	高齢者福祉対策 75.6%	医療対策 49.2%	食料の安定供給の確保・ 食の安全確保 33.4%	交通安全対策 32.4%	防犯対策 30.1%
	平成30(2018)年 (n=320)	高齢者福祉対策 71.9%	医療対策 49.1%	防犯対策 30.0%	食料の安定供給の確保・ 食の安全確保 27.2%	学校教育の充実/青少年の 健全育成 25.3%
	平成29(2017)年 (n=323)	高齢者福祉対策 78.0%	医療対策 51.7%	食料の安定供給の確保・ 食の安全確保 32.5%	交通安全対策 31.0%	防犯対策 27.9%
	平成28(2016)年 (n=333)	高齢者福祉対策 75.7%	医療対策 52.6%	食料の安定供給の確保・ 食の安全確保 35.7%	防犯対策 31.8%	防災対策 30.3%
	平成27(2015)年 (n=273)	高齢者福祉対策 82.8%	医療対策 52.7%	消費生活の安定(※) 44.0%	食料の安定供給の確保・ 食の安全確保 39.6%	防犯対策 32.2%

※「子育て・少子化対策」の選択肢は、平成29(2017)年以前では「子育て・少子化対策の充実」としていた。

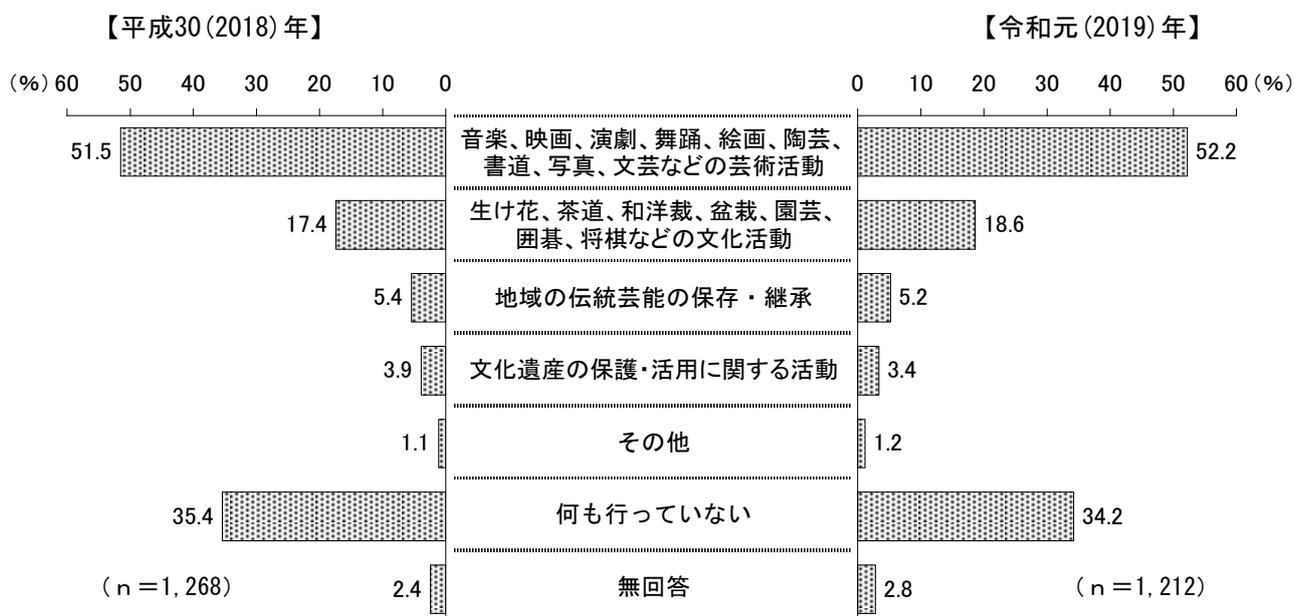
※「消費生活対策」の選択肢は、平成27(2015)年では「消費生活の安定」としていた。

- ・ 上位5項目について、全体及び4区分した年齢層別に過去の調査結果と比較すると、全体では、平成27（2015）年以降「高齢者福祉対策」が1位、「医療対策」が2位となっている。また、「子育て・少子化対策」は平成28（2016）年から平成30（2018）年まで4位であったが、今回調査では3位となっている。「雇用の安定と勤労者の福祉」は平成27（2015）年から平成30（2018年）まで3位であったが、今回調査では4位となっている。
- ・ 20～39歳では、「子育て・少子化対策」が平成27（2015）年以降1位となっている。また、平成30（2018）年に引き続き「医療対策」が2位、「雇用の安定と勤労者の福祉」が3位となっている。
- ・ 40～59歳では、平成28（2016）年以降「高齢者福祉対策」が1位、「医療対策」が2位、「雇用の安定と勤労者の福祉」が3位となっている。
- ・ 60～69歳では、平成27（2015）年以降「高齢者福祉対策」が1位、「医療対策」が2位となっている。また、平成30（2018）年で7位（27.3%）であった「防災対策」が今回調査で3位となり、平成27（2015）年から平成30（2018）年まで3位であった「雇用の安定と勤労者の福祉」が今回調査で6位（32.2%）となっている。
- ・ 70歳以上では、平成27（2015）年以降「高齢者福祉対策」が1位、「医療対策」が2位となっている。また、「食料の安定供給の確保・食の安全確保」が平成27（2015）年以降3位または4位となっている。

3 日常生活について

(1) 文化・芸術活動について

問6 あなたが日ごろ行っている文化・芸術活動（鑑賞を含む）は、どのようなものですか。
次の中からいくつでも選んでください。 [n=1,212]

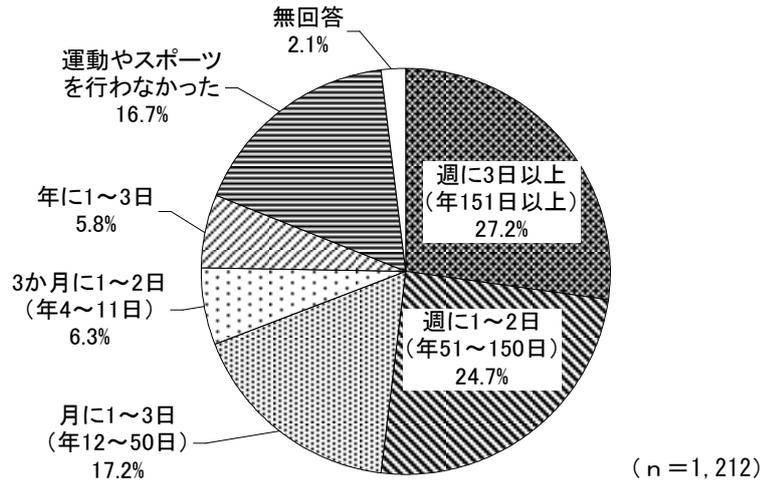


- ・全体で見ると、「音楽、映画、演劇、舞踊、絵画、陶芸、書道、写真、文芸などの芸術活動（以下『芸術活動』という。）」（52.2%）が5割を超えて最も高く、次いで「生け花、茶道、和洋裁、盆栽、園芸、囲碁、将棋などの文化活動（以下『文化活動』という。）」（18.6%）が2割近くとなっている。一方、「何も行っていない」（34.2%）は3割半ばとなっている。
- ・性別で見ると、『文化活動』では〈女性〉（23.0%）が〈男性〉（13.8%）より9.2ポイント高くなっている。「文化遺産の保護・活用に関する活動」では〈男性〉（5.9%）が〈女性〉（1.1%）より4.8ポイント高くなっている。『芸術活動』では〈女性〉（54.6%）が〈男性〉（50.2%）より4.4ポイント高くなっている。
- ・性／年齢別で見ると、『芸術活動』では〈女性20歳代〉が75.6%、〈男性20歳代〉が69.6%と高くなっている。『文化活動』では〈女性70歳以上〉が36.5%、〈女性60～64歳〉が36.1%と高くなっている。「何も行っていない」では〈男性60～64歳〉が45.8%、〈女性30歳代〉が44.4%と高くなっている。
- ・平成30（2018）年の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。

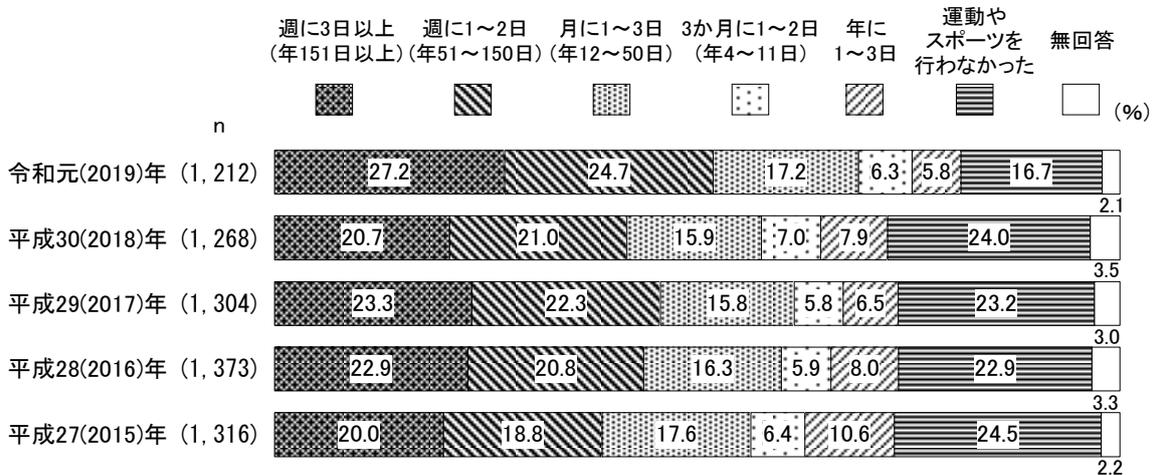
(2) スポーツ活動について

問7 あなたは、この1年間にどの程度運動やスポーツ（※）を行いましたか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,212]

※ 運動やスポーツには、ウォーキング（散歩、ぶらぶら歩き、一駅歩きなど）、階段昇降（2アップ3ダウンなど）、ジョギング、水泳、体操（ラジオ体操、エアロビクスなど）、室内運動器具を使ってする運動、レクリエーションスポーツ（フライングディスク、スポーツチャンバラなど）、ゲートボール、登山、ゴルフ、釣り、サイクリングのほか、子どもとの体を使った遊び、通勤や家事などの日常生活の中で意識的に体を動かすことなどを含みます。



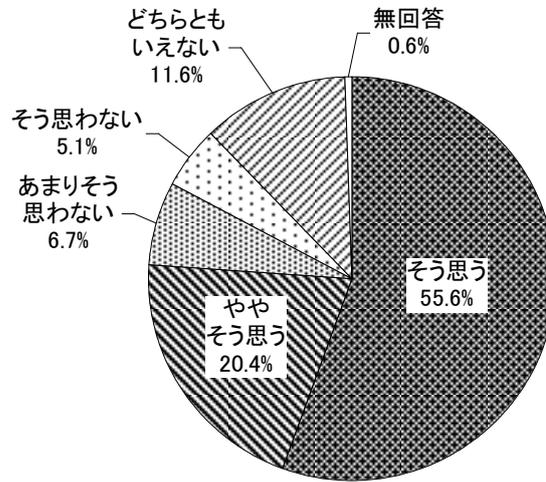
- 全体で見ると、「週に3日以上（年151日以上）」（27.2%）が3割近くで最も高く、次いで「週に1~2日（年51~150日）」（24.7%）、「月に1~3日（年12~50日）」（17.2%）の順となっている。一方、「運動やスポーツを行わなかった」（16.7%）は2割近くとなっている。
- 性別で見ると、「月に1~3日（年12~50日）」では〈男性〉（21.5%）が〈女性〉（13.3%）より8.2ポイント高くなっている。「週に3日以上（年151日以上）」では〈女性〉（29.3%）が〈男性〉（24.9%）より4.4ポイント高くなっている。
- 性/年齢別で見ると、「週に3日以上（年151日以上）」では〈女性65~69歳〉が41.5%、〈男性70歳以上〉が38.7%と高くなっている。「月に1~3日（年12~50日）」では〈男性40歳代〉が31.5%、〈男性20歳代〉が30.4%と高くなっている。「3か月に1~2日（年4~11日）」では〈男性20歳代〉が17.4%となっている。「運動やスポーツを行わなかった」では〈女性70歳以上〉が25.7%、〈男性50歳代〉が22.0%と高くなっている。



- 過去の調査結果との比較は、今回調査で、質問文中の「運動やスポーツ」の注釈（※）の文言を変更したため参考にとどまるが、「週に3日以上（年151日以上）」が平成30（2018）年より6.5ポイント、「週に1~2日（年51~150日）」が平成30（2018）年より3.7ポイント、それぞれ増加している。一方、「運動やスポーツを行わなかった」が平成30（2018）年より7.3ポイント減少している。

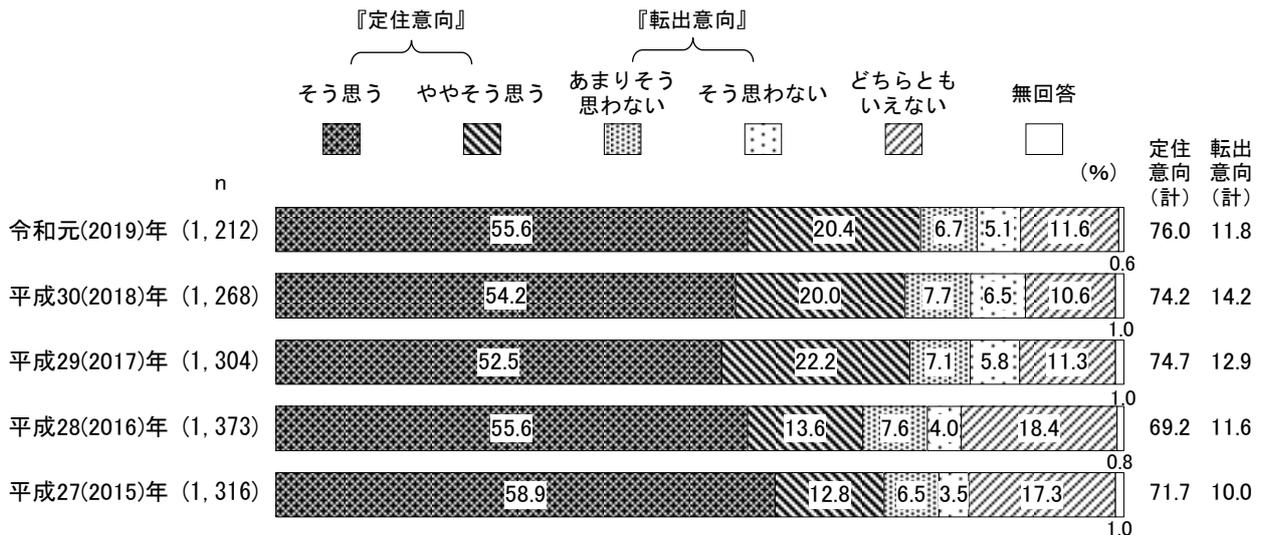
(3) 住んでいる地域について

問8 あなたは、住んでいる地域にこれからも住み続けたいと思いますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,212]



(n=1,212)

- ・全体で見ると、「そう思う」(55.6%)と「ややそう思う」(20.4%)の2つを合わせた『定住意向』(76.0%)は7割半ばとなっている。一方、「あまりそう思わない」(6.7%)と「そう思わない」(5.1%)の2つを合わせた『転出意向』(11.8%)は1割を超えている。
- ・性別で見ると、大きな傾向の違いはみられない。
- ・性/年齢別で見ると、『定住意向』では〈女性70歳以上〉が85.8%、〈男性70歳以上〉と〈女性60～64歳〉がともに84.7%と高くなっている。一方、『転出意向』では〈女性20歳代〉が17.8%、〈女性30歳代〉が17.3%となっている。

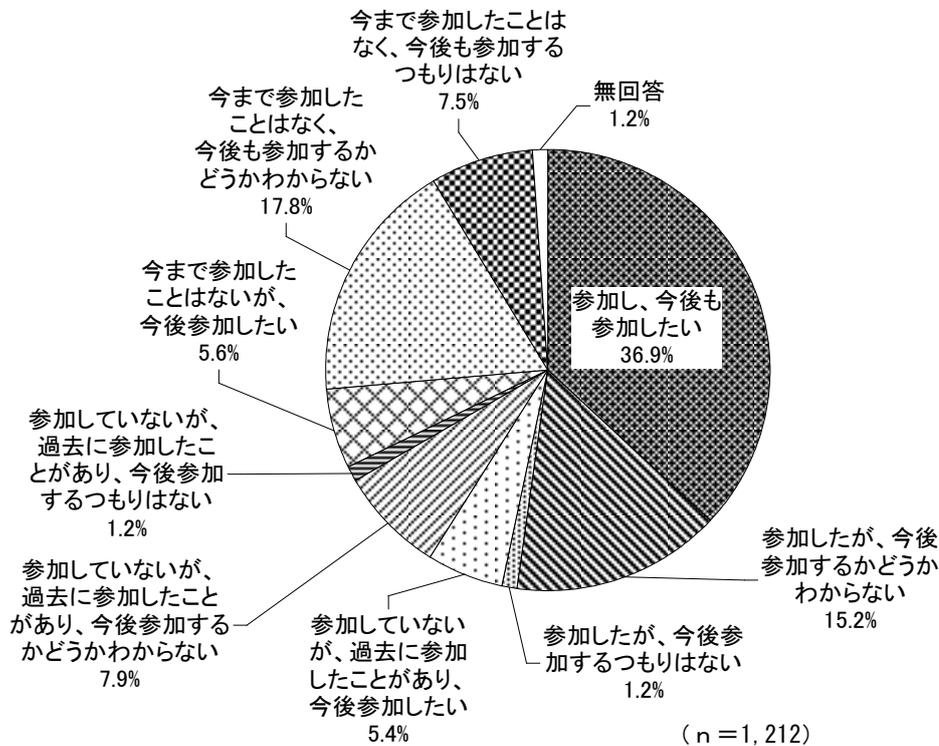


- ・過去の調査結果と比較すると、『転出意向』が平成30(2018)年より2.4ポイント減少している。

(4) 社会貢献活動について

問9 この1年間に社会貢献活動(※)に参加しましたか。また、今後参加したいと思いますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,212]

※ 社会貢献活動とは、例えば、募金、寄附、プルタブ・エコキャップなどの物品収集、公園清掃などの活動、ボランティアやNPO(非営利活動団体)活動、コミュニティ活動、自治会、育成会などの地域活動などをいいます。



・全体で見ると、「参加し、今後も参加したい」(36.9%)が4割近くで最も高く、これと「参加したが、今後参加するかどうかわからない」(15.2%)、「参加したが、今後参加するつもりはない」(1.2%)の3つを合わせた『この1年間に参加経験あり』(53.3%)は5割を超えている。

「参加していないが、過去に参加したことがあり、今後参加したい」(5.4%)と「参加していないが、過去に参加したことがあり、今後参加するかどうかわからない」(7.9%)、「参加していないが、過去に参加したことがあり、今後参加するつもりはない」(1.2%)の3つを合わせた『過去に参加経験あり』(14.5%)は1割半ばとなっている。

「今まで参加したことはないが、今後参加したい」(5.6%)と「今まで参加したことはなく、今後も参加するかどうかわからない」(17.8%)、「今まで参加したことはなく、今後も参加するつもりはない」(7.5%)の3つを合わせた『参加経験なし』(30.9%)はほぼ3割となっている。

・性別で見ると、「参加し、今後も参加したい」では〈女性〉(39.5%)が〈男性〉(34.1%)より5.4ポイント高くなっている。『参加経験なし』では〈男性〉(32.5%)が〈女性〉(29.5%)より3.0ポイント高くなっている。

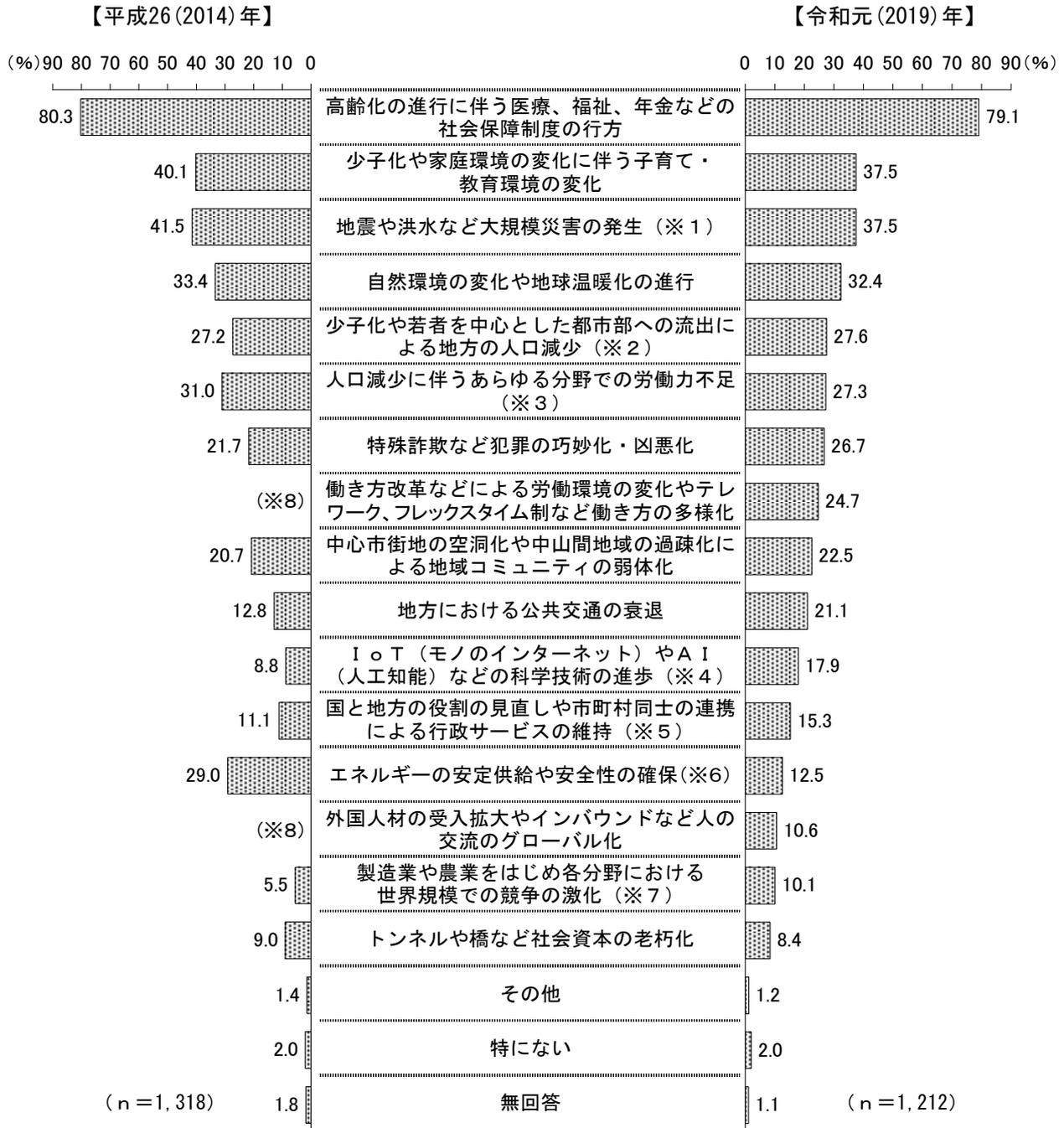
・性/年齢別で見ると、「参加し、今後も参加したい」では〈女性60~64歳〉が47.2%、〈女性50歳代〉が46.5%、〈男性65~69歳〉が45.2%と高くなっている。『参加経験なし』では〈男性30歳代〉が59.7%、〈女性20歳代〉が44.5%、〈女性30歳代〉が44.4%と高くなっている。

4 これからの時代への対応について

(1) 現在の社会や今後の社会の変化で関心を持っているもの

問10 あなたは、現在の社会や今後予想される社会の変化のうち、何に関心や懸念を持っていますか。次の中から5つまで選んでください。 [n=1,212]

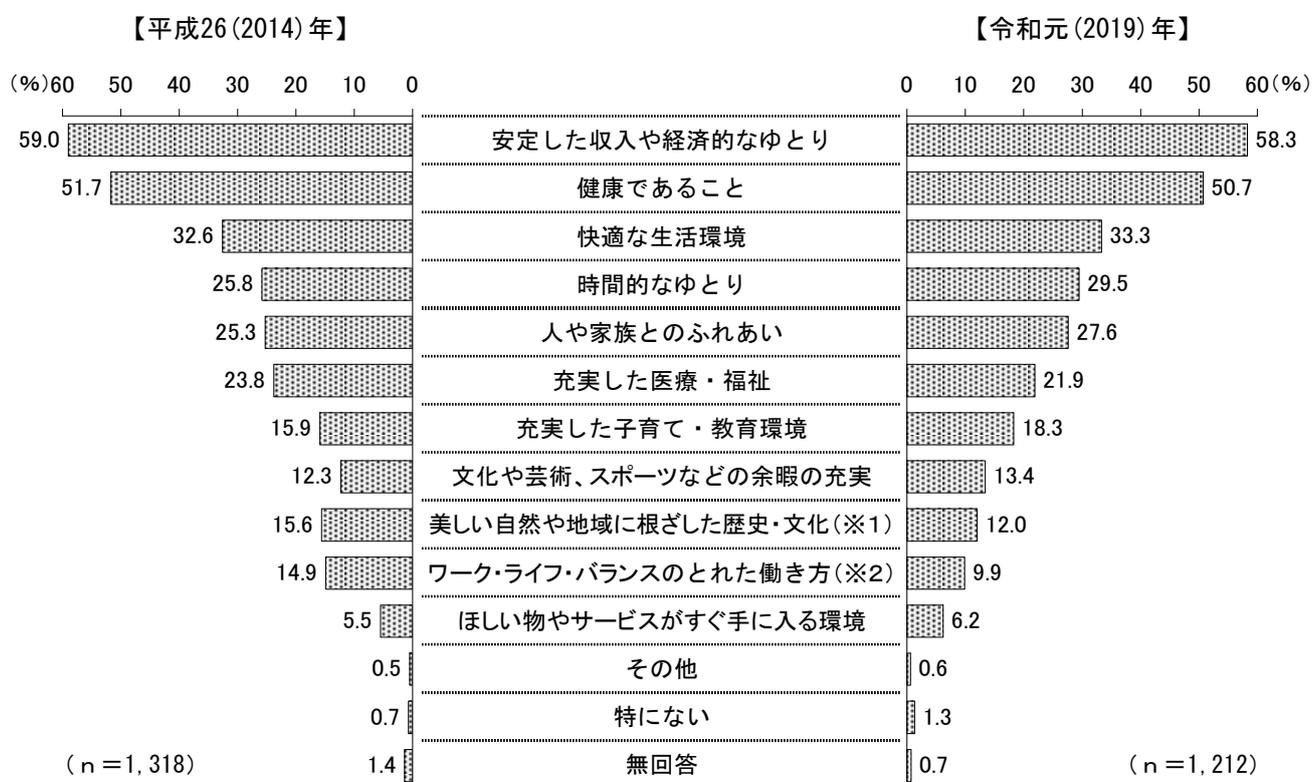
- ・全体で見ると、「高齢化の進行に伴う医療、福祉、年金などの社会保障制度の行方」(79.1%)がほぼ8割で最も高く、次いで「少子化や家庭環境の変化に伴う子育て・教育環境の変化」(37.5%)、「地震や洪水など大規模災害の発生」(37.5%)、「自然環境の変化や地球温暖化の進行」(32.4%)、「少子化や若者を中心とした都市部への流出による地方の人口減少」(27.6%)、「人口減少に伴うあらゆる分野での労働力不足」(27.3%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「地震や洪水など大規模災害の発生」では〈女性〉(42.9%)が〈男性〉(32.0%)より10.9ポイント高くなっている。「少子化や若者を中心とした都市部への流出による地方の人口減少」では〈男性〉(32.9%)が〈女性〉(22.9%)より10.0ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「少子化や家庭環境の変化に伴う子育て・教育環境の変化」では〈女性30歳代〉が65.4%、〈女性20歳代〉が62.2%と高くなっている。「地震や洪水など大規模災害の発生」では〈男性65～69歳〉が53.2%と高くなっている。「自然環境の変化や地球温暖化の進行」では〈女性65～69歳〉が50.8%と高くなっている。「働き方改革などによる労働環境の変化やテレワーク、フレックスタイム制など働き方の多様化」では〈女性20歳代〉が53.3%、〈女性30歳代〉が50.6%と高くなっている。
- ・平成26(2014)年の調査結果との比較は、選択肢の文言の変更・追加があるため参考にとどまるが、「高齢化の進行に伴う医療、福祉、年金などの社会保障制度の行方」が最も高く、次いで「少子化や家庭環境の変化に伴う子育て・教育環境の変化」と「地震や洪水など大規模災害の発生」の2項目が2位または3位となっている傾向に変化はみられない。



- (※1) 「地震や洪水など大規模災害の発生」は、平成26(2014)年調査では「地震など大規模災害の発生」としていた。
- (※2) 「少子化や若者を中心とした都市部への流出による地方の人口減少」は、平成26(2014)年調査では「少子化や若者の都市部への流出による地方の人口の減少」としていた。
- (※3) 「人口減少に伴うあらゆる分野での労働力不足」は、平成26(2014)年調査では「高齢化の進行に伴う働き手の減少」としていた。
- (※4) 「I o T (モノのインターネット) やA I (人工知能) などの科学技術の進歩」は、平成26(2014)年調査では「インターネットなど、ネットワーク化の進展や情報通信分野における技術革新」としていた。
- (※5) 「国と地方の役割の見直しや市町村同士の連携による行政サービスの維持」は、平成26(2014)年調査では「地方分権改革など、国と地方の行政の仕組みの見直し」としていた。
- (※6) 「エネルギーの安定供給や安全性の確保」は、平成26(2014)年調査では「電気やエネルギーの安定供給や安全性の確保」としていた。
- (※7) 「製造業や農業をはじめ各分野における世界規模での競争の激化」は、平成26(2014)年調査では「世界規模での人の交流や産業分野の競争の激化」としていた。
- (※8) 「働き方改革などによる労働環境の変化やテレワーク、フレックスタイム制など働き方の多様化」と「外国人材の受入拡大やインバウンドなど人の交流のグローバル化」は、今回調査で追加した選択肢である。

(2) 「豊かさ」のイメージ

問11 あなたは、「豊かさ」という言葉から、どのようなことをイメージしますか。次の中から3つまで選んでください。 [n = 1, 212]



(※1) 「美しい自然や地域に根ざした歴史・文化」は、平成26(2014)年調査では「豊かな自然」としていた。
 (※2) 「ワーク・ライフ・バランスのとれた働き方」は、平成26(2014)年調査では「生きがいを感じられる多様な雇用環境」としていた。

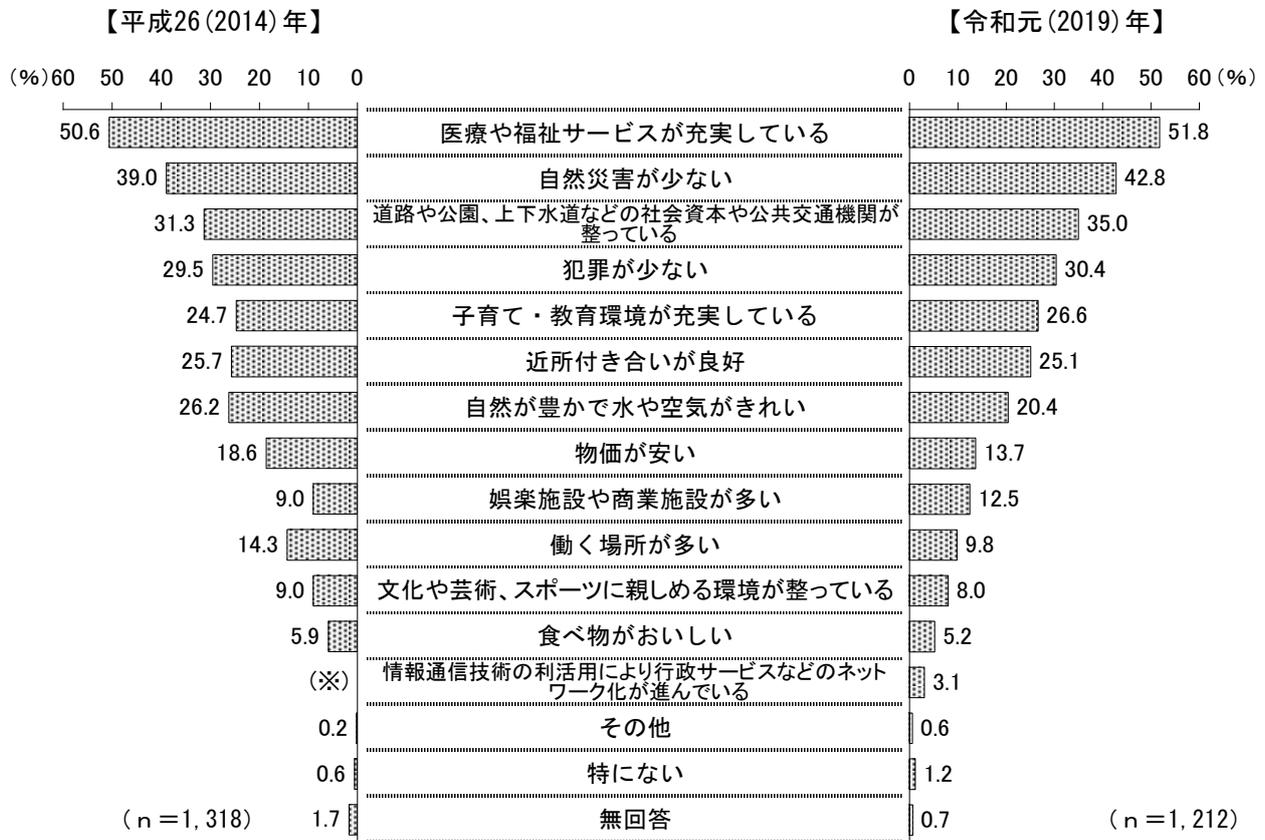
- ・全体で見ると、「安定した収入や経済的なゆとり」(58.3%)が6割近くで最も高く、次いで「健康であること」(50.7%)、「快適な生活環境」(33.3%)、「時間的なゆとり」(29.5%)、「人や家族とのふれあい」(27.6%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「時間的なゆとり」では〈男性〉(33.2%)が〈女性〉(26.2%)より7.0ポイント高くなっている。「充実した子育て・教育環境」では〈女性〉(20.8%)が〈男性〉(15.7%)より5.1ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「安定した収入や経済的なゆとり」では〈男性50歳代〉が73.0%、〈女性30歳代〉が71.6%と高くなっている。「健康であること」では〈女性70歳以上〉が73.0%、〈男性70歳以上〉が70.7%と高くなっている。「時間的なゆとり」では〈男性40歳代〉が42.7%、〈男性20歳代〉が41.3%と高くなっている。「充実した医療・福祉」では〈女性70歳以上〉が39.2%、〈女性65~69歳〉が35.4%と高くなっている。「充実した子育て・教育環境」では〈女性20歳代〉が42.2%と高くなっている。
- ・平成26(2014)年の調査結果との比較は、選択肢の文言の変更があるため参考にとどまるが、「時間的なゆとり」が3.7ポイント増加している。

(3) 「住みやすさ」のイメージ

問12 あなたは、「住みやすさ」という言葉から、どのようなことをイメージしますか。

次の中から3つまで選んでください。

[n = 1, 212]



(※) 「情報通信技術の活用により行政サービスなどのネットワーク化が進んでいる」は、今回調査で追加した選択肢である。

- ・全体で見ると、「医療や福祉サービスが充実している」(51.8%)が5割を超えて最も高く、次いで「自然災害が少ない」(42.8%)、「道路や公園、上下水道などの社会資本や公共交通機関が整っている」(35.0%)、「犯罪が少ない」(30.4%)、「子育て・教育環境が充実している」(26.6%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「娯楽施設や商業施設が多い」では〈男性〉(15.9%)が〈女性〉(9.4%)より6.5ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「自然災害が少ない」では〈男性65～69歳〉が62.9%、〈女性70歳以上〉が57.4%と高くなっている。「道路や公園、上下水道などの社会資本や公共交通機関が整っている」では〈男性20歳代〉が50.0%と高くなっている。「子育て・教育環境が充実している」では〈女性30歳代〉が56.8%、〈女性20歳代〉が46.7%と高くなっている。「近所付き合いが良好」では〈女性70歳以上〉が40.5%、〈男性65～69歳〉が37.1%と高くなっている。「娯楽施設や商業施設が多い」では〈男性30歳代〉が30.6%、〈男性20歳代〉が30.4%と高くなっている。
- ・平成26(2014)年の調査結果との比較は、選択肢の追加があるため参考にとどまるが、「自然が豊かで水や空気がきれい」が5.8ポイント、「物価が安い」が4.9ポイント、「働く場所が多い」が4.5ポイント、それぞれ減少している。

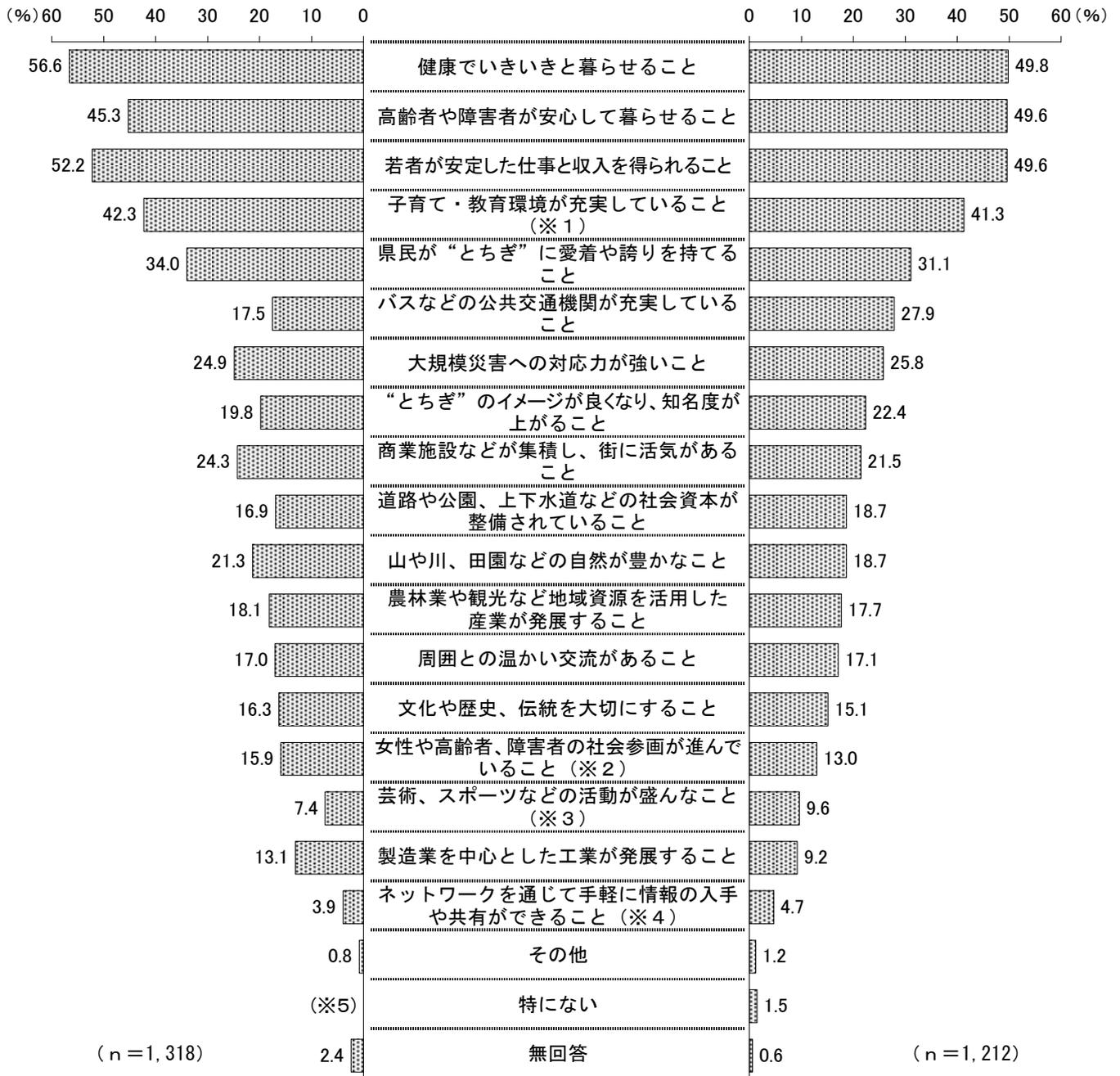
(4) これからのとちぎづくりのために必要なこと

問13 あなたは、これからのとちぎづくりのためには、どのようなことが必要だと思いますか。
次の中から5つまで選んでください。 [n=1,212]

- ・全体で見ると、「健康でいきいきと暮らせること」(49.8%)、「高齢者や障害者が安心して暮らせること」(49.6%)、「若者が安定した仕事と収入を得られること」(49.6%)の3つがいずれも5割で高く、次いで「子育て・教育環境が充実していること」(41.3%)、「県民が“とちぎ”に愛着や誇りを持つこと」(31.1%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「バスなどの公共交通機関が充実していること」では〈女性〉(31.8%)が〈男性〉(23.7%)より8.1ポイント高くなっている。「道路や公園、上下水道などの社会資本が整備されていること」では〈男性〉(22.5%)が〈女性〉(15.0%)より7.5ポイント高くなっている。「子育て・教育環境が充実していること」では〈女性〉(45.1%)が〈男性〉(37.7%)より7.4ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「健康でいきいきと暮らせること」では〈女性60～64歳〉が66.7%、〈男性70歳以上〉が62.7%と高くなっている。「高齢者や障害者が安心して暮らせること」では〈女性70歳以上〉が69.6%と高くなっている。「子育て・教育環境が充実していること」では〈女性30歳代〉が63.0%、〈女性20歳代〉が60.0%と高くなっている。
- ・平成26(2014)年の調査結果との比較は、選択肢の文言の変更・追加があるため参考にとどまるが、「バスなどの公共交通機関が充実していること」が10.4ポイント、「高齢者や障害者が安心して暮らせること」が4.3ポイント、それぞれ増加している。一方、「健康でいきいきと暮らせること」が6.8ポイント、「製造業を中心とした工業が発展すること」が3.9ポイント、それぞれ減少している。

【平成26(2014)年】

【令和元(2019)年】



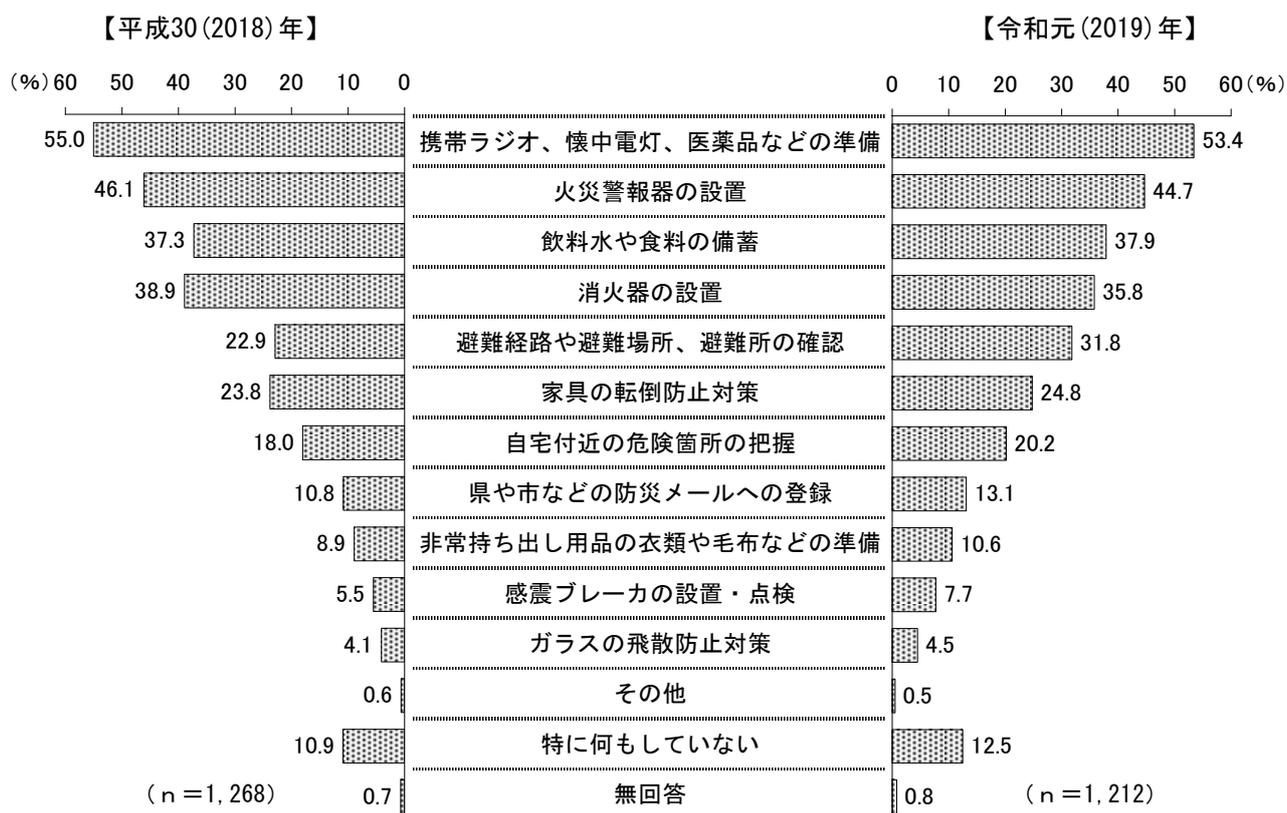
- (※1) 「子育て・教育環境が充実していること」は、平成26(2014)年調査では「子育て・教育環境が整っていること」としていた。
- (※2) 「女性や高齢者、障害者の社会参画が進んでいること」は、平成26(2014)年調査では「女性や高齢者が能力を發揮できること」としていた。
- (※3) 「芸術、スポーツなどの活動が盛んなこと」は、平成26(2014)年調査では「スポーツやレクリエーションの場が充実していること」としていた。
- (※4) 「ネットワークを通じて手軽に情報の入手や共有ができること」は、平成26(2014)年調査では「様々な情報を手軽に入手できること」としていた。
- (※5) 「特にない」は、今回調査で追加した選択肢である。

5 地域防災について

(1) 災害に対する備え

問14 あなたの家庭では、災害に対してどのような備えをしていますか。次の中からいくつでも選んでください。 [n=1,212]

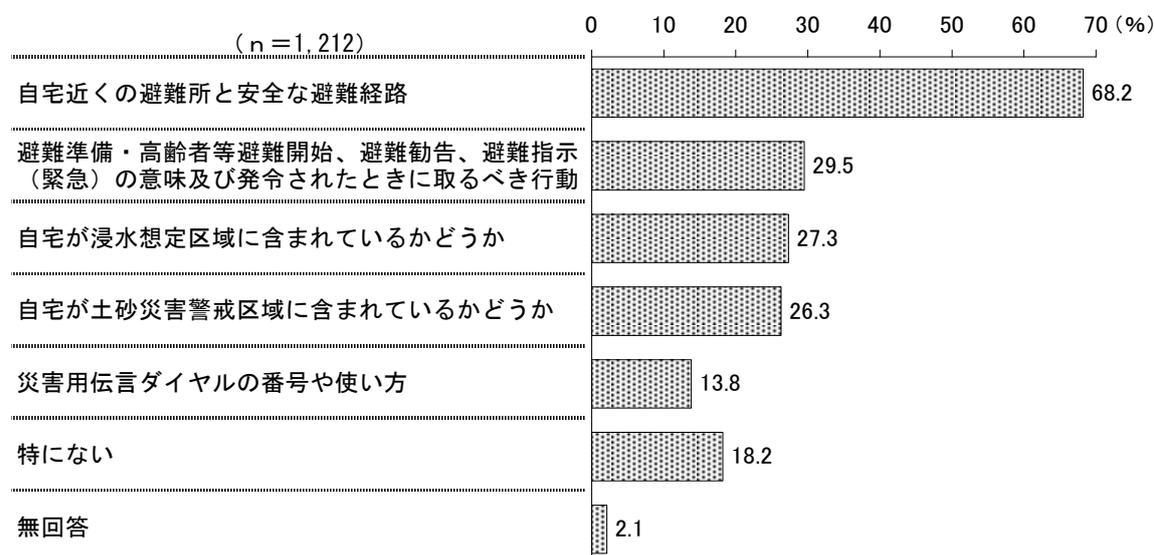
※ 感震ブレーカとは、地震の揺れをセンサーが感知し、あらかじめ設定しておいた震度以上の場合に、配線用ブレーカ又は漏電ブレーカなどを遮断する器具をいいます。



- ・全体で見ると、「携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などの準備」(53.4%)が5割を超えて最も高く、次いで「火災警報器の設置」(44.7%)、「飲料水や食料の備蓄」(37.9%)、「消火器の設置」(35.8%)、「避難経路や避難場所、避難所の確認」(31.8%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などの準備」では〈女性〉(56.5%)が〈男性〉(50.5%)より6.0ポイント高くなっている。「自宅付近の危険箇所の把握」では〈男性〉(23.4%)が〈女性〉(17.4%)より6.0ポイント高くなっている。「飲料水や食料の備蓄」では〈女性〉(40.3%)が〈男性〉(35.3%)より5.0ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などの準備」では〈女性70歳以上〉が73.6%、〈女性65～69歳〉が70.8%と高くなっている。「火災警報器の設置」では〈男性65～69歳〉が58.1%と高くなっている。「消火器の設置」では〈男性60～64歳〉が50.8%、〈女性60～64歳〉が50.0%と高くなっている。「避難経路や避難場所、避難所の確認」では〈男性65～69歳〉が43.5%、〈女性65～69歳〉が41.5%と高くなっている。「自宅付近の危険箇所の把握」では〈男性70歳以上〉が32.7%、〈男性65～69歳〉が30.6%と高くなっている。
- ・平成30(2018)年の調査結果と比較すると、「避難経路や避難場所、避難所の確認」が8.9ポイント増加している。一方、「消火器の設置」が3.1ポイント減少している。

(2) 災害の際に必要な情報について知っていること

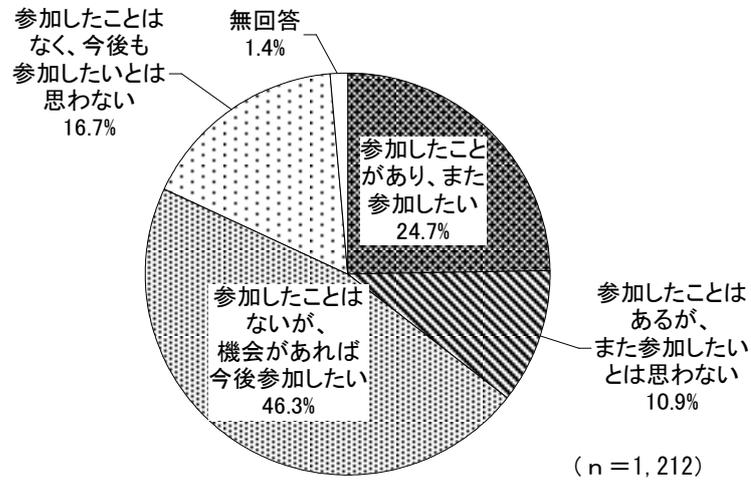
問15 あなたは、災害の際に必要な情報について、どのようなことを知っていますか。
次の中からいくつでも選んでください。 [n=1,212]



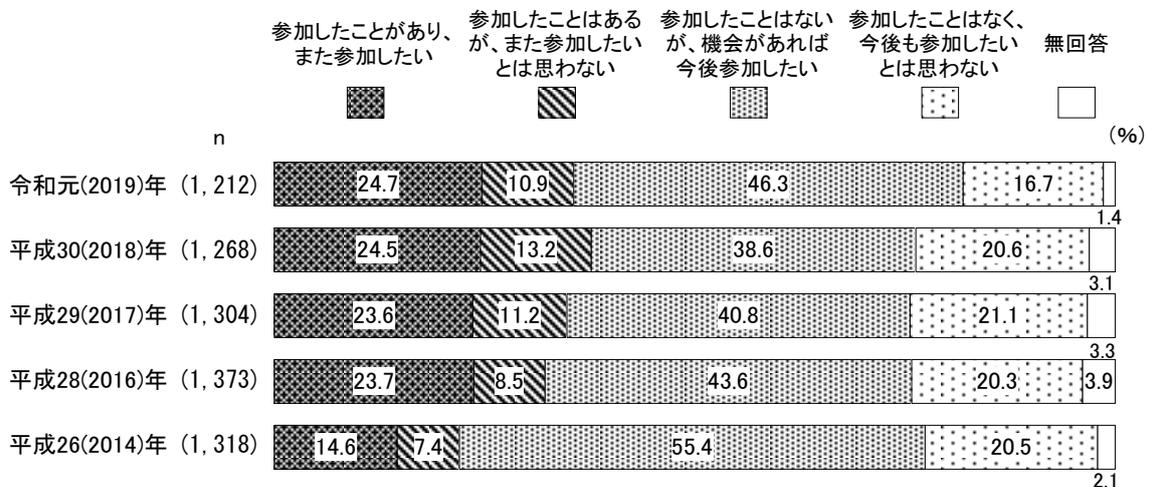
- ・全体で見ると、「自宅近くの避難所と安全な避難経路」(68.2%)が7割近くで最も高く、次いで「避難準備・高齢者等避難開始、避難勧告、避難指示(緊急)の意味及び発令されたとき取るべき行動」(29.5%)、「自宅が浸水想定区域に含まれているかどうか」(27.3%)、「自宅が土砂災害警戒区域に含まれているかどうか」(26.3%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「自宅が土砂災害警戒区域に含まれているかどうか」では〈男性〉(29.4%)が〈女性〉(23.8%)より5.6ポイント高くなっている。「避難準備・高齢者等避難開始、避難勧告、避難指示(緊急)の意味及び発令されたとき取るべき行動」では〈男性〉(32.2%)が〈女性〉(27.2%)より5.0ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「自宅近くの避難所と安全な避難経路」では〈女性65～69歳〉が78.5%と高くなっている。「避難準備・高齢者等避難開始、避難勧告、避難指示(緊急)の意味及び発令されたとき取るべき行動」では〈男性65～69歳〉が40.3%、〈男性70歳以上〉が40.0%と高くなっている。「自宅が浸水想定区域に含まれているかどうか」では〈男性40歳代〉が42.7%、〈女性65～69歳〉が38.5%と高くなっている。「自宅が土砂災害警戒区域に含まれているかどうか」では〈男性40歳代〉が39.3%と高くなっている。

(3) 防災訓練の参加状況

問16 あなたは、県や市町、自治会、企業などが行っている防災訓練に参加したことがありますか。また、今後参加したいと思いますか。次の中から1つ選んでください。[n=1,212]



- ・全体で見ると、「参加したことがあります、また参加したい」(24.7%)は2割半ばとなっている。「参加したことはないが、機会があれば今後参加したい」(46.3%)は4割半ばで、「参加したことはなく、今後参加したいとは思わない」(16.7%)は2割近くとなっている。
- ・性別で見ると、「参加したことはないが、機会があれば今後参加したい」では〈女性〉(51.7%)が〈男性〉(40.5%)より11.2ポイント高くなっている。「参加したことがあります、また参加したい」では〈男性〉(27.9%)が〈女性〉(21.9%)より6.0ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「参加したことがあります、また参加したい」では〈男性65～69歳〉が41.9%、〈男性50歳代〉が35.0%と高くなっている。「参加したことはないが、機会があれば今後参加したい」では〈女性40歳代〉が58.1%、〈女性20歳代〉が55.6%と高くなっている。「参加したことはなく、今後参加したいとは思わない」では〈男性30歳代〉が33.9%、〈男性20歳代〉が28.3%と高くなっている。



- ・過去の調査結果と比較すると、「参加したことはないが、機会があれば今後参加したい」が平成30(2018)年より7.7ポイント増加している。一方、「参加したことはなく、今後参加したいとは思わない」が平成30(2018)年より3.9ポイント減少している。

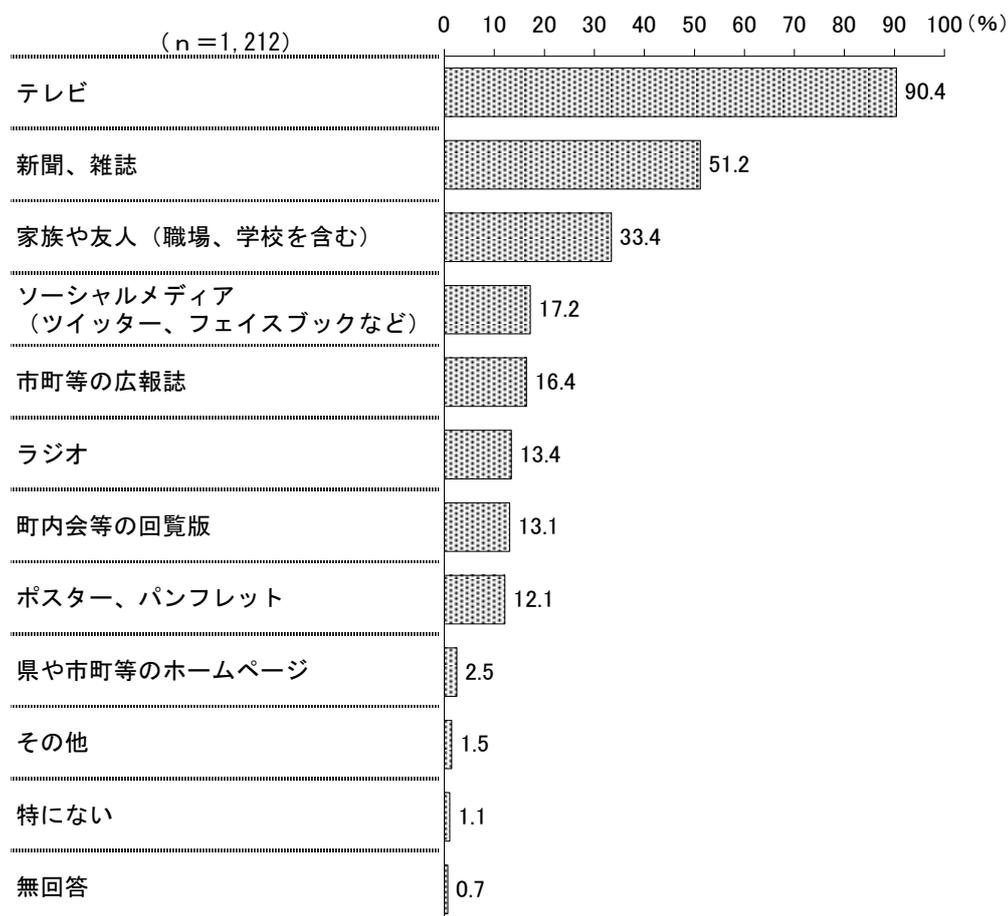
6 消費生活に関する意識について

(1) 悪質商法の手口などの情報を知る方法

問17 あなたは、悪質商法の手口などの情報を、どのような方法で知りますか。

次の中から3つまで選んでください。

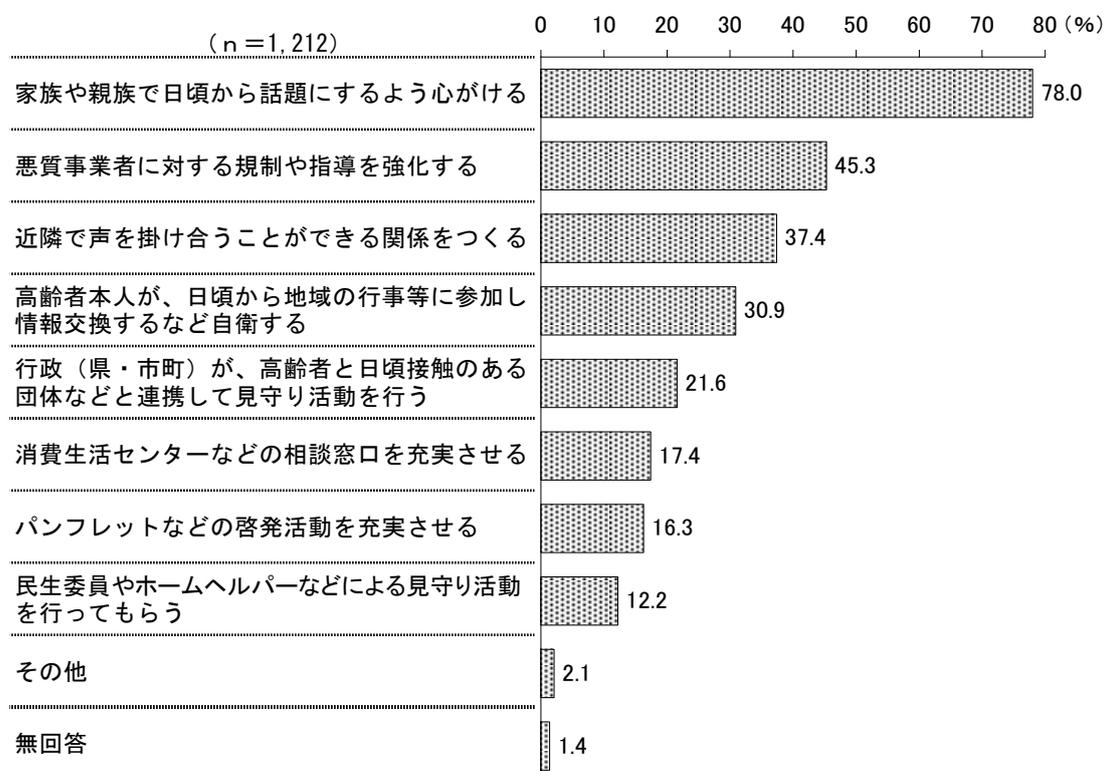
[n=1,212]



- ・全体で見ると、「テレビ」(90.4%)が9割で最も高く、次いで「新聞、雑誌」(51.2%)、「家族や友人(職場、学校を含む)」(33.4%)、「ソーシャルメディア(ツイッター、フェイスブックなど)」(17.2%)、「市町等の広報誌」(16.4%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「家族や友人(職場、学校を含む)」では〈女性〉(38.4%)が〈男性〉(28.2%)より10.2ポイント高くなっている。「新聞、雑誌」では〈男性〉(55.7%)が〈女性〉(47.0%)より8.7ポイント高くなっている。「ラジオ」では〈男性〉(16.6%)が〈女性〉(10.4%)より6.2ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「新聞、雑誌」では〈男性65~69歳〉が77.4%、〈男性60~64歳〉が71.2%、〈男性70歳以上〉が70.0%と高くなっている。「家族や友人(職場、学校を含む)」では〈女性20歳代〉が55.6%、〈女性30歳代〉が45.7%と高くなっている。「ソーシャルメディア(ツイッター、フェイスブックなど)」では〈男性20歳代〉が56.5%と高くなっている。

(2) 高齢者が悪質商法の被害に遭うことを防ぐための対策

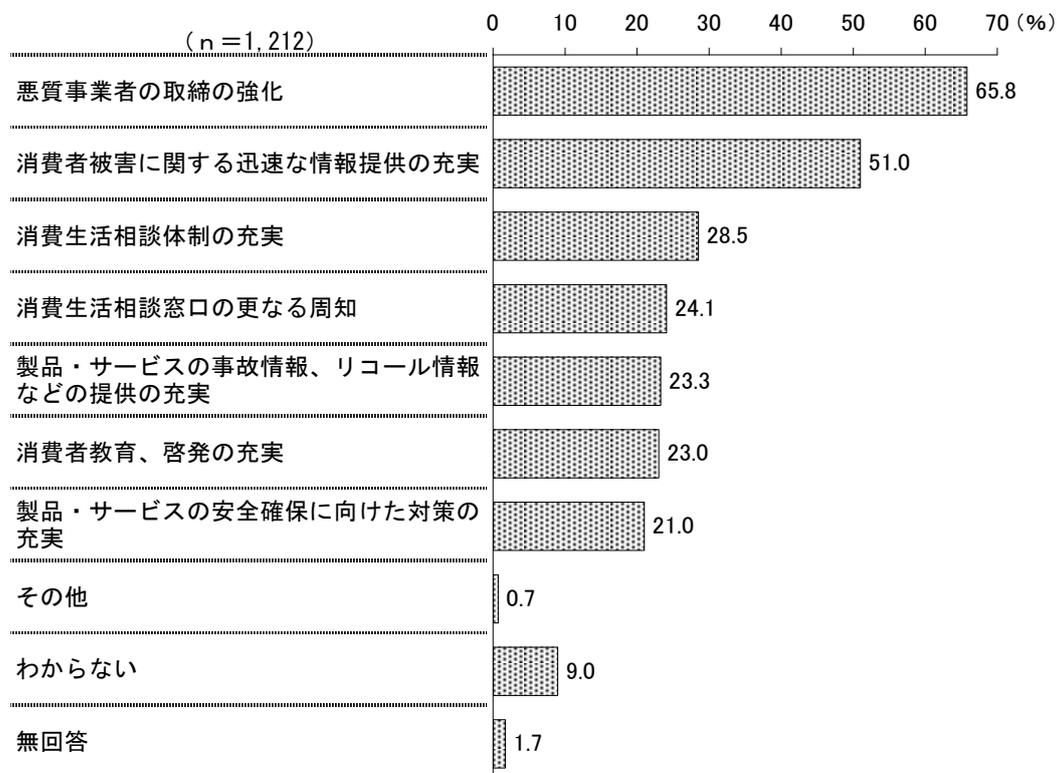
問18 高齢者が悪質商法の被害に遭うことが増えています。あなたは、それを防ぐためにはどのような対策が有効だと思いますか。次の中から3つまで選んでください。 [n=1,212]



- ・全体で見ると、「家族や親族で日頃から話題にするよう心がける」（78.0%）が8割近くで最も高く、次いで「悪質事業者に対する規制や指導を強化する」（45.3%）、「近隣で声を掛け合うことができる関係をつくる」（37.4%）、「高齢者本人が、日頃から地域の行事等に参加し情報交換するなど自衛する」（30.9%）、「行政（県・市町）が、高齢者と日頃接触のある団体などと連携して見守り活動を行う」（21.6%）の順となっている。
- ・性別で見ると、「家族や親族で日頃から話題にするよう心がける」では〈女性〉（82.9%）が〈男性〉（73.2%）より9.7ポイント高くなっている。「近隣で声を掛け合うことができる関係をつくる」では〈女性〉（40.5%）が〈男性〉（33.9%）より6.6ポイント高くなっている。「悪質事業者に対する規制や指導を強化する」では〈男性〉（48.4%）が〈女性〉（42.9%）より5.5ポイント高くなっている。
- ・性／年齢別で見ると、「近隣で声を掛け合うことができる関係をつくる」では〈女性70歳以上〉が49.3%と高くなっている。「高齢者本人が、日頃から地域の行事等に参加し情報交換するなど自衛する」では〈男性65～69歳〉が43.5%、〈男性70歳以上〉が40.0%と高くなっている。

(3) 消費生活問題に対する県の取組

問19 あなたが、消費生活問題に対する取組として、県に力を入れてほしいものはどれですか。
次の中からいくつでも選んでください。 [n=1,212]

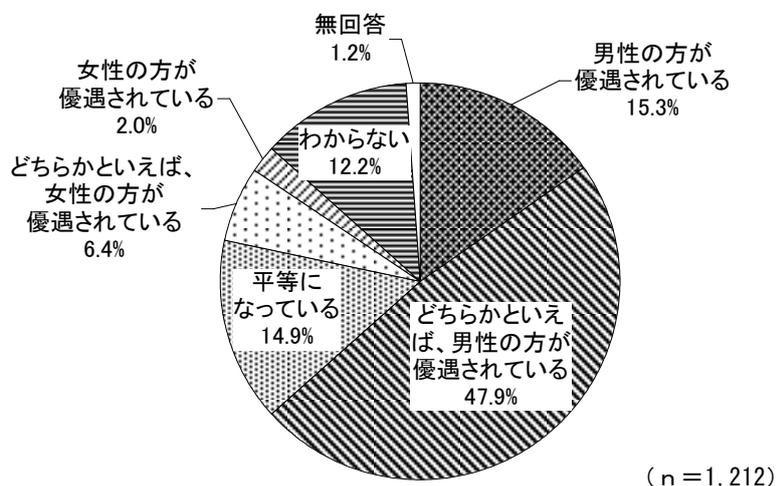


- ・全体で見ると、「悪質事業者の取締の強化」(65.8%)が6割半ばで最も高く、次いで「消費者被害に関する迅速な情報提供の充実」(51.0%)、「消費生活相談体制の充実」(28.5%)、「消費生活相談窓口の更なる周知」(24.1%)、「製品・サービスの事故情報、リコール情報などの提供の充実」(23.3%)、「消費者教育、啓発の充実」(23.0%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「消費者教育、啓発の充実」では〈男性〉(24.6%)が〈女性〉(21.6%)より3.0ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「悪質事業者の取締の強化」では〈男性65～69歳〉が83.9%と高くなっている。「消費者被害に関する迅速な情報提供の充実」では〈男性65～69歳〉が62.9%と高くなっている。「消費生活相談窓口の更なる周知」では〈男性60～64歳〉が44.1%と高くなっている。「消費者教育、啓発の充実」では〈女性20歳代〉が35.6%と高くなっている。「製品・サービスの安全確保に向けた対策の充実」では〈男性30歳代〉が32.3%と高くなっている。

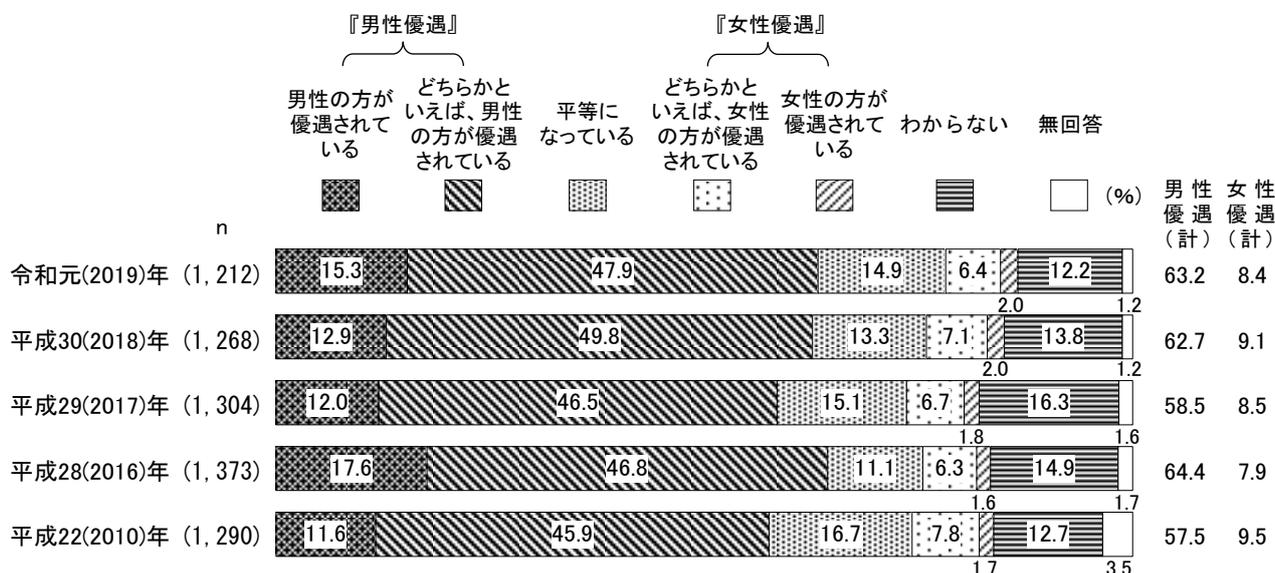
7 男女平等意識について

(1) 社会全体の中での男女の地位の平等感

問20 あなたは、現在、社会全体の中で、男女の地位はどの程度平等になっていると思いますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,212]



- 全体で見ると、「男性の方が優遇されている」(15.3%)と「どちらかといえば、男性の方が優遇されている」(47.9%)の2つを合わせた『男性優遇』(63.2%)は6割を超えている。一方、「どちらかといえば、女性の方が優遇されている」(6.4%)と「女性の方が優遇されている」(2.0%)の2つを合わせた『女性優遇』(8.4%)は1割近くとなっている。また、「平等になっている」(14.9%)は1割半ばとなっている。
- 性別で見ると、『男性優遇』では〈女性〉(70.2%)が〈男性〉(56.3%)より13.9ポイント高くなっている。一方、『女性優遇』では〈男性〉(11.2%)が〈女性〉(5.8%)より5.4ポイント高くなっている。
- 性/年齢別で見ると、『男性優遇』では〈女性60~64歳〉が81.9%、〈女性65~69歳〉が76.9%、〈男性65~69歳〉が75.8%、〈女性40歳代〉が75.3%と高くなっている。一方、『女性優遇』では〈男性20歳代〉が32.6%、〈男性30歳代〉が24.2%と高くなっている。

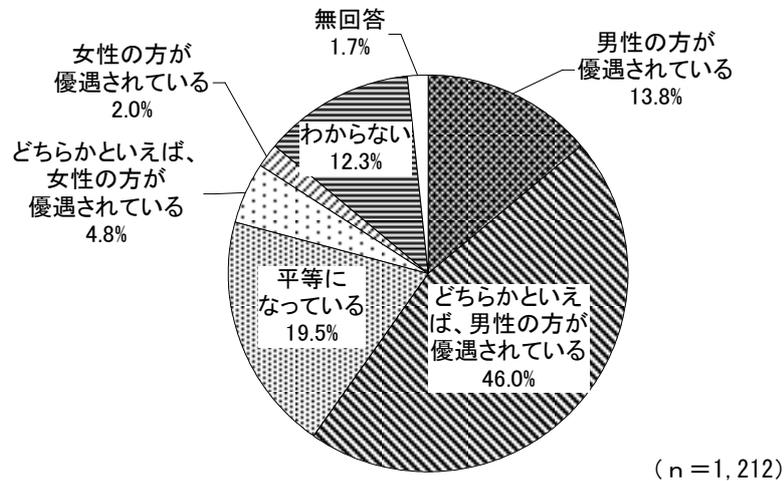


- 過去の調査結果と比較すると、平成30(2018)年と大きな傾向の違いはみられない。

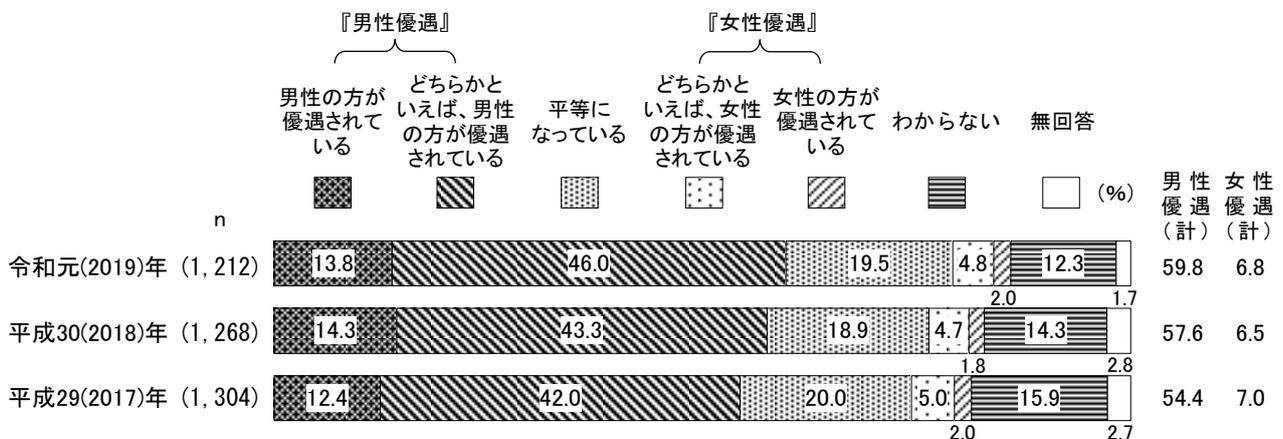
(2) 働く場での男女の地位の平等感

問21 あなたは、現在、働く場において、男女の地位はどの程度平等になっていると思いますか。次の中から1つ選んでください。(現在働いていない方も、イメージでお答えください。)

[n=1,212]



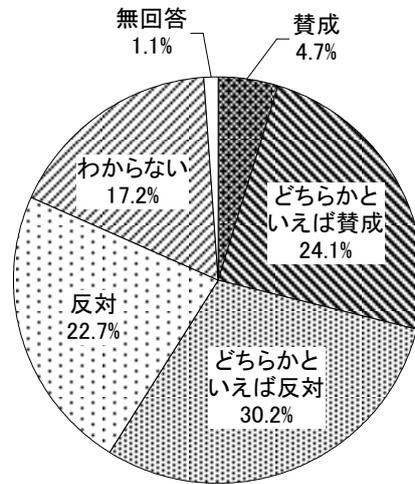
- ・全体で見ると、「男性の方が優遇されている」(13.8%)と「どちらかといえば、男性の方が優遇されている」(46.0%)の2つを合わせた『男性優遇』(59.8%)は6割となっている。一方、「どちらかといえば、女性の方が優遇されている」(4.8%)と「女性の方が優遇されている」(2.0%)の2つを合わせた『女性優遇』(6.8%)は1割近くとなっている。また、「平等になっている」(19.5%)は2割となっている。
- ・性別で見ると、『男性優遇』では〈女性〉(63.4%)が〈男性〉(56.8%)より6.6ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、『男性優遇』では〈女性65~69歳〉が75.4%、〈女性60~64歳〉が75.0%、〈男性65~69歳〉が74.2%と高くなっている。



- ・過去の調査結果と比較すると、『男性優遇』が平成30(2018)年より2.2ポイント増加している。

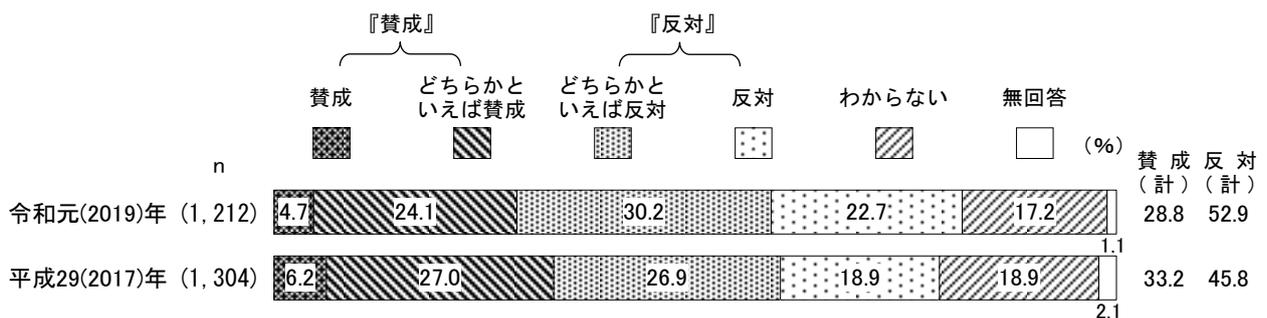
(3) 固定的な性別役割分担意識

問22 あなたは、「男は外で働き、女は家庭を守るべき」との考え方について、どのように
 思いますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,212]



(n=1,212)

- ・全体で見ると、「賛成」(4.7%)と「どちらかといえば賛成」(24.1%)の2つを合わせた『賛成』(28.8%)は3割近くとなっている。一方、「どちらかといえば反対」(30.2%)と「反対」(22.7%)の2つを合わせた『反対』(52.9%)は5割を超えている。
- ・性別で見ると、『賛成』では〈男性〉(31.5%)が〈女性〉(26.6%)より4.9ポイント高くなっている。一方、『反対』では〈女性〉(56.2%)が〈男性〉(49.5%)より6.7ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、『賛成』では〈男性70歳以上〉が45.4%、〈男性65～69歳〉が37.1%と高くなっている。一方、『反対』では〈男性30歳代〉が62.9%、〈女性40歳代〉が59.8%、〈女性60～64歳〉が59.7%、〈女性30歳代〉が59.3%と高くなっている。

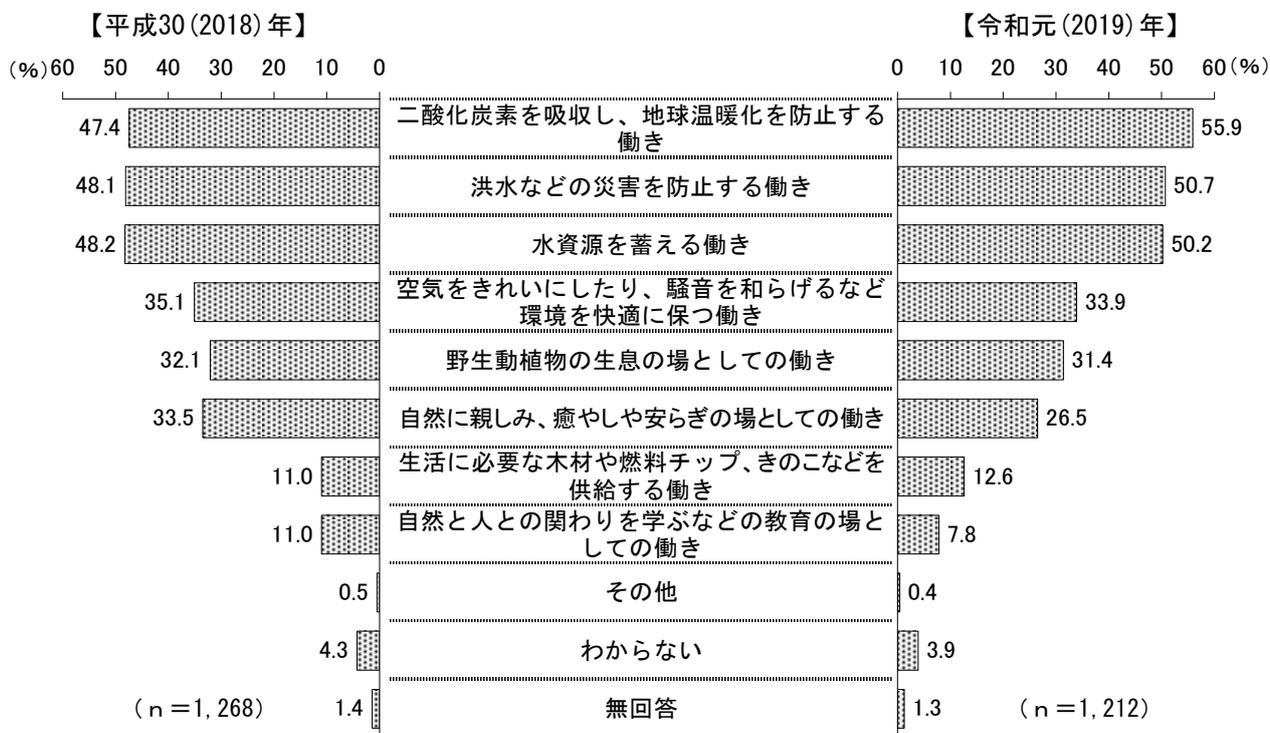


- ・平成29(2017)年の調査結果と比較すると、『反対』が7.1ポイント増加している。一方、『賛成』が4.4ポイント減少している。

8 とちぎの元気な森づくり県民税について

(1) 重要と考える森林の働き

問23 森林には、様々な働きがあります。あなたが特に重要だと考える森林の働きはどれですか。次の中から3つまで選んでください。 [n=1,212]

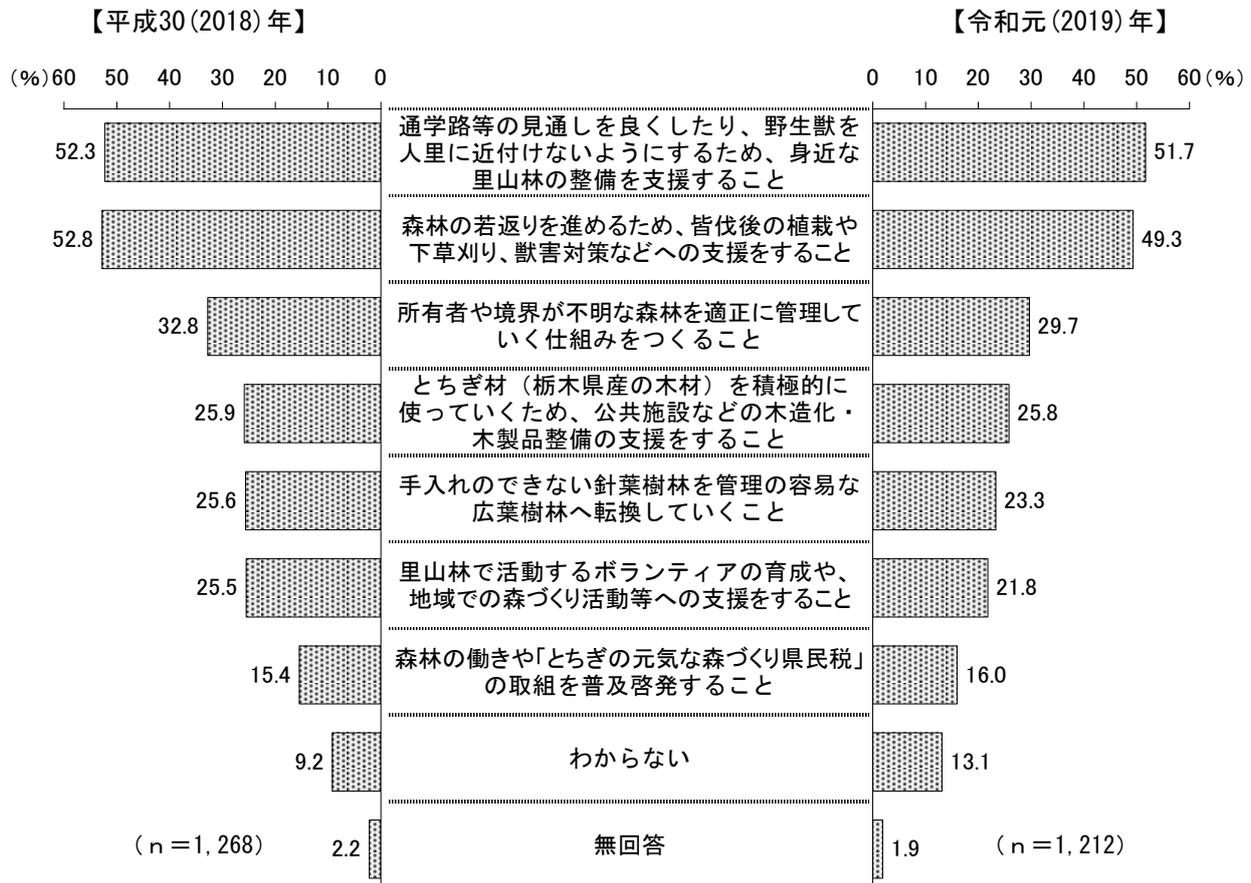


- ・全体で見ると、「二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する働き」(55.9%)が5割半ばで最も高く、次いで「洪水などの災害を防止する働き」(50.7%)、「水資源を蓄える働き」(50.2%)、「空気をきれいにしたり、騒音を和らげるなど環境を快適に保つ働き」(33.9%)、「野生動植物の生息の場としての働き」(31.4%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「水資源を蓄える働き」では〈男性〉(56.4%)が〈女性〉(44.6%)より11.8ポイント高くなっている。「洪水などの災害を防止する働き」では〈男性〉(54.0%)が〈女性〉(48.3%)より5.7ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する働き」では〈女性40歳代〉が65.0%と高くなっている。「洪水などの災害を防止する働き」では〈男性60～64歳〉が64.4%と高くなっている。「水資源を蓄える働き」では〈男性60～64歳〉が72.9%と高くなっている。「空気をきれいにしたり、騒音を和らげるなど環境を快適に保つ働き」では〈女性20歳代〉が51.1%と高くなっている。
- ・平成30(2018)年の調査結果と比較すると、「二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する働き」が8.5ポイント増加している。一方、「自然に親しみ、癒やしや安らぎの場としての働き」が7.0ポイント減少している。

(2) 「とちぎの元気な森づくり県民税」の取組の中で重要なもの

問24 栃木県では、「とちぎの元気な森づくり県民税」を活用して、本県の森林を元気な姿で将来へ引き継いでいくための様々な取組を行っています。

「とちぎの元気な森づくり県民税」の取組の中で、あなたが特に重要と思うものはどれですか。次の中から3つまで選んでください。 [n=1,212]



- 全体で見ると、「通学路等の見通しを良くしたり、野生獣を人里に近付けないようにするため、身近な里山林の整備を支援すること」(51.7%)が5割を超えて最も高く、次いで「森林の若返りを進めるため、皆伐後の植栽や下草刈り、獣害対策などへの支援をすること」(49.3%)、「所有者や境界が不明な森林を適正に管理していく仕組みをつくること」(29.7%)、「とちぎ材（栃木県産の木材）を積極的に使っていくため、公共施設などの木造化・木製品整備の支援をすること」(25.8%)の順となっている。
- 性別で見ると、「手入れのできない針葉樹林を管理の容易な広葉樹林へ転換していくこと」では〈男性〉(26.6%)が〈女性〉(20.2%)より6.4ポイント高くなっている。「通学路等の見通しを良くしたり、野生獣を人里に近付けないようにするため、身近な里山林の整備を支援すること」では〈女性〉(54.9%)が〈男性〉(48.8%)より6.1ポイント高くなっている。
- 性/年齢別で見ると、「森林の若返りを進めるため、皆伐後の植栽や下草刈り、獣害対策などへの支援をすること」では〈女性60～64歳〉が65.3%、〈男性65～69歳〉が61.3%と高くなっている。「とちぎ材（栃木県産の木材）を積極的に使っていくため、公共施設などの木造化・木製品整備の支援をすること」では〈女性70歳以上〉が38.5%と高くなっている。
- 平成30(2018)年の調査結果と比較すると、「里山林で活動するボランティアの育成や、地域での森づくり活動等への支援をすること」が3.7ポイント、「森林の若返りを進めるため、皆伐後の植栽や下草刈り、獣害対策などへの支援をすること」が3.5ポイント、「所有者や境界が不明な森林を適正に管理していく仕組みをつくること」が3.1ポイント、それぞれ減少している。

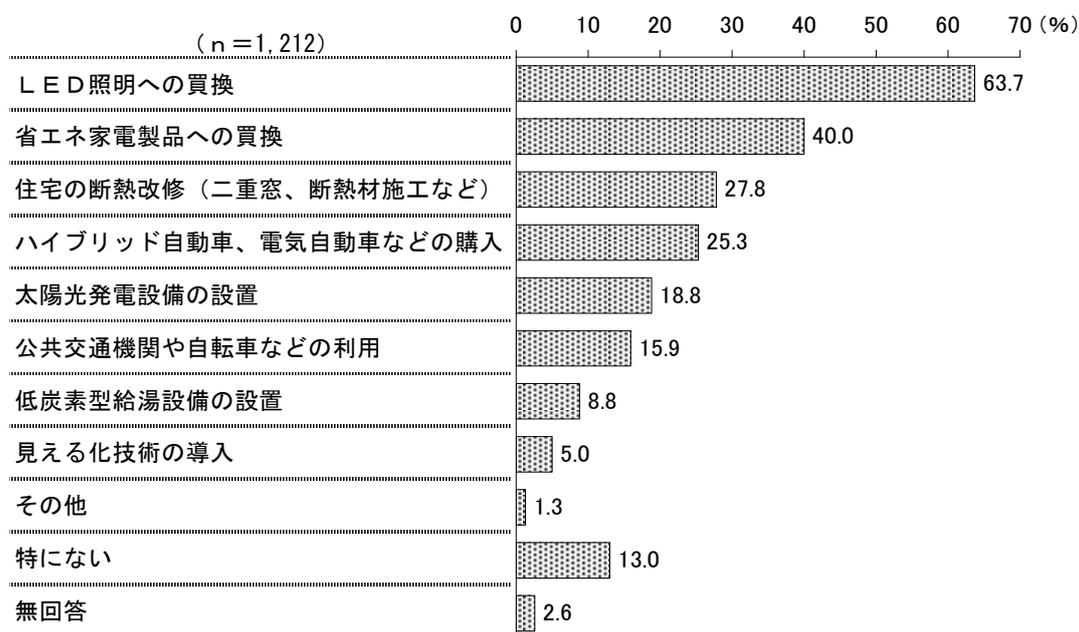
9 気候変動について

(1) 家庭で行っている温室効果ガスの排出削減対策

問25 近年、地球温暖化の進行が確認されており、温室効果ガスの排出削減対策が取り組まれている中で、私たち一人ひとりにおける取組も重要なものの一つとされています。あなたの家庭で行っている又は行ったことがあるものを、次の中からいくつでも選んでください。

[n=1,212]

- ※1 低炭素型給湯設備とは、使用時や待機時のエネルギー消費量が少ない給湯器で、具体的にはヒートポンプ式給湯器や潜熱回収型給湯器などをいいます。
- ※2 見える化技術とは、電力使用量等をリアルタイムで表示するなど、家庭におけるエネルギー管理を支援するもので、具体的にはホームエネルギーマネジメントシステム（HEMS）やスマートメーターなどをいいます。



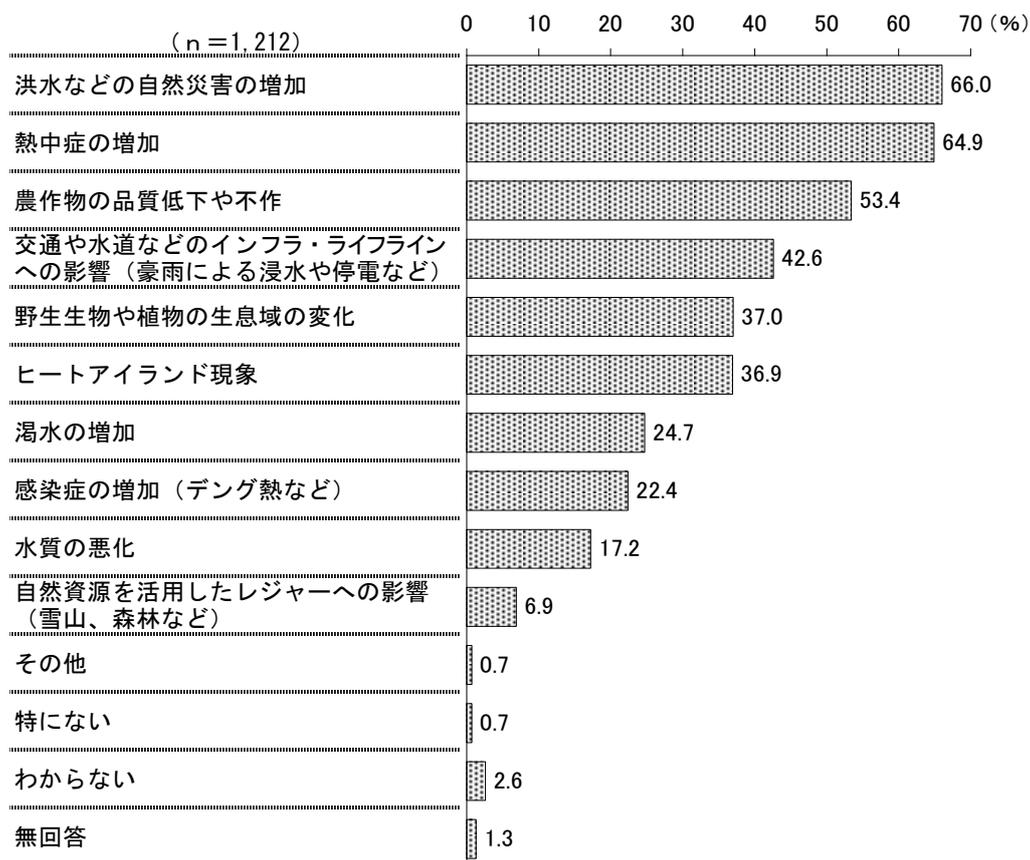
- 全体で見ると、「LED照明への買換」（63.7%）が6割を超えて最も高く、次いで「省エネ家電製品への買換」（40.0%）、「住宅の断熱改修（二重窓、断熱材施工など）」（27.8%）、「ハイブリッド自動車、電気自動車などの購入」（25.3%）、「太陽光発電設備の設置」（18.8%）の順となっている。
- 性別で見ると、「ハイブリッド自動車、電気自動車などの購入」では〈男性〉（27.5%）が〈女性〉（23.5%）より4.0ポイント高くなっている。「LED照明への買換」では〈女性〉（65.8%）が〈男性〉（61.9%）より3.9ポイント高くなっている。
- 性／年齢別で見ると、「LED照明への買換」では〈男性65～69歳〉が79.0%、〈女性60～64歳〉が76.4%と高くなっている。「省エネ家電製品への買換」では〈女性60～64歳〉が51.4%と高くなっている。「住宅の断熱改修（二重窓、断熱材施工など）」〈女性60～64歳〉が38.9%と高くなっている。「ハイブリッド自動車、電気自動車などの購入」では〈男性20歳代〉が39.1%と高くなっている。「公共交通機関や自転車などの利用」では〈女性20歳代〉が28.9%と高くなっている。

(2) 気候変動による影響を感じること

問26 気温の上昇のみならず、降水量の変化などの「気候変動」が確認されており、今後、その影響はさらに深刻化するおそれがあります。

あなたが感じる気候変動による影響は何ですか。次の中からいくつでも選んでください。

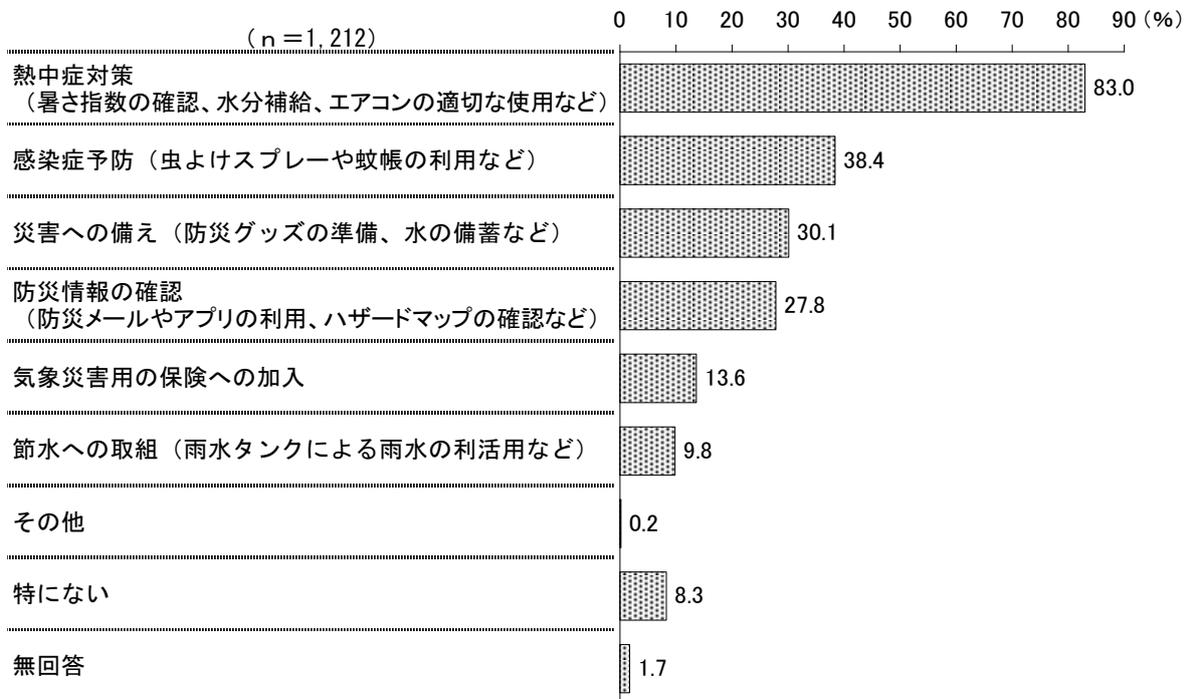
[n = 1, 212]



- ・全体で見ると、「洪水などの自然災害の増加」(66.0%)と「熱中症の増加」(64.9%)がともに6割半ばで高く、次いで、「農作物の品質低下や不作」(53.4%)、「交通や水道などのインフラ・ライフラインへの影響 (豪雨による浸水や停電など)」(42.6%)、「野生生物や植物の生息域の変化」(37.0%)、「ヒートアイランド現象」(36.9%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「熱中症の増加」では〈女性〉(69.3%)が〈男性〉(60.6%)より8.7ポイント高くなっている。「感染症の増加 (デング熱など)」では〈女性〉(25.6%)が〈男性〉(19.0%)より6.6ポイント高くなっている。「農作物の品質低下や不作」では〈女性〉(56.5%)が〈男性〉(50.3%)より6.2ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「洪水などの自然災害の増加」では〈男性65~69歳〉が80.6%と高くなっている。「熱中症の増加」では〈女性40歳代〉が75.2%と高くなっている。「農作物の品質低下や不作」では〈女性30歳代〉が67.9%と高くなっている。「交通や水道などのインフラ・ライフラインへの影響 (豪雨による浸水や停電など)」では〈女性40歳代〉が59.0%と高くなっている。「野生生物や植物の生息域の変化」では〈女性20歳代〉が53.3%、〈男性65~69歳〉が50.0%と高くなっている。

(3) 気候変動の影響による被害を回避・軽減するために実践していること

問27 気候変動の影響による被害を回避・軽減するために、様々な対策（適応策）が求められています。あなたの家庭で実践していることはありますか。次の中からいくつでも選んでください。 [n = 1,212]

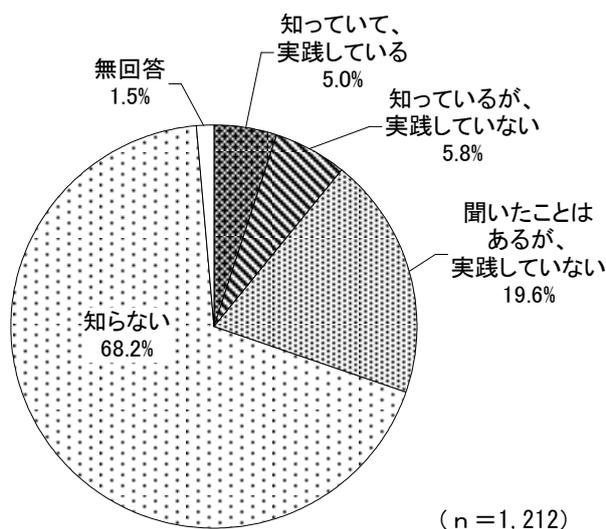


- ・全体で見ると、「熱中症対策（暑さ指数の確認、水分補給、エアコンの適切な使用など）」（以下『熱中症対策』という。）（83.0%）が8割を超えて最も高く、次いで「感染症予防（虫よけスプレーや蚊帳の利用など）」（以下『感染症予防』という。）（38.4%）、「災害への備え（防災グッズの準備、水の備蓄など）」（以下『災害への備え』という。）（30.1%）、「防災情報の確認（防災メールやアプリの利用、ハザードマップの確認など）」（以下『防災情報の確認』という。）（27.8%）、「気象災害用の保険への加入」（13.6%）の順となっている。
- ・性別で見ると、『感染症予防』では〈女性〉（46.4%）が〈男性〉（29.9%）より16.5ポイント高くなっている。『熱中症対策』では〈女性〉（86.4%）が〈男性〉（79.9%）より6.5ポイント高くなっている。
- ・性／年齢別で見ると、『熱中症対策』では〈女性60～64歳〉が93.1%と高くなっている。『感染症予防』では〈女性40歳代〉が52.1%、〈女性30歳代〉が49.4%、〈女性60～64歳〉が48.6%、〈女性70歳以上〉が48.0%と高くなっている。『防災情報の確認』では〈女性40歳代〉が38.5%と高くなっている。

(4) 「COOL CHOICE」の取組の認知度

問28 県では、家庭部門における温室効果ガスの排出削減に向け、「COOL CHOICE（クールチョイス）」（※）を推進しています。あなたは、「COOL CHOICE（クールチョイス）」の取組を知っていますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,212]

※「COOL CHOICE（クールチョイス）」とは、国が推進する国民運動で、省エネ・低炭素型の「製品」、「サービス」、「行動」などの温暖化対策に資する「賢い選択」を促す取組をいいます。



- ・全体で見ると、「知っていて、実践している」(5.0%)は1割に満たない。「知っているが、実践していない」(5.8%)と「聞いたことはあるが、実践していない」(19.6%)の2つを合わせた『実践していないが、知っているまたは聞いたことはある』(25.4%)は2割半ばで、「知らない」(68.2%)は7割近くとなっている。
- ・性別で見ると、大きな傾向の違いはみられない。
- ・性/年齢別で見ると、「知っていて、実践している」では〈男性65～69歳〉が14.5%、〈男性20歳代〉が13.0%となっている。『実践していないが、知っているまたは聞いたことはある』では〈女性65～69歳〉が38.5%、〈女性70歳以上〉が37.8%と高くなっている。「知らない」では〈女性20歳代〉が91.1%、〈男性30歳代〉が83.9%、〈女性30歳代〉が81.5%と高くなっている。

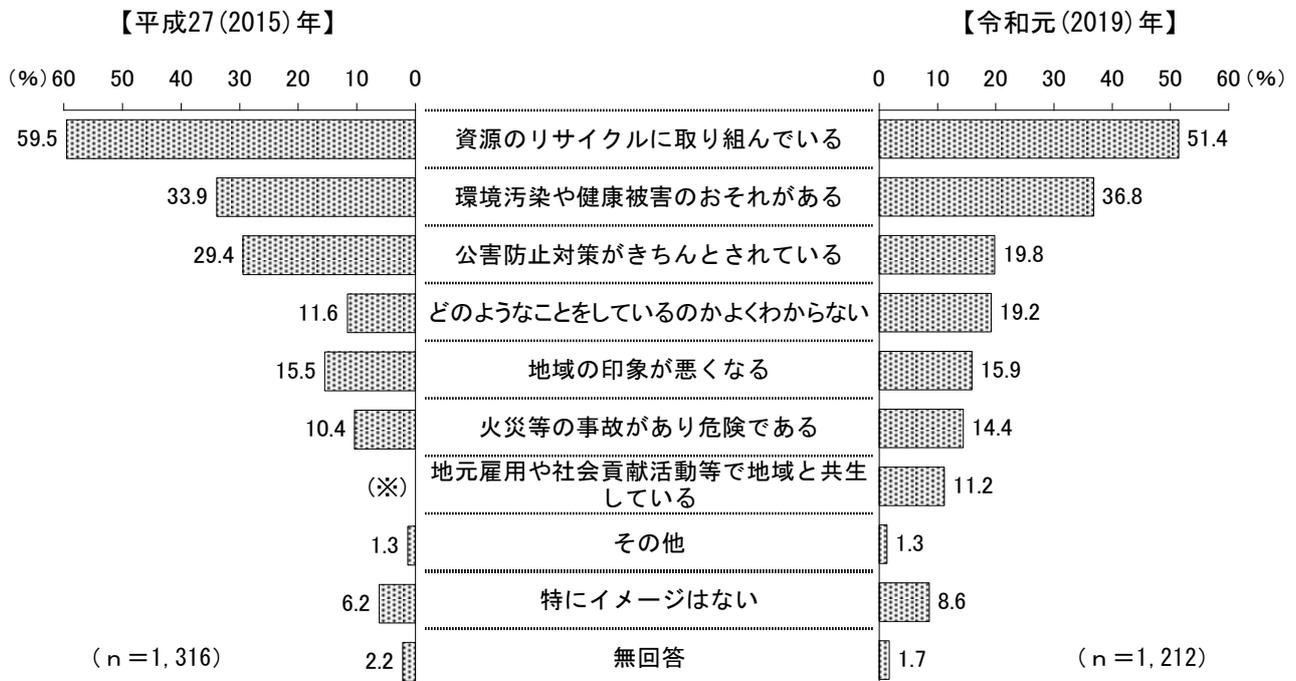
10 産業廃棄物処理施設について

(1) 産業廃棄物処理施設のイメージ

問29 あなたは、産業廃棄物処理施設にどのようなイメージがありますか。

次の中からいくつでも選んでください。

[n=1,212]

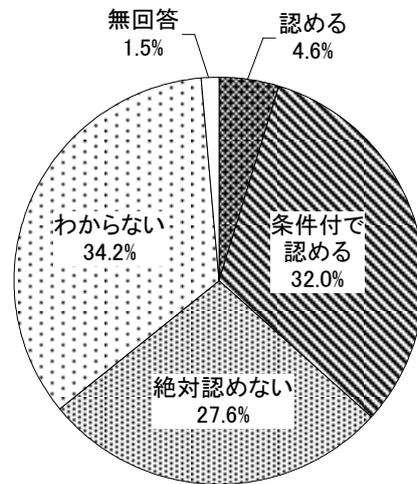


(※)「地元雇用や社会貢献活動等で地域と共生している」は、今回調査で追加した選択肢である。

- ・全体で見ると、「資源のリサイクルに取り組んでいる」(51.4%)が5割を超えて最も高く、次いで「環境汚染や健康被害のおそれがある」(36.8%)、「公害防止対策がきちんとされている」(19.8%)、「どのようなことをしているのかよくわからない」(19.2%)、「地域の印象が悪くなる」(15.9%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「公害防止対策がきちんとされている」では〈男性〉(23.4%)が〈女性〉(16.5%)より6.9ポイント高くなっている。「どのようなことをしているのかよくわからない」では〈女性〉(22.1%)が〈男性〉(16.1%)より6.0ポイント高くなっている。「環境汚染や健康被害のおそれがある」では〈女性〉(39.7%)が〈男性〉(34.1%)より5.6ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「資源のリサイクルに取り組んでいる」では〈女性65~69歳〉が64.6%、〈男性65~69歳〉が62.9%と高くなっている。「環境汚染や健康被害のおそれがある」では〈女性50歳代〉が50.0%、〈女性60~64歳〉が47.2%と高くなっている。「公害防止対策がきちんとされている」では〈男性65~69歳〉が33.9%、〈女性65~69歳〉が32.3%と高くなっている。
- ・平成27(2015)年の調査結果との比較は、選択肢の追加があるため参考にとどまるが、「どのようなことをしているのかよくわからない」が7.6ポイント増加している。一方、「公害防止対策がきちんとされている」が9.6ポイント、「資源のリサイクルに取り組んでいる」が8.1ポイント、それぞれ減少している。

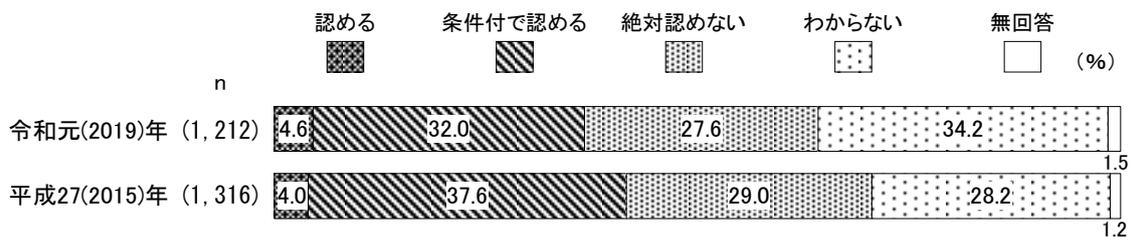
(2) 近隣の産業廃棄物処理施設についての考え

問30 もし、あなたの家の近くに産業廃棄物処理施設ができるとした場合、認めることができますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,212]



(n=1,212)

- ・全体で見ると、「認める」(4.6%)は1割に満たない。「条件付で認める」(32.0%)は3割を超えており、「絶対認めない」(27.6%)は3割近くとなっている。
- ・性別で見ると、「条件付で認める」では〈男性〉(39.4%)が〈女性〉(25.1%)より14.3ポイント高くなっている。「絶対認めない」では〈女性〉(30.2%)が〈男性〉(25.3%)より4.9ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「条件付で認める」では〈男性50歳代〉が48.0%と高くなっている。「絶対認めない」では〈女性70歳以上〉が33.8%、〈女性40歳代〉が33.3%、〈女性30歳代〉が32.1%と高くなっている。

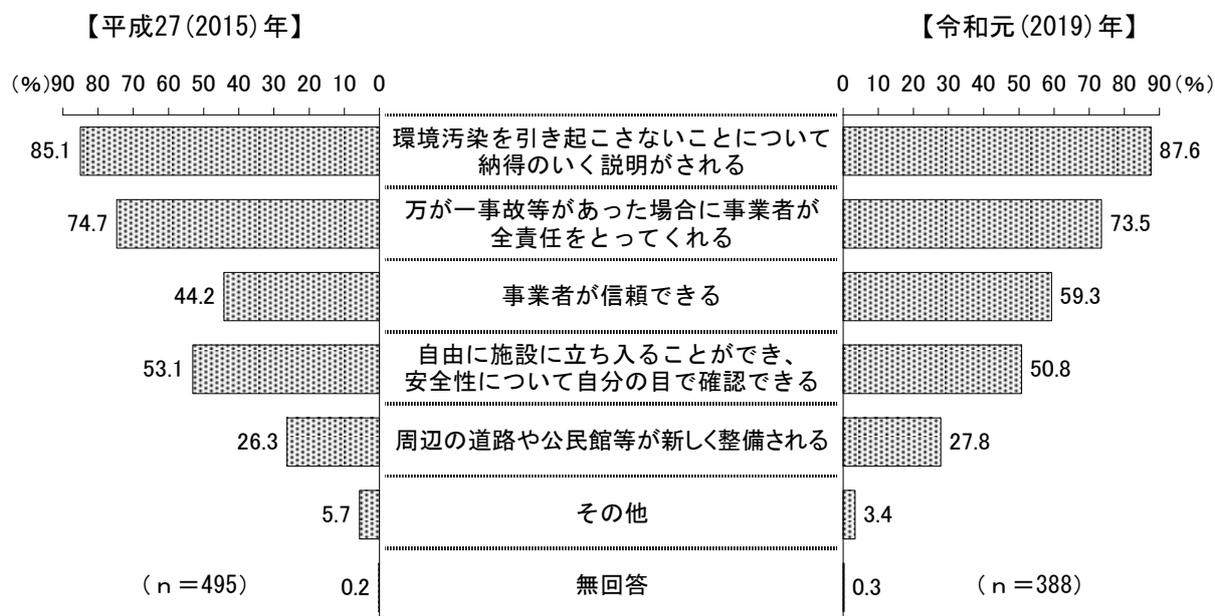


- ・平成27(2015)年の調査結果と比較すると、「条件付で認める」が5.6ポイント減少している。一方、「わからない」が6.0ポイント増加している。

(2-1) 産業廃棄物処理施設を認める条件

(問30で選択肢「条件付で認める」を選んだ方のみお答えください)

問30-1 どのような条件がそろえば認めることができますか。次の中からいくつでも選んでください。 [n=388]



- ・全体で見ると、「環境汚染を引き起こさないことについて納得のいく説明がされる」(87.6%)が9割近くで最も高く、次いで「万が一事故等があった場合に事業者が全責任をとってくれる」(73.5%)、「事業者が信頼できる」(59.3%)、「自由に施設に立ち入ることができ、安全性について自分の目で確認できる」(50.8%)、「周辺の道路や公民館等が新しく整備される」(27.8%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「周辺の道路や公民館等が新しく整備される」では〈女性〉(32.5%)が〈男性〉(24.6%)より7.9ポイント高くなっている。「事業者が信頼できる」では〈女性〉(62.4%)が〈男性〉(57.5%)より4.9ポイント高くなっている。「自由に施設に立ち入ることができ、安全性について自分の目で確認できる」では〈男性〉(52.6%)が〈女性〉(47.8%)より4.8ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「万が一事故等があった場合に事業者が全責任をとってくれる」では〈男性70歳以上〉が83.6%と高くなっている。「自由に施設に立ち入ることができ、安全性について自分の目で確認できる」では〈男性70歳以上〉が63.9%と高くなっている。
- ・平成27(2015)年の調査結果と比較すると、「事業者が信頼できる」が15.1ポイント増加している。

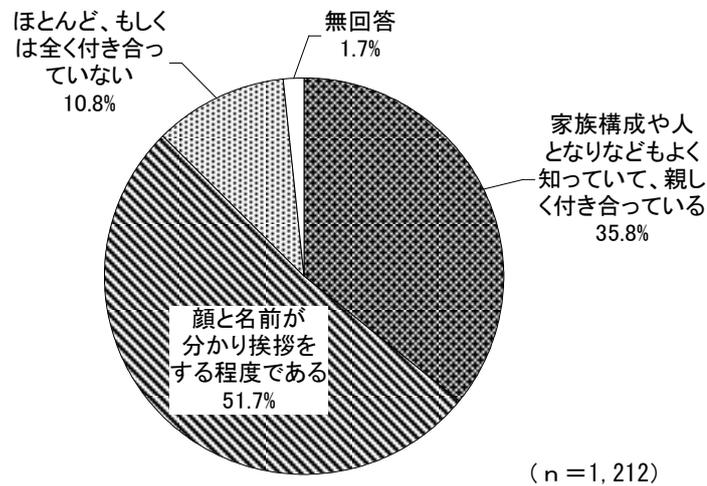
11 地域のつながり・住民同士の支え合い活動について

(1) ご近所の方との付き合い

問31 あなたは現在、ご近所（向こう三軒両隣など）の方とどのような関係ですか。

次の中から1つ選んでください。

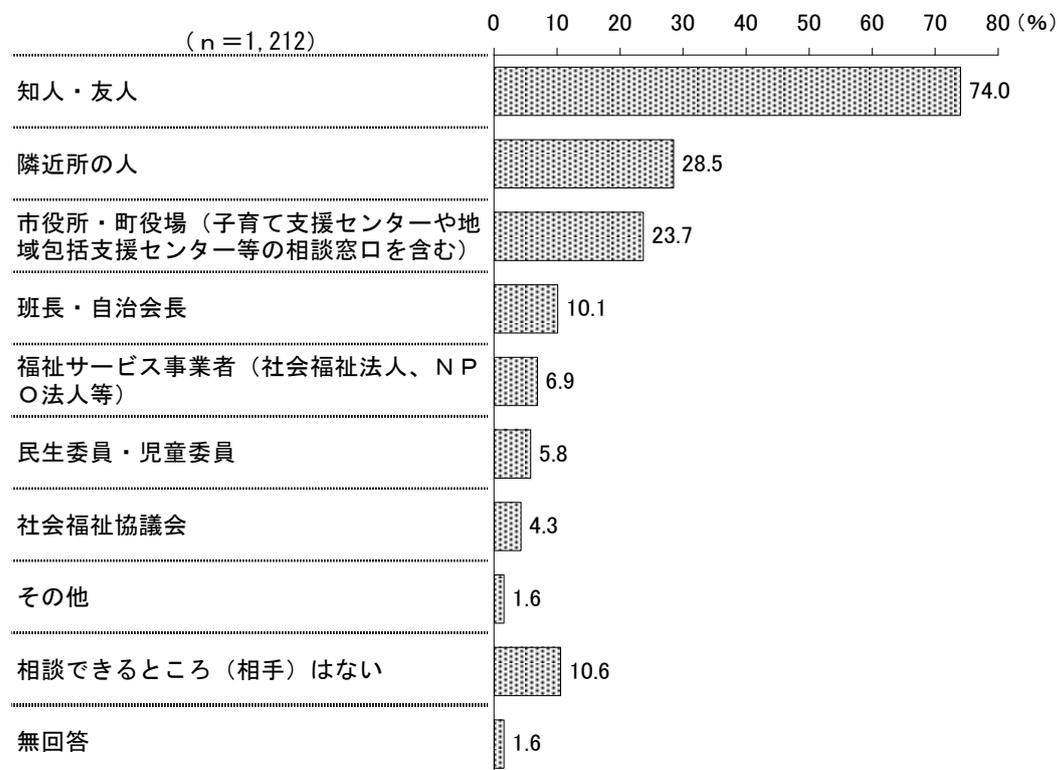
[n=1,212]



- ・全体で見ると、「家族構成や人となりなどもよく知っていて、親しく付き合っている」(35.8%)は3割半ばとなっている。「顔と名前が分かり挨拶をする程度である」(51.7%)は5割を超えており、「ほとんど、もしくは全く付き合いがない」(10.8%)はほぼ1割となっている。
- ・性別で見ると、大きな傾向の違いはみられない。
- ・性/年齢別で見ると、「家族構成や人となりなどもよく知っていて、親しく付き合っている」では〈男性65～69歳〉が61.3%、〈女性70歳以上〉が59.5%と高くなっている。「顔と名前が分かり挨拶をする程度である」では〈男性20歳代〉が65.2%、〈女性40歳代〉が65.0%と高くなっている。「ほとんど、もしくは全く付き合いがない」では〈男性30歳代〉が35.5%、〈女性20歳代〉が31.1%、〈女性30歳代〉が27.2%と高くなっている。

(2) 日常生活で困ったことを相談する相手

問32 日常生活で困ったときに、家族・親族以外で相談できるところ（相手）はどこ（誰）ですか。次の中からいくつでも選んでください。 [n=1,212]



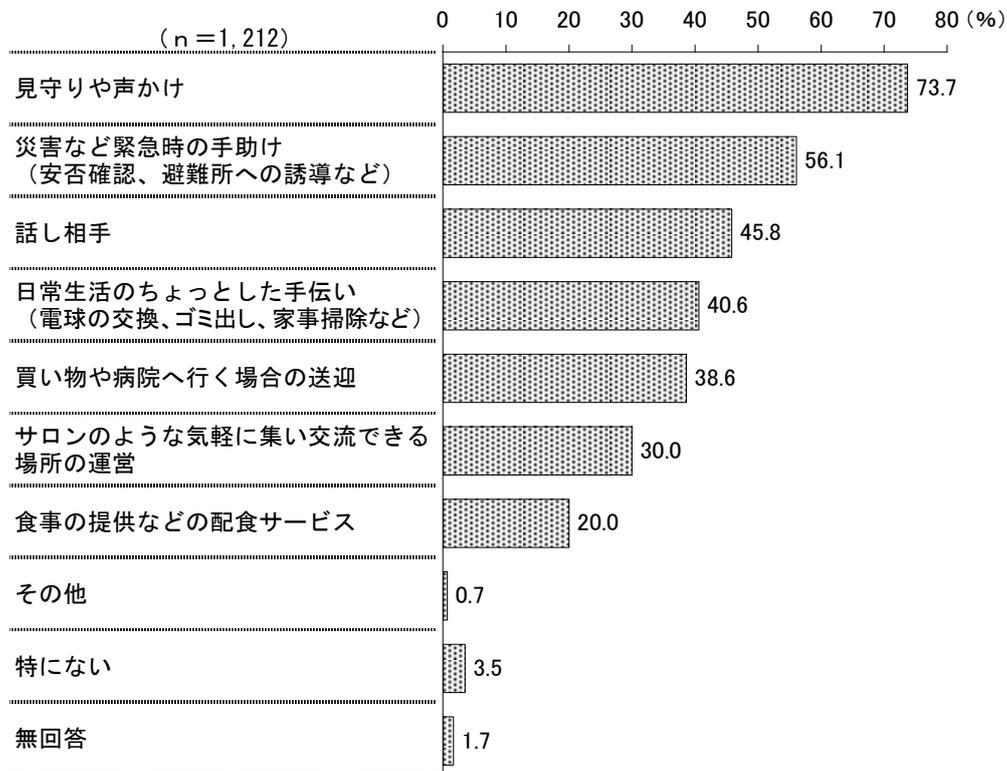
- ・全体で見ると、「知人・友人」（74.0%）が7割半ばで最も高く、次いで「隣近所の人」（28.5%）、「市役所・町役場（子育て支援センターや地域包括支援センター等の相談窓口を含む）」（23.7%）、「班長・自治会長」（10.1%）の順となっている。
- ・性別で見ると、「隣近所の人」では〈女性〉（31.7%）が〈男性〉（25.3%）より6.4ポイント高くなっている。「知人・友人」では〈女性〉（76.8%）が〈男性〉（71.8%）より5.0ポイント高くなっている。
- ・性／年齢別で見ると、「知人・友人」では〈女性30歳代〉が90.1%、〈男性20歳代〉が87.0%、〈女性20歳代〉が86.7%と高くなっている。「隣近所の人」では〈女性70歳以上〉が55.4%、〈男性65～69歳〉が45.2%と高くなっている。「班長・自治会長」では〈男性65～69歳〉が22.6%、〈男性70歳以上〉が20.7%、〈女性70歳以上〉が20.3%と高くなっている。「民生委員・児童委員」では〈女性70歳以上〉が21.6%と高くなっている。「相談できるところ（相手）はない」では〈男性30歳代〉が29.0%、〈男性50歳代〉が20.0%と高くなっている。

(3) 住民同士の支え合いが必要だと思うサービス・活動

問33 高齢者や障害のある方、子育て中の方などが日常生活を送る上で、どのような住民同士の支え合いによるサービス・活動が必要だと思いますか。

次の中からいくつでも選んでください。

[n=1,212]

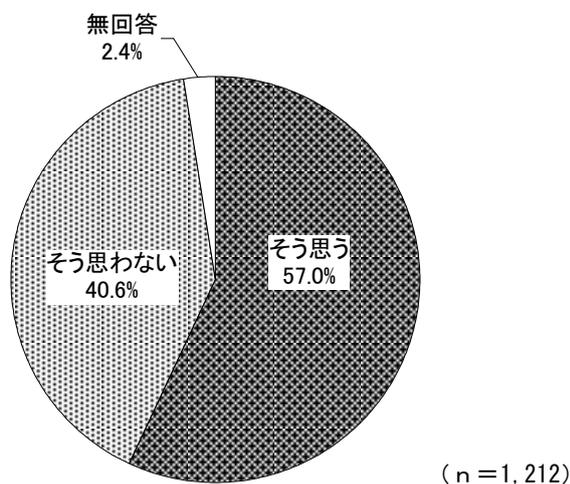


- ・全体でみると、「見守りや声かけ」(73.7%)が7割を超えて最も高く、次いで「災害など緊急時の手助け(安否確認、避難所への誘導など)」(56.1%)、「話し相手」(45.8%)、「日常生活のちょっとした手伝い(電球の交換、ゴミ出し、家事掃除など)」(40.6%)、「買い物や病院へ行く場合の送迎」(38.6%)の順となっている。
- ・性別でみると、「買い物や病院へ行く場合の送迎」では〈女性〉(45.4%)が〈男性〉(31.5%)より13.9ポイント高くなっている。「食事の提供などの配食サービス」では〈女性〉(25.8%)が〈男性〉(14.0%)より11.8ポイント高くなっている。「サロンのような気軽に集い交流できる場所の運営」では〈女性〉(35.2%)が〈男性〉(24.4%)より10.8ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別でみると、「災害など緊急時の手助け(安否確認、避難所への誘導など)」では〈女性20歳代〉が71.1%、〈女性60~64歳〉が66.7%と高くなっている。「日常生活のちょっとした手伝い(電球の交換、ゴミ出し、家事掃除など)」では〈女性60~64歳〉が56.9%と高くなっている。「買い物や病院へ行く場合の送迎」では〈女性20歳代〉が57.8%と高くなっている。「サロンのような気軽に集い交流できる場所の運営」では〈女性20歳代〉が51.1%、〈女性30歳代〉が45.7%と高くなっている。

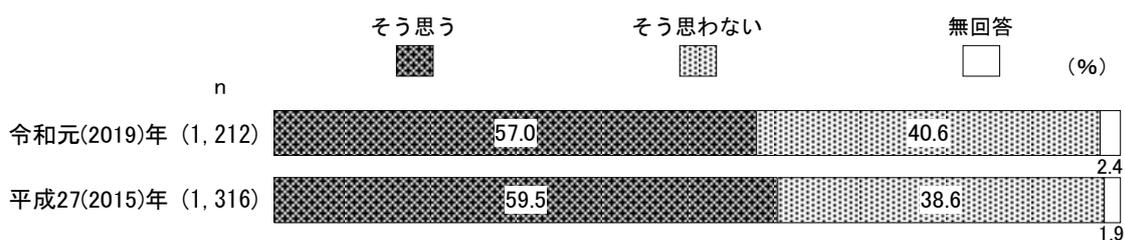
12 在宅医療について

(1) 在宅療養への考え

問34 あなたが病気やけがで長期の療養が必要になり、通院が困難になった場合、自宅で療養したいと思いますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,212]



- ・全体で見ると、「そう思う」(57.0%)は6割近くとなっている。一方、「そう思わない」(40.6%)はほぼ4割となっている。
- ・性別で見ると、「そう思う」では〈男性〉(59.9%)が〈女性〉(54.7%)より5.2ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「そう思う」では〈女性20歳代〉が66.7%、〈男性50歳代〉が66.0%と高くなっている。一方、「そう思わない」では〈女性65～69歳〉が55.4%、〈男性30歳代〉が53.2%と高くなっている。



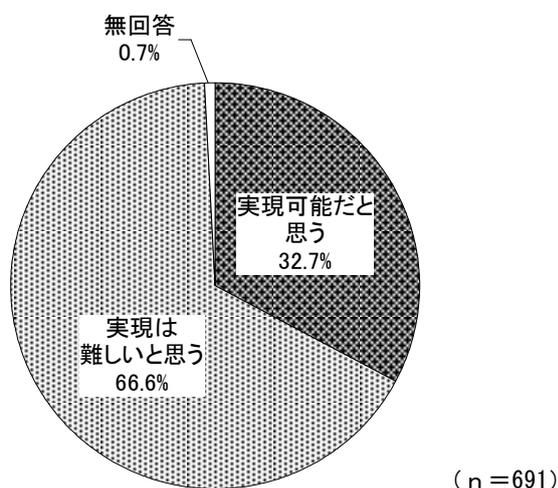
- ・平成27(2015)年の調査結果と比較すると、「そう思う」が2.5ポイント減少している。

(1-1) 自宅療養実現に対する考え

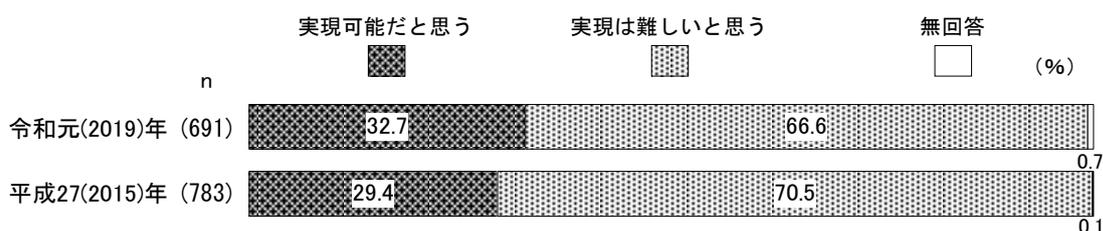
(問34で選択肢「そう思う」を選んだ方のみお答えください)

問34-1 自宅での療養は実現可能だと思いますか。次の中から1つ選んでください。

[n=691]



- ・全体で見ると、「実現可能だと思う」(32.7%)は3割を超えている。一方、「実現は難しいと思う」(66.6%)は7割近くとなっている。
- ・性別で見ると、「実現可能だと思う」では〈男性〉(35.8%)が〈女性〉(29.5%)より6.3ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「実現可能だと思う」では〈男性65～69歳〉が46.2%と高くなっている。一方、「実現は難しいと思う」では〈男性60～64歳〉が80.0%、〈女性60～64歳〉が77.1%と高くなっている。



- ・平成27(2015)年の調査結果と比較すると、「実現可能だと思う」が3.3ポイント増加している。

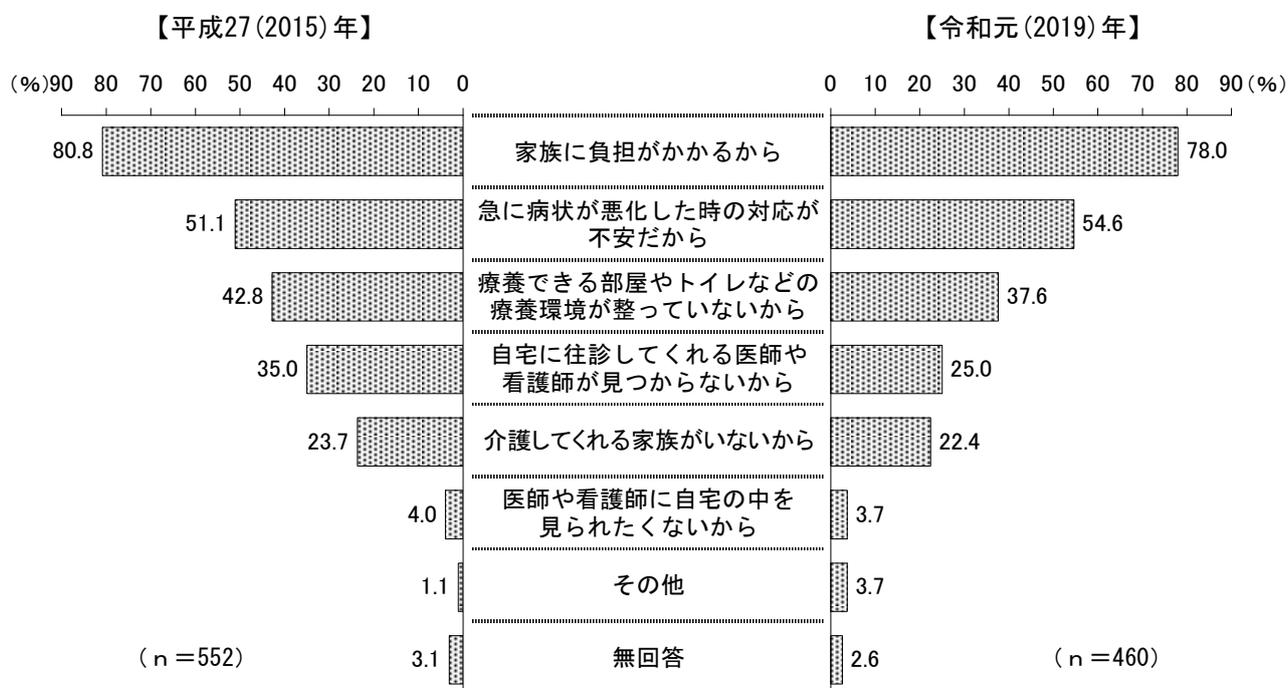
(1-1-1) 自宅療養が難しい理由

(問34-1で選択肢「実現は難しいと思う」を選んだ方のみお答えください)

問34-1-1 自宅での療養が難しいと思う理由は何ですか。

次の中から3つまで選んでください。

[n=460]

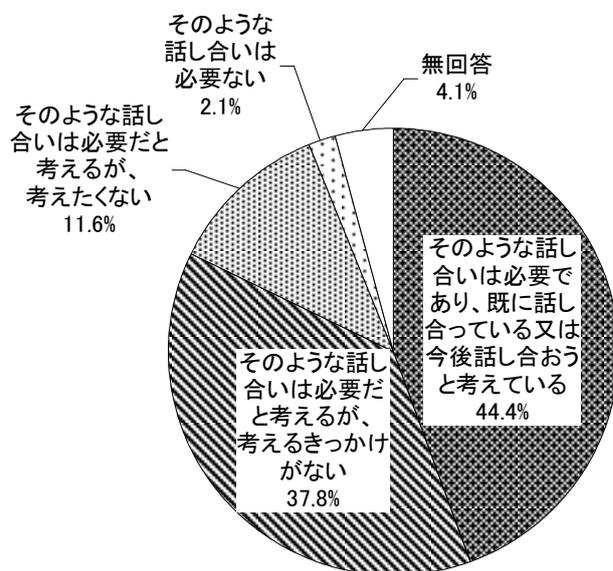


- ・全体で見ると、「家族に負担がかかるから」(78.0%)が8割近くで最も高く、次いで「急に病状が悪化した時の対応が不安だから」(54.6%)、「療養できる部屋やトイレなどの療養環境が整っていないから」(37.6%)、「自宅に往診してくれる医師や看護師が見つからないから」(25.0%)、「介護してくれる家族がいないから」(22.4%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「自宅に往診してくれる医師や看護師が見つからないから」では〈男性〉(29.5%)が〈女性〉(21.0%)より8.5ポイント高くなっている。「療養できる部屋やトイレなどの療養環境が整っていないから」では〈女性〉(41.2%)が〈男性〉(33.6%)より7.6ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「家族に負担がかかるから」では〈女性30歳代〉が93.5%と高くなっている。「急に病状が悪化した時の対応が不安だから」では〈女性70歳以上〉が69.0%と高くなっている。「介護してくれる家族がいないから」では〈女性50歳代〉が33.3%、〈女性70歳以上〉が32.8%と高くなっている。
- ・平成27(2015)年の調査結果と比較すると、「自宅に往診してくれる医師や看護師が見つからないから」が10.0ポイント、「療養できる部屋やトイレなどの療養環境が整っていないから」が5.2ポイント、それぞれ減少している。

(2) 人生の最終段階を迎えたときの医療やケアの希望等を事前に話し合うことへの考え

問35 人生の最終段階を迎えた時の医療やケアの希望等の意思表示を家族等と事前に繰り返し話し合うことについて、どのようにお考えですか。次の中から1つ選んでください。

[n = 1, 212]



(n = 1, 212)

- ・全体で見ると、「そのような話し合いは必要であり、既に話し合っている又は今後話し合おうと考えている」(44.4%)は4割半ばとなっている。「そのような話し合いは必要だと考えるが、考えるきっかけがない」(37.8%)は4割近くで、「そのような話し合いは必要だと考えるが、考えたくない」(11.6%)は1割を超えている。
- ・性別で見ると、「そのような話し合いは必要であり、既に話し合っている又は今後話し合おうと考えている」では〈女性〉(51.4%)が〈男性〉(37.4%)より14.0ポイント高くなっている。「そのような話し合いは必要だと考えるが、考えたくない」では〈男性〉(14.5%)が〈女性〉(9.0%)より5.5ポイント高くなっている。「そのような話し合いは必要だと考えるが、考えるきっかけがない」では〈男性〉(40.7%)が〈女性〉(35.4%)より5.3ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「そのような話し合いは必要であり、既に話し合っている又は今後話し合おうと考えている」では〈女性65～69歳〉が67.7%、〈女性70歳以上〉が62.8%、〈女性60～64歳〉が62.5%と高くなっている。「そのような話し合いは必要だと考えるが、考えるきっかけがない」では〈男性30歳代〉が53.2%、〈男性20歳代〉が50.0%と高くなっている。

13 障害者差別の解消について

(1) 障害者から困っていることを伝えられたときやヘルプマークの携帯者を見かけたときの行動や気持ち

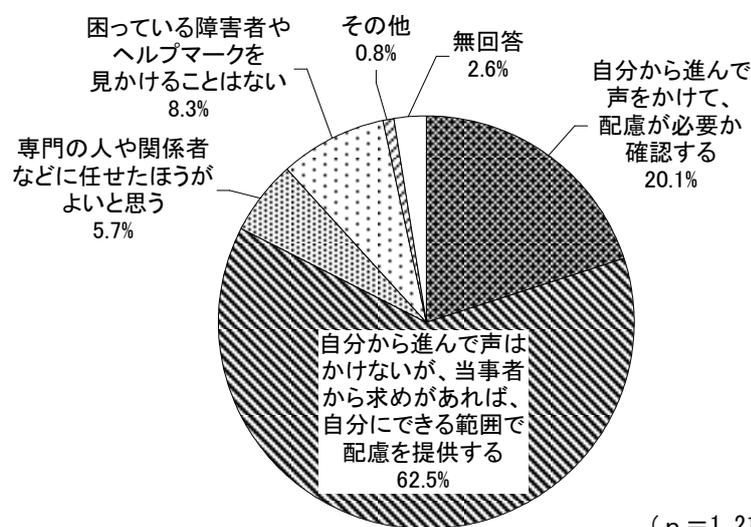
問36 障害者から困っていることを伝えられたときやヘルプマーク（※）の携帯者を見かけたとき、あなたの行動や気持ちとして最も当てはまるものを次の中から1つ選んでください。

[n=1,212]

※ ヘルプマークとは、援助や配慮を必要としていることが外見からは分かりにくい障害のある方が、周囲の人に配慮を必要としていることを知らせ、援助を得やすくするためのマークをいいます。

※ 障害者に対する合理的配慮の一例

車椅子を押す、ドアの開閉の手助け、聴覚障害者との手話や筆談、視覚障害者の案内、その他状況に応じたルールの変更等

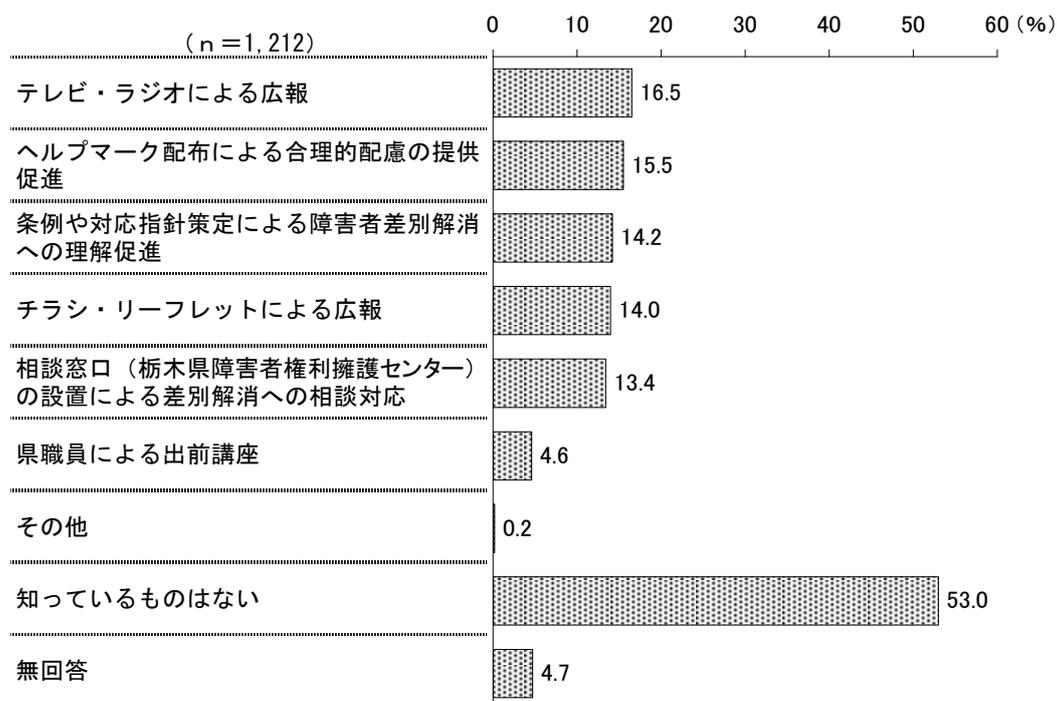


(n=1,212)

- ・全体でみると、「自分から進んで声をかけて、配慮が必要か確認する」(20.1%)は2割となっている。「自分から進んで声はかけないが、当事者から求めがあれば、自分にできる範囲で配慮を提供する」(62.5%)は6割を超えており、「専門の人や関係者などに任せたほうがよいと思う」(5.7%)は1割に満たない。
- ・性別でみると、「自分から進んで声をかけて、配慮が必要か確認する」では〈女性〉(22.9%)が〈男性〉(17.1%)より5.8ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別でみると、「自分から進んで声をかけて、配慮が必要か確認する」では〈女性65～69歳〉が30.8%、〈女性60～64歳〉が27.8%と高くなっている。「自分から進んで声はかけないが、当事者から求めがあれば、自分にできる範囲で配慮を提供する」では〈女性30歳代〉が79.0%、〈男性50歳代〉が75.0%、〈男性40歳代〉が73.0%と高くなっている。

(2) 障害を理由とする差別の解消のための県の取組で知っていること

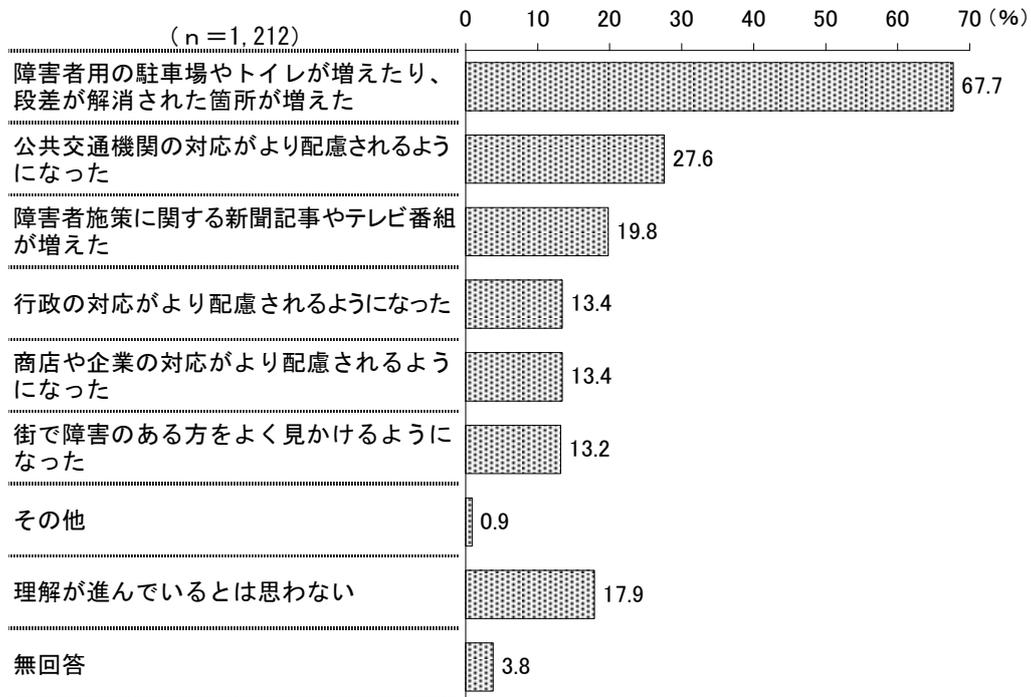
問37 栃木県では、障害を理由とする差別の禁止や理解の促進に向けて「栃木県障害者差別解消推進条例の制定」や「相談窓口の設置」、「ヘルプマークの配布」等の様々な取組を行っています。あなたが、この取組に関し、知っていることを、次の中からいくつでも選んでください。 [n=1,212]



- ・全体で見ると、「テレビ・ラジオによる広報」(16.5%)が2割近くとなっており、次いで「ヘルプマーク配布による合理的配慮の提供促進」(15.5%)、「条例や対応指針策定による障害者差別解消への理解促進」(14.2%)、「チラシ・リーフレットによる広報」(14.0%)、「相談窓口（栃木県障害者権利擁護センター）の設置による差別解消への相談対応」(13.4%)の順となっている。また、「知っているものはない」(53.0%)は5割を超えている。
- ・性別で見ると、「条例や対応指針策定による障害者差別解消への理解促進」では〈男性〉(17.0%)が〈女性〉(11.5%)より5.5ポイント高くなっている。
- ・性／年齢別で見ると、「テレビ・ラジオによる広報」では〈男性65～69歳〉が35.5%、〈女性65～69歳〉が27.7%、〈女性70歳以上〉が26.4%と高くなっている。「条例や対応指針策定による障害者差別解消への理解促進」では〈男性70歳以上〉が24.0%と高くなっている。「チラシ・リーフレットによる広報」では〈男性65～69歳〉が25.8%と高くなっている。

(3) 障害を理由とする差別の解消について理解が進んでいると感じること

問38 障害を理由とする差別の解消について、理解が進んでいると感じている点がありますか。
次の中からいくつでも選んでください。 [n=1,212]

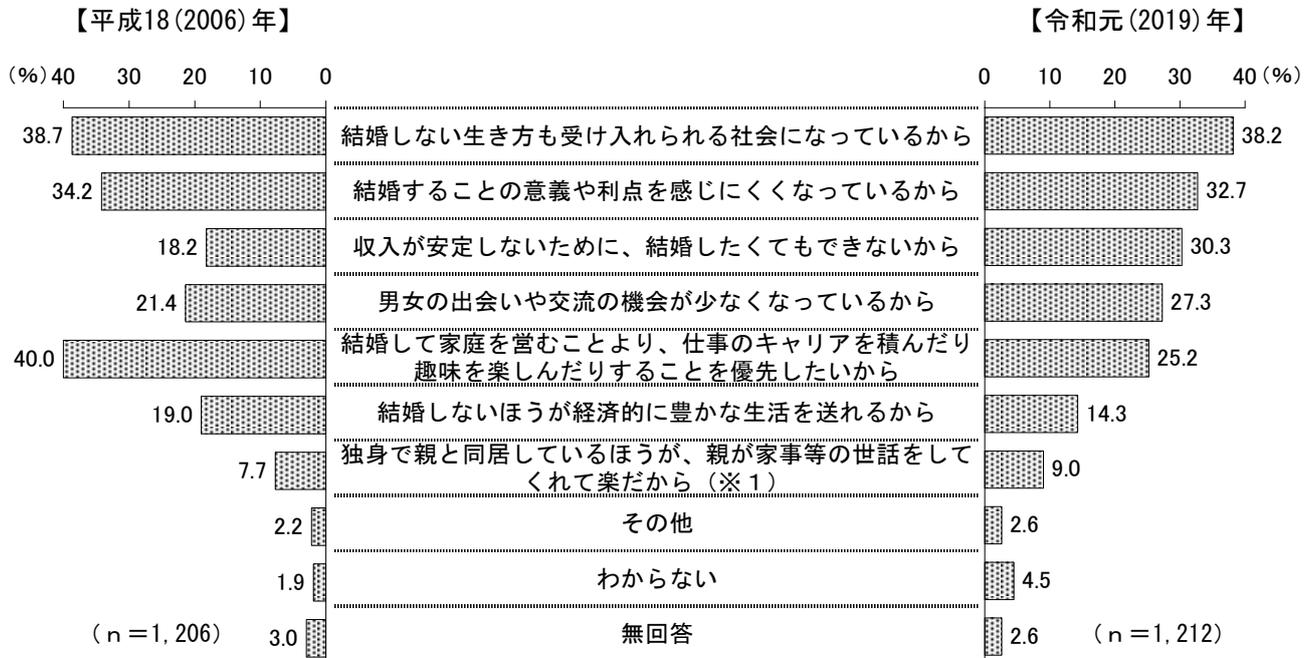


- ・全体でみると、「障害者用の駐車場やトイレが増えたり、段差が解消された箇所が増えた」(67.7%)が7割近くで最も高く、次いで「公共交通機関の対応がより配慮されるようになった」(27.6%)、「障害者施策に関する新聞記事やテレビ番組が増えた」(19.8%)、「行政の対応がより配慮されるようになった」(13.4%)、「商店や企業の対応がより配慮されるようになった」(13.4%)、「街で障害のある方をよく見かけるようになった」(13.2%)の順となっている。
- ・性別でみると、「公共交通機関の対応がより配慮されるようになった」では〈男性〉(31.1%)が〈女性〉(24.6%)より6.5ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別でみると、「公共交通機関の対応がより配慮されるようになった」では〈男性65～69歳〉が43.5%、〈男性70歳以上〉が38.0%と高くなっている。「障害者施策に関する新聞記事やテレビ番組が増えた」では〈男性65～69歳〉が35.5%、〈男性70歳以上〉が30.0%と高くなっている。「行政の対応がより配慮されるようになった」では〈男性70歳以上〉が28.0%、〈女性70歳以上〉が27.0%と高くなっている。

14 結婚や子育てに関する意識について

(1) 晩婚化や未婚化が進んでいる理由

問39 少子化の要因の一つと言われる晩婚化や未婚化が進んでいる理由について、あなたは
どう思いますか。次の中から2つ選んでください。 [n=1,212]



(※1) 「独身で親と同居しているほうが、親が家事等の世話をしてくれて楽だから」は、平成18(2006)年調査では「独身の方が親が家事等の世話をしてくれて楽だから」としていた。

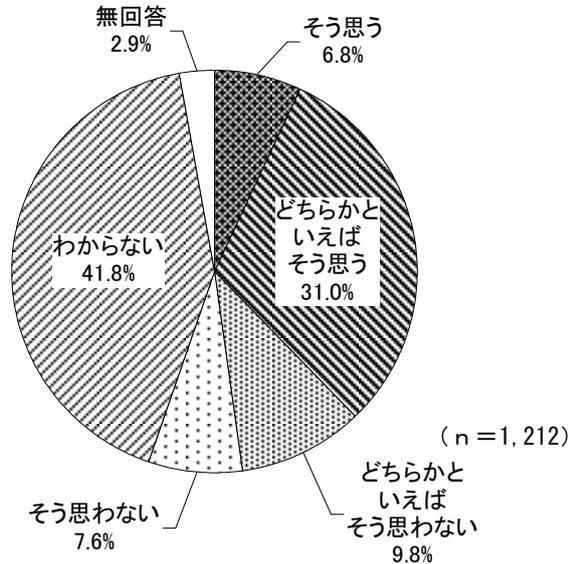
(※2) 平成18(2006)年の質問文は以下のとおりである。

「最近、晩婚化や未婚化が進んでいますが、その理由について、あなたはどう思いますか。次の中から2つまで選んでください。」

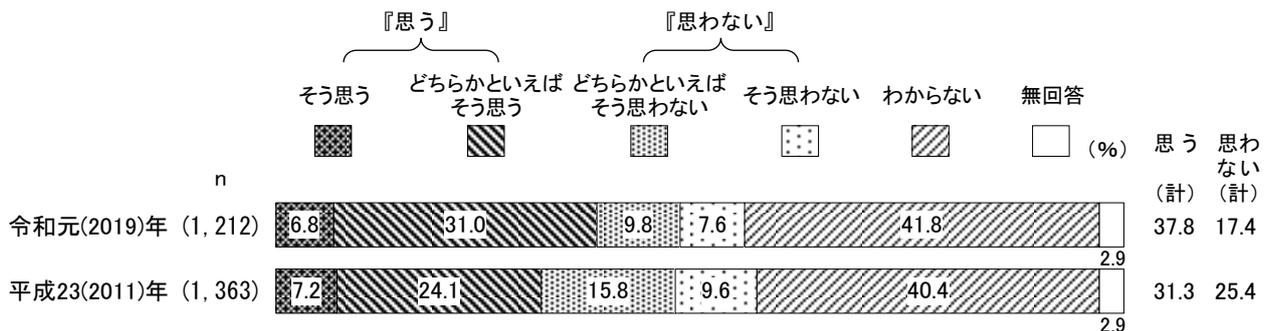
- ・全体で見ると、「結婚しない生き方も受け入れられる社会になっているから」(38.2%)が4割近くで最も高く、次いで「結婚することの意義や利点を感じにくくなっているから」(32.7%)、「収入が安定しないために、結婚したくてもできないから」(30.3%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「男女の出会いや交流の機会が少なくなっているから」では〈男性〉(29.8%)が〈女性〉(25.4%)より4.4ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「収入が安定しないために、結婚したくてもできないから」では〈男性60~64歳〉が42.4%、〈男性30歳代〉と〈女性60~64歳〉がともに40.3%と高くなっている。「結婚して家庭を営むことより、仕事のキャリアを積んだり趣味を楽しんだりすることを優先したいから」では〈女性30歳代〉が39.5%と高くなっている。「結婚しないほうが経済的に豊かな生活を送れるから」では〈男性20歳代〉が32.6%、〈女性20歳代〉が26.7%と高くなっている。
- ・平成18(2006)年の調査結果との比較は、質問文および選択肢の文言の変更があるため参考にとどまるが、「収入が安定しないために、結婚したくてもできないから」が12.1ポイント増加している。一方、「結婚して家庭を営むことより、仕事のキャリアを積んだり趣味を楽しんだりすることを優先したいから」が14.8ポイント減少している。

(2) ここ数年での子育てのしやすさ

問40 あなたは、おおむね5年の間に栃木県では子育てがしやすくなったと思いますか。
次の中から1つ選んでください。 [n=1,212]



- ・全体で見ると、「そう思う」(6.8%)と「どちらかといえばそう思う」(31.0%)の2つを合わせた『思う』(37.8%)は4割近くとなっている。一方、「どちらかといえばそう思わない」(9.8%)と「そう思わない」(7.6%)の2つを合わせた『思わない』(17.4%)は2割近くとなっている。
- ・性別で見ると、『思う』では〈女性〉(40.0%)が〈男性〉(36.2%)より3.8ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、『思う』では〈女性60～64歳〉が48.6%、〈男性65～69歳〉が46.8%、〈女性40歳代〉が46.1%、〈男性40歳代〉が45.0%と高くなっている。一方、『思わない』では〈女性30歳代〉が32.0%、〈男性30歳代〉が24.2%と高くなっている。



(※) 平成23(2011)年の質問文は以下のとおりである。

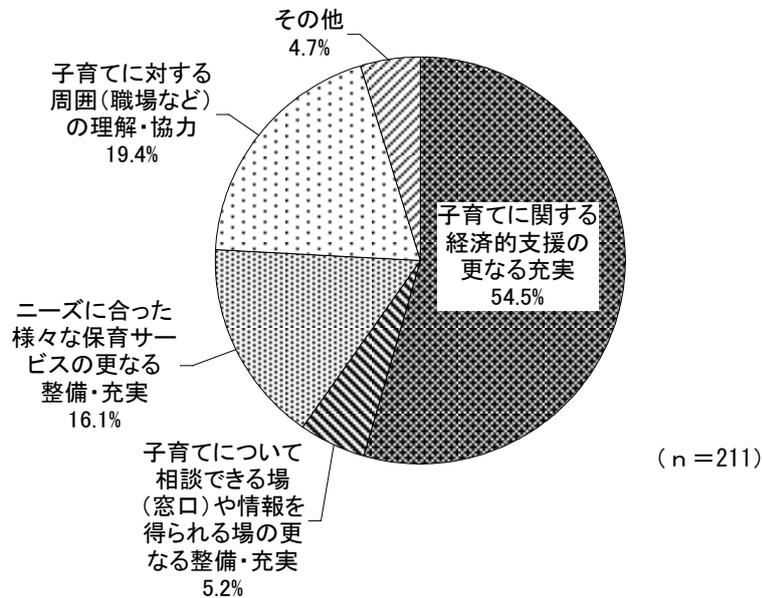
「あなたは、おおむね5～6年の間に栃木県では子育てがしやすくなったと思いますか。次の中から1つ選んでください。」

- ・平成23(2011)年の調査結果との比較は、質問文の文言の変更があるため参考にとどまるが、『思う』が6.5ポイント増加している。一方、『思わない』が8.0ポイント減少している。

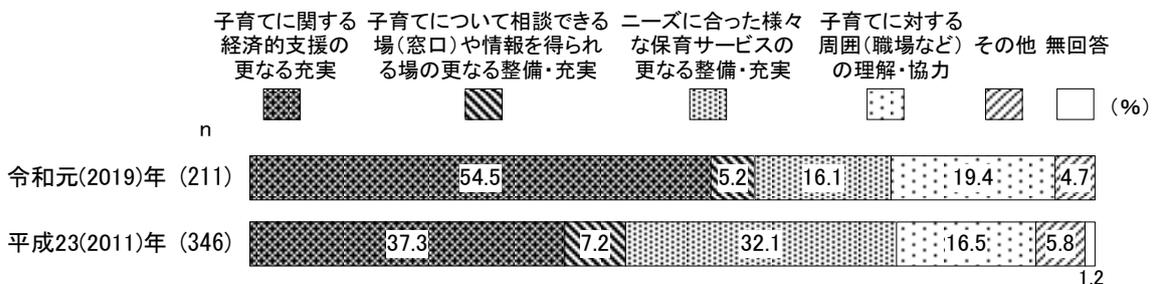
(2-1) 子育てをしやすくするために改善すべきと思うこと

(問40で選択肢「どちらかといえばそう思わない」、「そう思わない」を選んだ方のみお答えください)

問40-1 あなたは、今後特にどのような点が改善されれば、子育てがしやすくなると思いますか。次の中から1つ選んでください。 [n=211]



- 全体で見ると、「子育てに関する経済的支援の更なる充実」(54.5%)が5割半ばで最も高く、次いで「子育てに対する周囲(職場など)の理解・協力」(19.4%)、「ニーズに合った様々な保育サービスの更なる整備・充実」(16.1%)、「子育てについて相談できる場(窓口)や情報を得られる場の更なる整備・充実」(5.2%)の順となっている。
- 性別で見ると、「子育てに対する周囲(職場など)の理解・協力」では〈女性〉(27.7%)が〈男性〉(12.0%)より15.7ポイント高くなっている。「子育てに関する経済的支援の更なる充実」では〈男性〉(59.3%)が〈女性〉(48.5%)より10.8ポイント高くなっている。
- 性/年齢別で見ると、「子育てに関する経済的支援の更なる充実」では〈男性50歳代〉が73.9%と高くなっている。



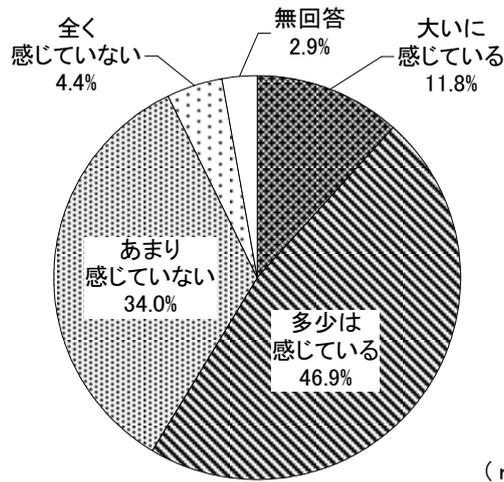
- 平成23(2011)年の調査結果と比較すると、「子育てに関する経済的支援の更なる充実」が17.2ポイント増加している。一方、「ニーズに合った様々な保育サービスの更なる整備・充実」が16.0ポイント減少している。

15 食の安全・安心について

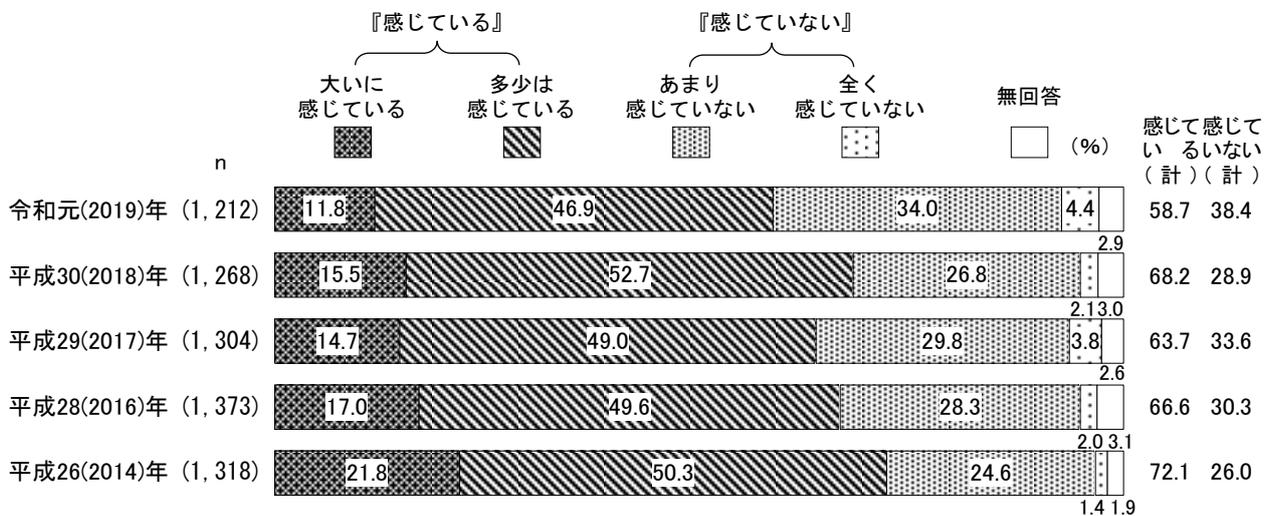
(1) 食品の安全性に対する不安

問41 あなたは、食品の安全性について、不安を感じていますか。
次の中から1つ選んでください。

[n = 1, 212]



- 全体で見ると、「大いに感じている」(11.8%)と「多少は感じている」(46.9%)の2つを合わせた『感じている』(58.7%)は6割近くとなっている。一方、「あまり感じていない」(34.0%)と「全く感じていない」(4.4%)の2つを合わせた『感じていない』(38.4%)は4割近くとなっている。
- 性別で見ると、『感じている』では〈女性〉(63.1%)が〈男性〉(54.3%)より8.8ポイント高くなっている。一方、『感じていない』では〈男性〉(43.8%)が〈女性〉(33.7%)より10.1ポイント高くなっている。
- 性/年齢別で見ると、『感じている』では〈女性60～64歳〉が77.8%、〈女性65～69歳〉が69.2%、〈女性70歳以上〉が67.5%と高くなっている。一方、『感じていない』では〈男性20歳代〉が63.1%、〈男性30歳代〉が56.5%、〈女性20歳代〉が51.1%と高くなっている。



- 過去の調査結果と比較すると、『感じている』が平成30(2018)年より9.5ポイント減少している。一方、『感じていない』が平成30(2018)年より9.5ポイント増加している。

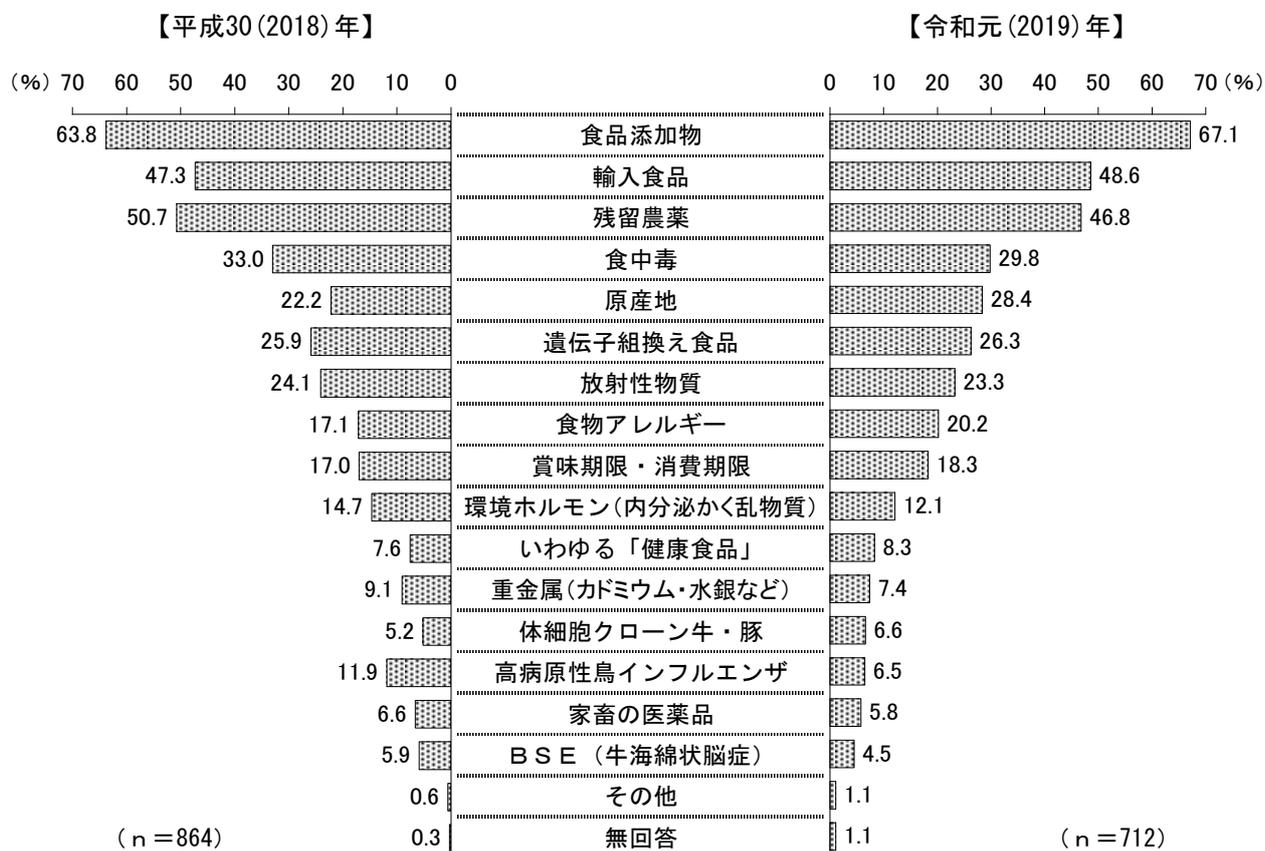
(1-1) 食品の安全性について不安に思うもの

(問41で選択肢「大いに感じている」、「多少は感じている」を選んだ方のみお答えください)

問41-1 あなたは、食品の安全性のどのような部分について不安を感じていますか。

次の中から4つまで選んでください。

[n=712]



- ・全体で見ると、「食品添加物」(67.1%)が7割近くで最も高く、次いで「輸入食品」(48.6%)、「残留農薬」(46.8%)、「食中毒」(29.8%)、「原産地」(28.4%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「食品添加物」では〈女性〉(73.4%)が〈男性〉(60.2%)より13.2ポイント高くなっている。「残留農薬」では〈女性〉(50.8%)が〈男性〉(42.4%)より8.4ポイント高くなっている。「食物アレルギー」では〈女性〉(23.4%)が〈男性〉(15.9%)より7.5ポイント高くなっている。「原産地」では〈男性〉(31.8%)が〈女性〉(25.9%)より5.9ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「食品添加物」では〈女性65~69歳〉が84.4%、〈女性70歳以上〉が79.0%と高くなっている。「輸入食品」では〈男性65~69歳〉が75.0%、〈女性65~69歳〉が64.4%と高くなっている。「食中毒」では〈女性30歳代〉が44.4%と高くなっている。「原産地」では〈男性65~69歳〉が46.9%と高くなっている。「遺伝子組換え食品」では〈男性65~69歳〉が40.6%、〈女性50歳代〉が38.0%と高くなっている。
- ・平成30(2018)年の調査結果と比較すると、「原産地」は6.2ポイント増加している。一方、「高病原性鳥インフルエンザ」は5.4ポイント減少している。

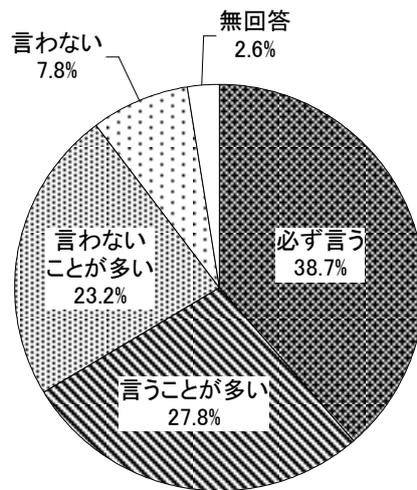
16 食に関する意識と実践について

(1) 食事の際「いただきます」を言っているか

問42 あなたは、食事の際「いただきます」を言いますか。次の中から1つ選んでください。

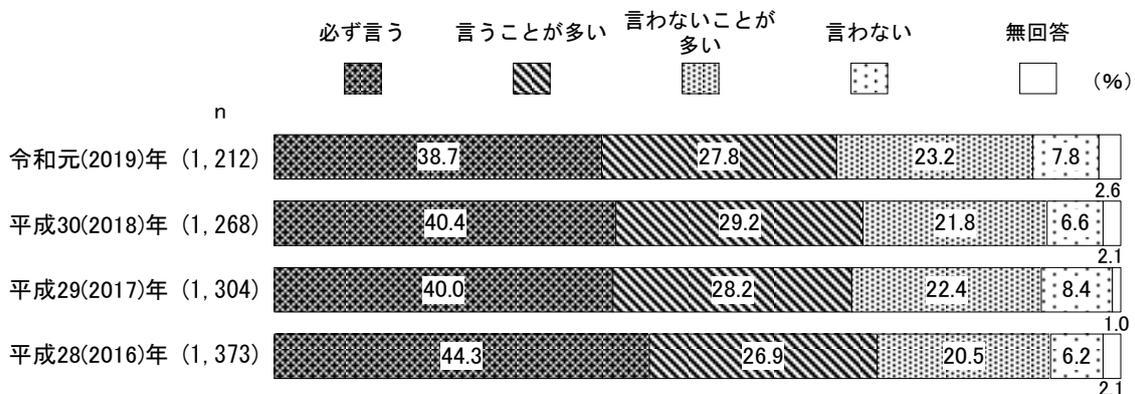
[n=1,212]

1 必ず言う	38.7%	3 言わないことが多い	23.2%
2 言うことが多い	27.8%	4 言わない	7.8%
		(無回答)	2.6%



(n=1,212)

- ・全体で見ると、「必ず言う」(38.7%)は4割近くとなっている。「言うことが多い」(27.8%)は3割近くとなっており、「言わないことが多い」(23.2%)は2割を超えている。
- ・性別で見ると、「必ず言う」では〈女性〉(46.2%)が〈男性〉(31.0%)より15.2ポイント高くなっている。「言わないことが多い」では〈男性〉(27.2%)が〈女性〉(19.8%)より7.4ポイント高くなっている。「言わない」では〈男性〉(11.9%)が〈女性〉(4.0%)より7.9ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「必ず言う」では〈女性30歳代〉が56.8%、〈女性20歳代〉が55.6%と高くなっている。「言わないことが多い」では〈男性65～69歳〉が32.3%と高くなっている。

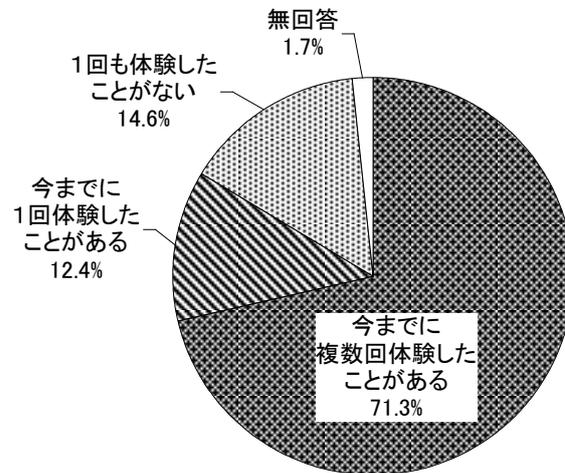


- ・過去の調査結果と比較すると、平成30(2018)年と比べて大きな傾向の違いはみられない。

(2) 農業体験をした経験

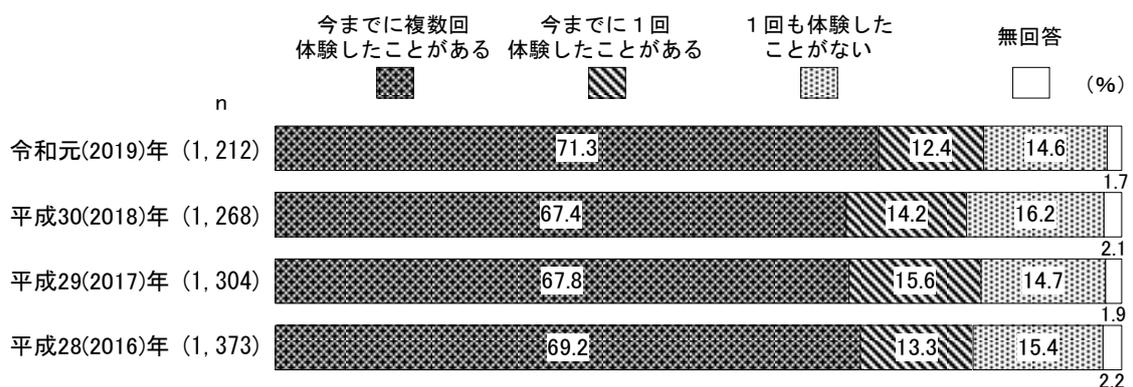
問43 あなたは、田植えやいちご狩り、乳搾りなどの農業体験をしたことがありますか。
次の中から1つ選んでください。

[n=1,212]



(n=1,212)

- 全体で見ると、「今までに複数回体験したことがある」(71.3%)は7割を超えている。「今までに1回体験したことがある」(12.4%)は1割を超えており、「1回も体験したことがない」(14.6%)は1割半ばとなっている。
- 性別で見ると、「今までに複数回体験したことがある」では〈女性〉(75.4%)が〈男性〉(67.8%)より7.6ポイント高くなっている。「1回も体験したことがない」では〈男性〉(17.6%)が〈女性〉(12.0%)より5.6ポイント高くなっている。
- 性/年齢別で見ると、「今までに複数回体験したことがある」では〈女性30歳代〉が86.4%、〈女性50歳代〉が83.7%、〈女性40歳代〉が82.1%と高くなっている。「1回も体験したことがない」では〈男性70歳以上〉が24.0%、〈女性70歳以上〉が22.3%と高くなっている。



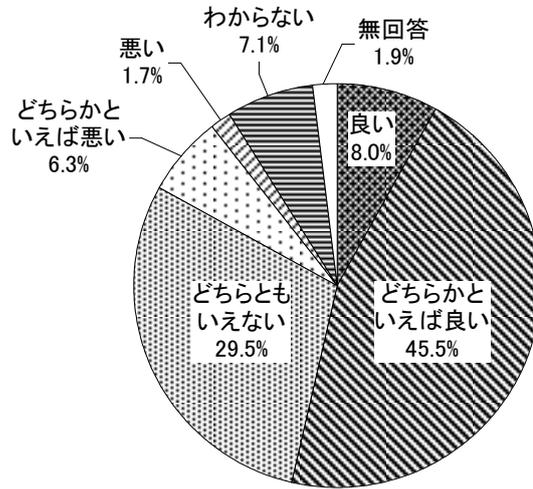
- 過去の調査結果と比較すると、「今までに複数回体験したことがある」が平成30(2018)年より3.9ポイント増加している。

17 犯罪と治安対策について

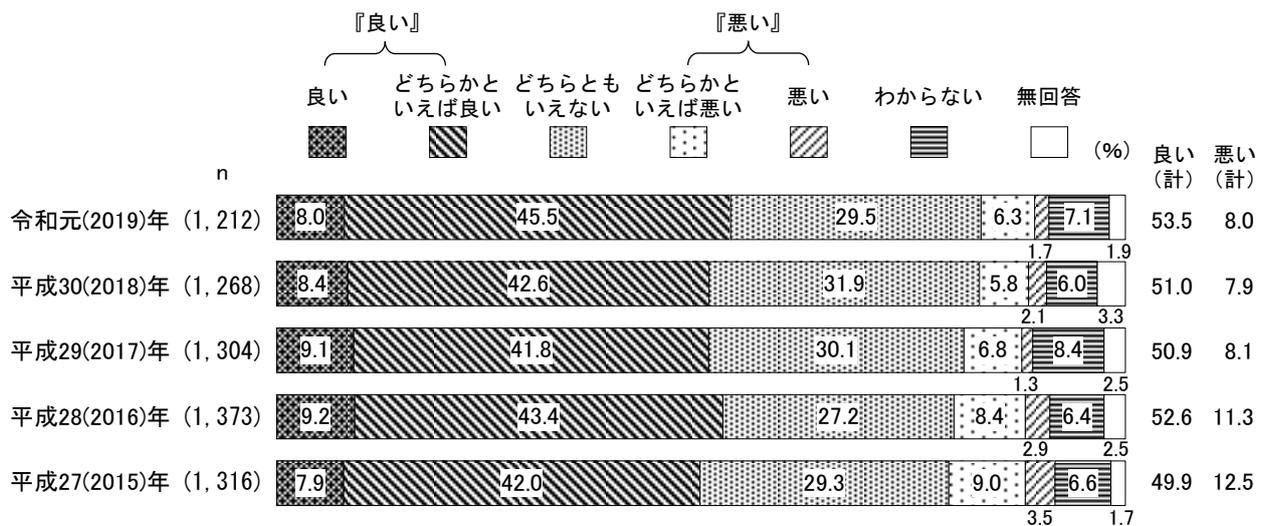
(1) 県内の治安状況

問44 あなたは、県内の治安についてどう感じますか。次の中から1つ選んでください。

[n = 1, 212]



- ・全体で見ると、「良い」(8.0%)と「どちらかといえば良い」(45.5%)の2つを合わせた『良い』(53.5%)は5割を超えている。一方、「どちらかといえば悪い」(6.3%)と「悪い」(1.7%)の2つを合わせた『悪い』(8.0%)は1割近くとなっている。また、「どちらともいえない」(29.5%)は3割となっている。
- ・性別で見ると、『良い』では〈女性〉(56.5%)が〈男性〉(50.6%)より5.9ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、『良い』では〈女性60～64歳〉が70.8%、〈女性65～69歳〉が66.2%と高くなっている。一方、『悪い』では〈男性40歳代〉が16.9%となっている。

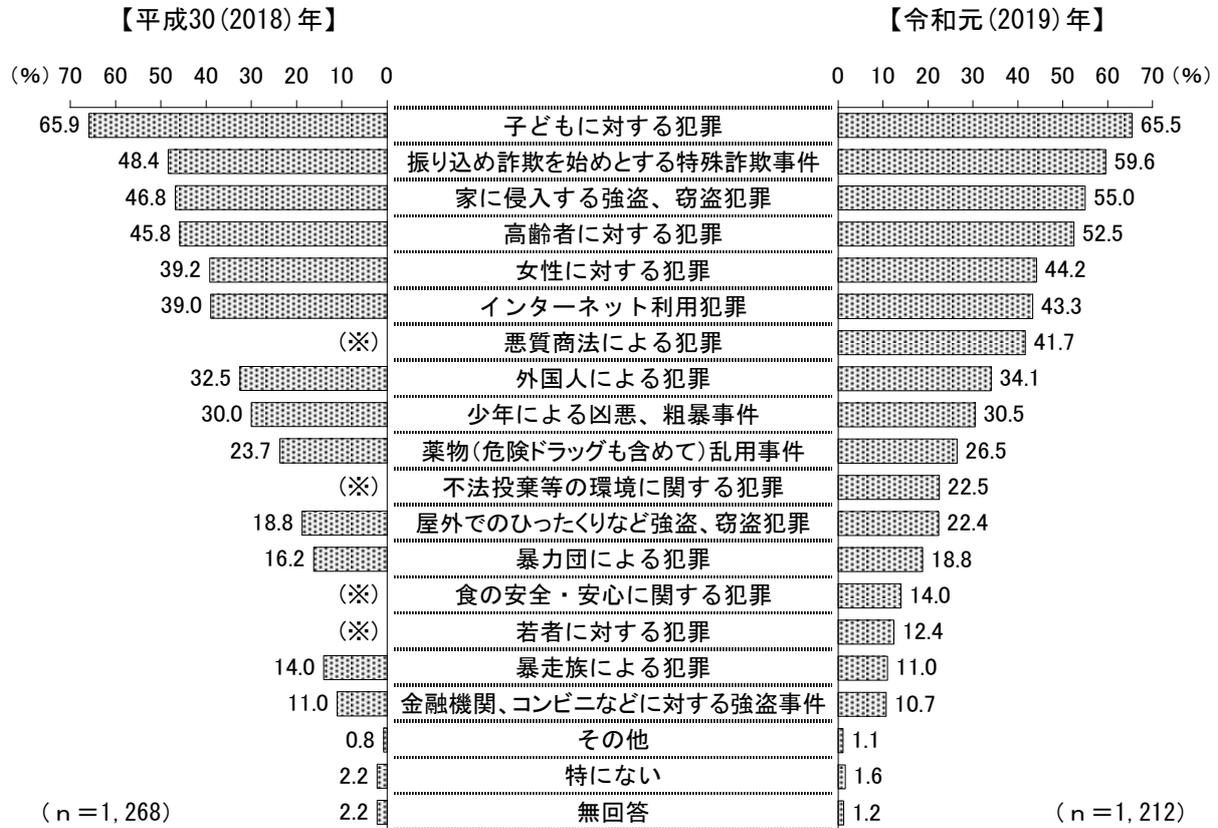


- ・過去の調査結果と比較すると、『良い』が平成30(2018)年より2.5ポイント増加している。

(2) 不安を感じる犯罪

問45 あなたは、どのような犯罪に不安を感じますか。次の中からいくつでも選んでください。

[n = 1, 212]



(※)「悪質商法による犯罪」、「不法投棄等の環境に関する犯罪」、「食の安全・安心に関する犯罪」、「若者に対する犯罪」の4つは、今回調査で追加した選択肢である。

- ・全体で見ると、「子どもに対する犯罪」(65.5%)が6割半ばで最も高く、次いで「振り込め詐欺を始めとする特殊詐欺事件」(59.6%)、「家に侵入する強盗、窃盗犯罪」(55.0%)、「高齢者に対する犯罪」(52.5%)、「女性に対する犯罪」(44.2%)、「インターネット利用犯罪」(43.3%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「外国人による犯罪」では〈男性〉(39.3%)が〈女性〉(29.4%)より9.9ポイント高くなっている。「女性に対する犯罪」では〈女性〉(48.6%)が〈男性〉(39.6%)より9.0ポイント高くなっている。「家に侵入する強盗、窃盗犯罪」では〈女性〉(58.7%)が〈男性〉(51.7%)より7.0ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「子どもに対する犯罪」では〈女性30歳代〉が82.7%、〈女性40歳代〉が81.2%と高くなっている。「振り込め詐欺を始めとする特殊詐欺事件」では〈男性65～69歳〉が75.8%、〈女性70歳以上〉が74.3%、〈男性70歳以上〉が74.0%と高くなっている。「家に侵入する強盗、窃盗犯罪」では〈女性30歳代〉が70.4%と高くなっている。「高齢者に対する犯罪」では〈女性70歳以上〉が65.5%、〈男性70歳以上〉が65.3%と高くなっている。「女性に対する犯罪」では〈女性20歳代〉が64.4%、〈女性30歳代〉が61.7%と高くなっている。
- ・平成30(2018)年の調査結果との比較は、選択肢の追加があるため参考にとどまるが、上位6項目については平成30(2018)年と同じ順位となっている。

VERY 
GOOD
LOCAL

とちぎ

令和元（2019）年度

栃 木 県 政 世 論 調 査

調 査 報 告 書（概 要 版）

令和元（2019）年10月

栃木県県民生活部広報課

宇都宮市塙田 1 - 1 - 20
電話（028）623-2158